

平成 24 年 度

専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻

ま え が き

この教育要項は、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻専門科目の授業を受ける学生の皆さんに、平成24年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健学口腔保健衛生学専攻教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成24年 4 月

歯学部口腔保健学科教育委員会

基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

一般教育目標

口腔保健学科では、次のような一般教育目標の基に教育を行っています。

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。
8. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
9. QOLの向上に関わるものづくりの専門家として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。

歯学部長あいさつ

歯学部長 田上 順次

口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の皆さん、進級おめでとう。いよいよ専門科目が本格的に始まります。これからの学習は、一つ一つがすべて皆さんの将来を形成してゆくための糧になるものです。さらに気持ちを充実させて勉学に励んでください。

本専攻の歴史は、1951年に開設された歯科衛生士養成の専門学校に始まります。この間、多くの人材を輩出し、歯科界においてリーダーシップを発揮しておられます。皆さんはすでに業界での地位の確立された大学に入学し、専門教育を受けるのですから、卒業時には当然、皆さんに対する社会的な期待も大きなものになります。その期待にこたえるべく、教育内容は十分に検討したものです。世界中どこと比較しても、胸を張れる教員組織、環境、設備、そして教育内容です。ひとつひとつの科目に真剣に取り組み、達成すべき項目をすべて修得すれば、本学科の卒業生として、どこに出ても自信を持って活躍できるはずです。

グローバル化する社会においても、皆さんに対する期待は増すばかりです。社会の期待にこたえて専門職業人として、歯科医療に貢献する、歯科保健衛生学に貢献する、そして業界のリーダーとして、未来を築いていってくださることを願っています。皆さんの将来は輝かしい可能性に満ちています。どうか先生方を信頼し、同胞とともに助けあいながら、力いっぱい勉学に励み、自分の人生を切り開く基盤を形成してください。

目 次

まえがき

基本的理念

一般教育目標

歯学部長あいさつ

東京医科歯科大学歯学部履修規則	1
東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規	4
東京医科歯科大学歯学部専門科目履修規則（平成22年入学者）	9
東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成21年以前入学者）	13
東京医科歯科大学歯学部試験規則	17
東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規	20
東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成22年入学者）	21
東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成21年以前入学者）	25

学生周知事項等

歯科衛生士国家試験ならびに社会福祉士国家試験について	29
学生周知事項	32
スチューデントセンター（5号館2階）について	34
保健管理センター（5号館2階）について	34
1号館・2号館・7号館の管理、使用について	35
附属病院内での注意事項	36
視聴覚研修スペースについて	37
歯学部リフレッシュルームについて	38
歯学部附属病院の機構	39
湯島キャンパス案内	41
1号館西5～8階平面図	42
7号館平面図	43
1号館の配置	46
歯科棟の配置	47
M & Dタワーの配置	48
10号館の配置	48
平成24年度歯学部口腔保健学科専門科目授業計画表	49
歯学部口腔保健学科科目責任者連絡先一覧	50

第1学年 履修ユニット

口腔保健と専門職	51
歯科衛生学概論Ⅰ	53
歯科衛生学概論Ⅱ	55
臨床体験実習	57
人体の構造と機能Ⅰ	59

栄養と代謝	61
公衆衛生学	63
社会保障 I	65

第2学年 履修ユニット

臨床体験実習	67
科学英語 I	69
科学英語 II	71
人体の構造と機能 II	73
歯・口腔の構造と機能	76
歯の形態学実習	79
病理学総論	82
口腔病理学	84
薬理学	86
病原微生物と生体防御	88
口腔保健衛生基礎科学実習	90
口腔衛生学	92
口腔健康科学	94
社会保障 II	96
保健医療サービス	100
歯科保存学	103
小児歯科学	106
歯科補綴学	109
口腔外科・歯科麻酔学	112
口腔疾患予防学の基礎	115
医学一般 I	122
健康教育の基礎 I	125
健康教育の基礎 II	127
食生活教育	129
臨床検査	132
生体材料学	134
臨床口腔保健衛生基礎学	136
臨床口腔保健衛生応用学 I	140
歯科衛生過程基礎演習	144
歯科衛生過程専門演習	146
相談援助の基盤と専門職 I	148
現代社会と福祉 I	151
現代社会と福祉 II	153
ソーシャルワーク I	155

第3学年 履修ユニット

再建系歯科医学	159
外科系歯科医学	163
発達育成系・障害者歯科医学	166
先端歯周病予防学	168
口腔疾患予防学実習	171
医学一般	175
コミュニケーション論Ⅱ	178
ヘルスカウンセリング論	180
臨床口腔保健衛生基礎学実習	182
顎口腔機能訓練法	185
発達育成系口腔保健衛生臨床実習	188
成人口腔保健衛生臨床実習Ⅰ	190
地域口腔保健衛生臨床実習	193
特論（卒業研究）	195
高齢者に対する支援と制度Ⅱ	198
地域福祉の理論と方法Ⅰ	200
地域福祉の理論と方法Ⅱ	202
保健医療サービス	204
社会調査の基礎	207
相談援助の理論と方法	209
社会福祉相談援助演習	213
社会福祉相談援助実習	215
社会福祉相談援助実習指導	216

編入3学年 履修ユニット

口腔保健衛生基礎科学実習	219
--------------	-----

第4学年 履修ユニット

社会保障論Ⅱ	221
ヘルスカウンセリング特論	223
介護概論	225
歯科口腔介護	227
顎口腔機能リハビリテーション	230
発達育成系口腔保健衛生臨床実習	232
成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ	234
高齢者口腔保健衛生臨床実習	237
障害者口腔保健衛生臨床実習	239
地域口腔保健衛生臨床実習	241
高齢者・訪問口腔保健衛生臨床実習	243

選択臨床・臨地実習	246
特論（卒業論文）	248
就労支援サービス	250
福祉行財政と福祉計画	252
福祉サービスの組織と経営	254
社会福祉相談援助実習	256
社会福祉相談援助実習指導	257

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成23年以降入学者）

〔平成22年3月30日〕
規則第41号

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（専門科目の履修）

第2条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

（授業）

第3条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

（1単位当たりの授業時間）

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|--------|------|
| (1) 講義 | 15時間 |
| (2) 演習 | 30時間 |
| (3) 実習 | 45時間 |

2 前項第3号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|-------------|------|
| (1) 看護学専攻 | 45時間 |
| (2) 検査技術学専攻 | 30時間 |

（編入学者、転入学者の単位認定）

第5条 学則第12条から第18条の2までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。

5 学習の評価は、別表2のとおりとする。

6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。

7 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

(卒業認定)

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第11条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。
- 4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附 則（平成23年3月4日規則第15号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成24年2月3日規則第19号）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規

平成23年12月7日
歯学部長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第11条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学習の評価)

第2条 定期試験及び追試験の成績については、担当教員が100点満点で採点し、授業科目ごとに履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

2 第1項の学習の評価に、平常の学習の成果を加味することができる。

(必修科目及び仮進級)

第3条 履修規則別表3に掲げる科目は、必修科目とする。

2 必修科目に係る試験の不合格者については、仮進級を認めない。

(G P)

第4条 G P (Grade Point) で成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0
成績区分	90点以上	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下

2 選択科目の履修を届け出た後、単位を認定されなかった科目については、未履修科目とし、G P A (Grade Point Average) の計算式には算入しない。

(補則)

第5条 この内規に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

附 則

1 この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

2 平成23年3月31日において現に歯学部口腔保健学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1

口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻）教育課程

区分	授業科目	単位数		履修学年											
				1年		2年		3年		4年					
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択				
基礎分野	科学英語Ⅰ	1				○									
	科学英語Ⅱ		1					○							
専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病	6			○	○	○								
	歯・口腔の構造と機能	4				○	○								
	口腔保健衛生基礎科学実習	1				○	○								
	疾病の成り立ちと回復過程の促進	6				○	○								
	公衆衛生学	1			○										
	社会保障Ⅰ	2			○										
	社会保障Ⅱ	2				○									
専門分野	保健医療サービス	2					○								
	口腔保健と専門職	1		○											
	歯科衛生学概論Ⅰ	1			○										
	歯科衛生学概論Ⅱ	1			○										
	口腔衛生学	1				○									
	臨床歯科医学	8				○	○	○	○						
	口腔疾患予防学	8				○	○	○	○						
	口腔健康科学	1				○									
	健康教育の基礎	2				○	○								
	食生活教育	1					○								
	高齢者福祉	2							○						
	社会調査の基礎	2							○						
	健康教育の企画と実践	3							○	○	○				
	生体材料学	1				○									
	臨床検査	1					○								
	歯科薬理・薬剤学	1							○						
	介護福祉	2							○						
	歯科口腔保健衛生基礎学	2				○									
	臨床口腔保健衛生応用学Ⅰ	2					○								
	臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ	2							○	○					
歯科衛生臨床実習	13								○	○	○				
歯科衛生臨地実習	5								○	○	○				

	歯科衛生臨床・臨地応用実習	1											○	○
	全身と口腔の健康評価	1											○	
	顎口腔機能の育成と回復	1												○
統合分野	臨床体験学習	1		○	○	○								
	歯科衛生過程	2			○	○	○	○						
	卒業研究	4						○	○	○	○			
	児童・家庭福祉Ⅰ	1						○						
	障害児・者福祉Ⅰ	1						○						
	地域福祉Ⅰ	1						○						
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1										○		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1							○					
	相談援助演習Ⅰ	1								○				
	相談援助演習Ⅱ	2										○		
展開分野	口腔保健と国際協力	2							○					
	口腔疾患予防学演習	1											○	○
	口腔健康教育演習	1											○	○
	臨床口腔保健衛生基礎学演習	1											○	○
	児童・家庭福祉Ⅱ	1							○					
	障害児・者福祉Ⅱ	1							○					
	地域福祉Ⅱ	1							○					
	公的扶助	2												○
	コミュニティーワーク	2												○
	相談援助の基盤と専門職Ⅲ	2										○		
	相談援助演習Ⅲ	2												○
	現代社会と福祉Ⅰ	2					○							
	現代社会と福祉Ⅱ	2						○						
	ソーシャルワークⅠ	4					○	○						
	ソーシャルワークⅡ	4							○	○				
	権利擁護	1							○					
	社会福祉行政	1							○					
	福祉計画	1												○
	司法福祉	1											○	
	福祉運営管理	2												○
就労支援サービス	1												○	
相談援助実習	4									○	○	○	○	
相談援助実習指導	2									○	○	○	○	
計	102	43												

別表 2

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

別表 3

口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻）

（1）第1学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第2学年に進級することができない。

公衆衛生学、社会保障Ⅰ、口腔保健と専門職、歯科衛生学概論Ⅰ、歯科衛生学概論Ⅱ、
（第1学年に実施される授業を対象とする）人体の構造と機能及び疾病、臨床体験実習

（2）第2学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年に進級することができない。

科学英語Ⅰ、人体の構造と機能及び疾病、歯・口腔の構造と機能、口腔保健衛生基礎科学実習、疾病の成り立ちと回復過程の促進、社会保障Ⅱ、保健医療サービス、口腔衛生学、口腔健康科学、健康教育の基礎、食生活教育、生体材料学、臨床検査、歯科口腔保健衛生基礎学、臨床口腔保健衛生応用学Ⅰ、臨床体験実習、相談援助の基盤と専門職Ⅰ、
（第2学年に実施される授業を対象とする）臨床歯科医学、口腔疾患予防学、歯科衛生過程

（3）第3学年の前期までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。

臨床歯科医学、口腔疾患予防学、高齢者福祉、社会調査の基礎、歯科薬理・薬剤学、介護福祉、臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ、歯科衛生過程、児童・家庭福祉Ⅰ、障害児・者福祉Ⅰ、地域福祉Ⅰ、相談援助の基盤と専門職Ⅱ、相談援助演習Ⅰ、
（第3学年前期に実施される授業を対象とする）健康教育の企画と実践、歯科衛生臨床実習、歯科衛生臨地実習、卒業研究

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年入学者）

〔平成22年3月30日〕
規則第41号

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学医学部・歯学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目）

第2条 授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

（全学共通科目の履修）

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号）の定めるところによる。

（専門科目の履修）

第4条 専門科目の履修については、各教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

（専門科目の履修要件）

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。ただし、医学部医学科、医学部保健衛生学科看護学専攻は、この限りでない。

（授業）

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

（1単位当たりの授業時間）

第7条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医学科

ア 講義及び演習	15～30時間
イ 実習	30～45時間

(2) 保健衛生学科

ア 講義	15時間
イ 演習	30時間
ウ 実習	45時間
エ 臨地実習	
看護学専攻	45時間
検査技術学専攻	30時間

(3) 歯学科

ア 講義及び演習	15～30時間
イ 実習	30～45時間

(4) 口腔保健学科

ア 講義及び演習	15～30時間
イ 実習	30～45時間

（編入学者、転入学者の単位認定）

第8条 学則第12条から第18条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第9条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

5 試験は、次のとおりとする。

(1) 医学部

定期試験，科目試験，共用試験，追試験及び再試験

(2) 歯学部歯学科

ユニット試験，共用試験，追試験及び再試験

(3) 歯学部口腔保健学科

期末試験，中間試験，追試験及び再試験

6 学習の評価は、別表2のとおりとする。

7 単位の認定は、学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。

8 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第12条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあつては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずることがある。

(卒業認定)

第13条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第14条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。

3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。

4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。

5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

(2) 口腔保健学科専門科目学科課程表
平成22年専門科目履修開始者

授業科目	ユニット名	2年				3年				4年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
科学英語 I	科学英語 I	○											
科学英語 II	科学英語 II				○								
人体の構造と機能 II	人体の構造と機能 II	○											
	歯・口腔の構造と機能	○		○									
疾病の成立過程と生体防御	病理学総論	○											
	口腔病理学			○									
薬理・薬剤学	薬理・薬剤学	○											
	関係法規・衛生行政	○											
現代社会と福祉 I	現代社会と福祉 I	○											
現代社会と福祉 II	現代社会と福祉 II		○		○								
社会保障論 II	社会保障論 II										○		
口腔健康科学	口腔健康科学	○											
口腔保健衛生学原論 II	口腔保健衛生学原論 II	○											
臨床歯科医学	保存系歯科医学			○									
	再建系歯科医学					○							
	外科系歯科医学					○							
	発達育成系・障害者歯科医学			○		○							
口腔疾患予防学	口腔疾患予防学	○											
顎口腔機能育成学	顎口腔機能育成学			○									
先端歯周病予防学	先端歯周病予防学					○							
口腔疾患予防学実習	口腔疾患予防学実習	○		○		○							
口腔健康統計学・情報処理論	口腔健康統計学・情報処理論			○									
口腔健康教育	口腔健康教育	○											
口腔健康教育実習	口腔健康教育実習	○		○									
食生活教育	食生活論	○											
	栄養指導	○											
医学一般	医学一般			○		○							
口腔と全身の健康評価	生活習慣と疾患	○											
	口腔と全身の健康評価・臨床検査			○									
保健行動科学	コミュニケーション論 II					○							
	ヘルスカウンセリング論					○							
ヘルスカウンセリング特論	ヘルスカウンセリング特論										○		
臨床口腔保健衛生基礎学	臨床口腔保健衛生基礎学	○											
	歯科放射線学	○											
臨床口腔保健衛生基礎学実習	歯科生体材料学												
	臨床口腔保健衛生基礎学実習			○		○							
介護概論	介護概論										○	○	
歯科口腔介護	歯科口腔介護										○	○	○
顎口腔機能訓練法	顎口腔機能リハビリテーション										○		
	顎口腔機能訓練法					○							
口腔保健衛生臨床実習	発達育成系口腔保健衛生臨床実習							○					
	成人口腔保健衛生臨床実習 I							○					
	成人口腔保健衛生臨床実習 II									○			
	高齢者口腔保健衛生臨床実習									○		○	
	障害者口腔保健衛生臨床実習									○		○	
地域口腔保健衛生臨地実習	地域口腔保健衛生臨地実習									○		○	
	高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習									○		○	
選択臨床・臨地実習	選択臨床・臨地実習									○		○	
口腔保健衛生基礎科学実習	口腔保健衛生基礎科学実習	○		○									
特論(卒業研究)	特論(卒業研究)									○		○	
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度			○									
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I			○									
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II					○							
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I	○											
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 II	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 II		○	○									
高齢者に対する支援と制度 I	高齢者に対する支援と制度 I					○							
高齢者に対する支援と制度 II	高齢者に対する支援と制度 II						○						
地域福祉の理論と方法 I	地域福祉の理論と方法 I					○							
地域福祉の理論と方法 II	地域福祉の理論と方法 II						○		○				
保健医療サービス	保健医療サービス								○				
就労支援サービス	就労支援サービス											○	
更生保護制度	更生保護制度											○	
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度									○			
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画											○	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営											○	
社会調査の基礎	社会調査の基礎								○				
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職						○						
相談援助の理論と方法	相談援助の理論と方法							○					
社会福祉相談援助演習	社会福祉相談援助演習								○	○			
社会福祉相談援助実習指導	社会福祉相談援助実習指導								○	○		○	
社会福祉相談援助実習	社会福祉相談援助実習									○		○	

注) 選択科目は、年度によって開講しない場合がある。

放送大学単位互換制度利用科目については、履修時期が変更になる場合がある。

(2) 口腔保健学科
平成22年専門科目履修開始者

進級に関する事項	授 業 科 目
<p>右の授業科目について、第2学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年次の授業科目を履修することができない。</p>	<p>科学英語Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、疾病の成立過程と生体防御、薬理・薬剤学、関係法規・衛生行政、現代社会と福祉Ⅰ、口腔健康科学、口腔保健衛生学原論Ⅱ、口腔疾患予防学、口腔健康統計学・情報処理論、口腔健康教育、口腔健康教育実習、食生活教育、口腔と全身の健康評価、口腔保健衛生基礎科学実習、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ、障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ、高齢者に対する支援と制度Ⅰ</p> <p>(第2学年次に実施される授業を対象とする)</p> <p>医学一般、口腔疾患予防学実習、臨床歯科医学、臨床口腔保健衛生基礎学</p>
<p>右の授業科目について、第3学年次前期までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。</p>	<p>医学一般、臨床歯科医学、口腔疾患予防学実習、保健行動科学、臨床口腔保健衛生基礎学、介護概論、地域福祉の理論と方法Ⅰ</p>
<p>右の授業科目について、第4学年次末までに単位を取得しなければ、卒業することができない。</p>	<p>歯科口腔介護、口腔保健衛生臨床実習、地域口腔保健衛生臨床実習、選択臨床・臨地実習、特論</p>

東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成21年以前入学者）

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学歯学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目）

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

（全学共通科目の履修）

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年規則第 号）に定めるところによるものとする。

（専門科目の履修）

第4条 専門科目における教育課程は、別表1に定めるとおりとする。

（専門科目の履修要件）

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。

（授業）

第6条 専門科目の授業は、講義、演習及び実習とし、必修又は選択とする。

（1単位当たりの授業時間）

第7条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については 15～30時間
- (2) 実習については、30～45時間

（編入学者及び転入学者の単位認定等）

第8条 学則第12条、第13条、第17条及び第18条の規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

- 2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。
- 3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

（再入学の単位認定）

第9条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の本学部における既修得単位は、全学共通科目及び本学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

（編入学者、転入学者、再入学者の在学年限）

第10条 学則第12条、第13条及び第17条から第19条までの規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第11条 履修した授業科目については試験を行う。

2 試験の方法に関しては別に定める。

3 試験を行うことが困難な授業科目については、試験によらず学習の成果をもって、又は指定した課題の報告をもって試験に替えることがある。

4 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

5 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

6 学習の評価に関しては別に定める。

(進級要件)

第12条 学生は、別表2「進級に関する事項」欄に示す要件を満たさなければ、次の学期又は学年の授業科目を履修することができない。

(卒業認定)

第13条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補則)

第14条 この規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は教授会の議を経て別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

平成19~21年度専門科目履修開始者

授業科目	ユニット名	2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
科学英語Ⅰ	科学英語Ⅰ	○					
科学英語Ⅱ	科学英語Ⅱ				○		
人体の構造と機能Ⅱ	人体の構造と機能Ⅱ	○					
疾病の成立過程と生体防御	歯・口腔の構造と機能	○		○			
	病理学総論	○					
	口腔病理学			○			
薬理・薬剤学	薬理・薬剤学	○					
関係法規・衛生行政	関係法規・衛生行政	○					
社会福祉原論Ⅰ	社会福祉原論Ⅰ	○					
社会福祉原論Ⅱ	社会福祉原論Ⅱ		○		○		
社会保健論Ⅱ	社会保健論Ⅱ					○	○
口腔健康科学	口腔健康科学	○					
口腔保健衛生学原論Ⅱ	口腔保健衛生学原論Ⅱ	○					
臨床歯科医学	保存系歯科医学			○			
	再建系歯科医学					○	
	外科系歯科医学					○	
	発達育成系・障害者歯科医学			○		○	
口腔疾患予防学	口腔疾患予防学	○					
顎口腔機能育成学	顎口腔機能育成学			○			
先端歯周病予防学	先端歯周病予防学					○	
口腔疾患予防学実習	口腔疾患予防学実習	○		○			
口腔健康統計学・情報処理論	口腔健康統計学・情報処理論			○			
口腔健康教育	口腔健康教育	○					
口腔健康教育実習	口腔健康教育実習	○		○			
食生活教育	食生活論	○					
	栄養指導	○					
医学一般	医学一般			○			
口腔と全身の健康評価	生活習慣と疾患	○					
保健行動科学	口腔と全身の健康評価・臨床検査			○			
	コミュニケーション論Ⅱ					○	
ヘルスカウンセリング論	ヘルスカウンセリング論					○	
ヘルスカウンセリング特論	ヘルスカウンセリング特論						○
臨床口腔保健衛生基礎学	臨床口腔保健衛生基礎学	○					
	歯科放射線学			○			
臨床口腔保健衛生基礎学実習	歯科生体材料学	○					
	臨床口腔保健衛生基礎学実習	○		○			
介護概論	介護概論						○
歯科口腔介護	歯科口腔介護					○	○
	顎口腔機能リハビリテーション					○	
顎口腔機能訓練法	顎口腔機能訓練法					○	
口腔保健衛生臨床実習	発達育成系口腔保健衛生臨床実習					○	○
	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅰ					○	
	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ					○	
	高齢者口腔保健衛生臨床実習					○	○
地域口腔保健衛生臨地実習	障害者口腔保健衛生臨床実習					○	○
	地域口腔保健衛生臨地実習					○	○
高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習					○	○	
選択臨床・臨地実習	選択臨床・臨地実習					○	○
口腔保健衛生基礎科学実習	口腔保健衛生基礎科学実習	○		○			
特論(卒業研究)	特論(卒業研究)					○	○
公的扶助論	公的扶助論		○				
障害者福祉論Ⅰ	障害者福祉論Ⅰ					○	
障害者福祉論Ⅱ	障害者福祉論Ⅱ					○	○
児童福祉論Ⅰ	児童福祉論Ⅰ	○					
児童福祉論Ⅱ	児童福祉論Ⅱ		○				
老人福祉論Ⅰ	老人福祉論Ⅰ			○			
老人福祉論Ⅱ	老人福祉論Ⅱ					○	
地域福祉論Ⅰ	地域福祉論Ⅰ					○	
地域福祉論Ⅱ	地域福祉論Ⅱ					○	
社会福祉援助技術論	社会福祉援助技術論			○			
社会福祉援助技術演習	社会福祉援助技術演習					○	○
社会福祉援助技術現場実習	社会福祉援助技術現場実習					○	○
社会福祉援助技術現場実習指導	社会福祉援助技術現場実習指導					○	○

注) 選択科目は、年度によって開講しない場合がある。

平成19～21年度専門科目履修開始者

進級に関する事項	授 業 科 目
<p>右の授業科目について、第2学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年次の授業科目を履修することができない。</p>	<p>科学英語Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、疾病の成立過程と生体防御、薬理・薬剤学、関係法規・衛生行政、社会福祉原論Ⅰ、口腔健康科学、口腔保健衛生学原論Ⅱ、口腔疾患予防学、口腔健康統計学・情報処理論、口腔健康教育、口腔健康教育実習、食生活教育、口腔と全身の健康評価、口腔保健衛生基礎科学実習、児童福祉論Ⅰ、老人福祉論Ⅰ</p> <p>(第2学年次に実施される授業を対象とする) 医学一般、口腔疾患予防学実習、臨床歯科医学、臨床口腔保健衛生基礎学</p>
<p>右の授業科目について、第3学年次前期までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。</p>	<p>医学一般、臨床歯科医学、口腔疾患予防学実習、保健行動科学、臨床口腔保健衛生基礎学、障害者福祉論Ⅰ、地域福祉論Ⅰ</p>
<p>右の授業科目について、第4学年次末までに単位の取得しなければ、卒業することができない。</p>	<p>介護概論、歯科口腔介護、口腔保健衛生臨床実習、地域口腔保健衛生臨地実習、選択臨床・臨地実習、特論</p>

東京医科歯科大学試験規則（平成23年以降入学者）

（平成23年4月1日
規則第1号）

（趣旨）

第1条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第2条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第4条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第3項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（C B T）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（O S C E）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

4 共用試験の結果は、公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

2 追試験を受験しようとする者(以下「追試験申請者」という。)は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長(以下「学部長等」という。)に願い出て、許可を受けなければならない。

3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。

4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。

3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。

4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(試験の成績)

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

(成績の報告)

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において不正行為があったときは、学則第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成16年規則202号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成16年規則214号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成23年3月31日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規

平成23年12月7日
歯学部長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則(平成23年規則第1号。以下「試験規則」という。)第12条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(試験の種類)

第2条 試験規則第5条に規定する定期試験とは、期末試験及び中間試験とする。

(期末試験及び中間試験)

第3条 期末試験とは、履修を修了した授業科目及び授業科目を構成するユニット(以下「ユニット」という。)について定期的に行う試験をいう。

2 中間試験とは、履修中の授業科目及びユニットについて適宜行う試験をいう。

3 期末試験及び中間試験の実施時期については、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻(以下、「各専攻」という。)において別に定める。

(追試験)

第4条 追試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

(再試験)

第5条 定期試験に係る再試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

(補則)

第6条 この内規に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

附 則

1. この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

2. 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学科の在学者となった者(以下「在学者」という。)及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成22年入学者）

平成16年4月1日
規則第214号

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規則は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則41号）第11条第8項の規定に基づき、歯学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

第2章 歯学部歯学科

（試験の種類）

第2条 試験は、ユニット試験、共用試験、臨床能力判定試験とする。

（ユニット試験）

第3条 ユニット試験とは、履修規則第4条別表1（4）の表において定める授業科目（以下「モジュール」という。）におけるユニット終了時に行う試験をいう。

- 2 ユニット試験の実施日時は、原則として各ユニットの最終日に行う。
- 3 ユニット試験の受験資格は、講義は3分の2以上、実習は4分の3以上の出席を原則として、各ユニットで定める。
- 4 ユニット試験に係る追試験（疾病、負傷その他止むを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対して、行う試験をいう。）、及び再試験（ユニット試験又は追試験を受験し不合格となった者に対して、改めて行う試験をいう。）は、学年末の再試験期間等において実施する。

（共用試験）

第4条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいう。

- 2 共用試験は第5学年前期終了後に実施する。なお、試験時日時は試験実施日の3週間前までに公示する。
- 3 共用試験を受験できる者は、第5学年前期に開講されるモジュール内のユニットの単位を全て修得している者とする。
- 4 共用試験の合格基準は別に定める。

（臨床能力判定試験）

第5条 臨床能力判定試験とは、第6学年末に行う包括臨床実習終了時OSCE及び臨床推論能力試験（症例発表会）をいう。

- 2 臨床能力判定試験については、別に定める。

（成績の報告）

- 第6条 モジュール担当教員は、ユニットごとの成績に基づき、平常授業態度等を加味し、所定の採点表に評点結果を記入して所定の期日まで歯学科長に報告しなければならない。
- 2 成績の評点は、100点満点とする。
 - 3 学習の評価は、履修規則第11条第6項別表2による。
 - 4 再試験の評点は、60点を限度とする。

第3章 歯学部口腔保健学科

(試験の種類)

- 第7条 試験は、期末試験、追試験、中間試験及び再試験とする。
- 2 期末試験は、履修を修了した授業科目について定期的に行う試験をいう。
 - 3 追試験は、疾病、負傷その他止むを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対して、その授業科目について行う試験をいう。
 - 4 中間試験は、履修中の授業科目について適宜行う試験をいう。
 - 5 再試験は、期末試験又は追試験を受験し不合格となった者に対して、その授業科目について改めて行う試験をいう。

(試験の実施時期)

- 第8条 期末試験の実施時期は別に定める。
- 2 追試験は、期末試験終了後1か月以内に行う。
 - 3 中間試験については、別に定める。

(試験の方法)

- 第9条 講義の試験は、筆記試験又は口頭試問により行う。
- 2 演習に関して試験を行う場合は、筆記試験又は口頭試問により行う。
 - 3 実習に関して試験を行う場合は、筆記試験、口頭試問又は実技試験により行う。

(試験実施の公示)

- 第10条 期末試験の日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
- 2 追試験の施行期日は、予め公示する。

(期末試験の受験資格)

- 第11条 期末試験は、講義及び演習については、当該授業科目の講義又は演習総時間数の3分の2以上出席して履修した者、実習については、当該実習総時間数の4分の3以上出席して履修した者でなければ、受験することができない。

(受験の申請)

- 第12条 試験を受験しようとするものは、受験申請書を提出するものとする。ただし、期末試験は、受験申請書の提出を要しない。
- 2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に必要事項を記入し、理由書又は医師の診断書等の証明書類を添えて、当該試験終了後5日以内に口腔保健学科長に提出しなければならない。
 - 3 前項に規定する期日までに追試験の受験申請のない場合は、追試験を受験することができない。
 - 4 再試験は原則として行わない。ただし、期末試験又は追試験を受験し、不合格となっ

た者で平素の履修状況及び出席状況が良好な者に対して、願い出により行うことができる。

- 5 前項ただし書きの試験を願い出る者は、試験結果の発表があった日から起算して5日以内に再試験願いを口腔保健学科長に提出しなければならない。

(追再試験受験の可否)

第13条 口腔保健学科長は、追再試験の受験申請のあった者について、担当教員と協議の上、その可否を決定し、申請者に通知する。

(学習の評価並びに評点)

第14条 学習の評価は、試験の結果並びに実習成績等により行う。

- 2 成績の評点は、100点満点とする。
- 3 学習の評価は、履修規則第11条第6項別表2による。
- 4 期末試験を正当な理由がなく受験しなかった者又は受験申請書を提出して正当な理由なく追試験及び再試験を受験しなかった者は、そのときの当該授業科目の試験結果を不合格とする。
- 5 再試験の評点は60点を限度とする。

(試験結果の公示)

第15条 期末試験、追試験及び再試験の結果は、合否をもって公示する。

(実習・演習の修了認定)

第16条 実習及び演習については、所定の出席率を満たし、かつ次の各号の一に該当する者を当該授業科目の実習又は演習を修了した者と認める。

- (1) 製作品、レポート等(以下「製作品等」という。)の提出を必要とする授業科目の実習又は演習で提出した製作品等について担当教員が合格と判定した者
- (2) 担当教員が行う実習又は演習の試験に合格した者
- (3) その他担当教員が実習又は演習を修了したと判定した者

(卒業研究の修了認定)

第17条 卒業研究については、研究終了後に行う研究成果報告によって合格と判定された者を当該研究を修了した者と認める。

(実習・演習、卒業研究の修了認定の結果の公示)

第18条 実習・演習、卒業研究の修了認定の結果は、合否をもって公示する。

(成績の報告)

第19条 担当教員は、授業科目ごとに所定の採点表に評点結果を記入し所定の期日までに口腔保健学科長に報告しなければならない。

第4章 その他

(罰則)

第20条 試験に関し不正を行った者は、学則第58条の規定により懲戒する。

(その他)

第 2 1 条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 1 6 年 4 月 1 日から施行し、第 3 章の規定以外の規定は、平成 1 5 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学歯学部平成 1 5 年 3 月 3 1 日に在学し、国立大学法人の成立の日において引き続き本学部の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成 1 5 年 4 月 1 日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成 2 2 年 8 月 2 5 日規則第 6 2 号)

- 1 この規則は、平成 2 2 年 8 月 2 5 日から施行し、平成 2 2 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 2 2 年 3 月 3 1 日において現に歯学部在学する者(以下「在学者」という。)及び平成 2 2 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学歯学部試験規則(平成21年以前入学者)

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学歯学部履修規則第11条第2項及び第6項に基づき、歯学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

第2章 歯学部歯学科（平成17年以降専門科目履修開始者）

(試験の種類)

第2条 試験は、ユニット試験、共用試験、臨床能力判定試験とする。

(ユニット試験)

第3条 ユニット試験とは、学則第6条第3項別表（2）専門科目中の歯学部歯学科の表において定める授業科目（以下「モジュール」という。）におけるユニット終了時に行う試験をいう。

2 ユニット試験の実施日時は、原則として各ユニットの最終日に行う。

3 ユニット試験の受験資格は、講義は3分の2以上、実習は4分の3以上の出席を原則として、各ユニットで定める。

4 ユニット試験に係る追試験（疾病、負傷その他止むを得ない理由によりを受験できなかった者に対して、行う試験をいう）、及び再試験（ユニット試験又は追試験を受験し不合格となった者に対して、改めて行う試験をいう）は、学年末の再試験期間等において実施する。

なお、無断でユニット試験を欠席した場合、再試験または追試験を受験できないことがある。

5 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に必要事項を記入し、理由書又は医師の診断書等の証明書類を添えて、当該試験終了後5日以内に歯学科長に提出しなければならない。

6 歯学科長は、追試験の受験申請のあった者について担当教員と協議の上、その可否を決定し申請者に通知する。なお、追試験の施行期日は、予め公示する。

7 ユニット試験、追試験及び再試験の結果は、合否をもって公示する。

(共用試験)

第4条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいう。

2 共用試験は第5学年前期終了後に実施する。なお、試験時日時は試験実施日の3週間前までに公示する。

3 共用試験を受験できる者は、第5学年前期に開講されるモジュール内のユニットの単位を全て修得している者とする。

4 共用試験の合格基準は別に定める。

(臨床能力判定試験)

第5条 臨床能力判定試験とは、第6学年末に行う包括臨床実習終了時OSCE及び臨床推論能力試験（症例発表会）をいう。

2 臨床能力判定試験については、別に定める。

(成績の報告)

第6条 モジュール担当教官は、ユニットごとの成績に基づき、平常授業態度等を加味し、所定の採点表に評点結果を記入して所定の期日まで歯学科長に報告しなければならない。

2 成績の評点は、100点満点とする。

3 成績の評価は、モジュールごとに、秀(90点以上)、優(80点以上)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とし、不可は不合格とする。

4 再試験の評点は、60点を限度とする。

第3章 歯学部口腔保健学科

(試験の種類)

第7条 試験は、期末試験、中間試験、追試験及び再試験とする。

2 期末試験は、履修を修了した授業科目及び授業科目を構成するユニット(以下「ユニット」という。)について定期的に行う試験をいう。

3 中間試験は、履修中の授業科目及びユニットについて適宜行う試験をいう。

4 追試験は、疾病、負傷その他止むを得ない理由により期末試験又は中間試験を受験できなかった者に対して、その授業科目及びユニットについて行う試験をいう。

5 再試験は、期末試験、中間試験、又は追試験を受験し不合格となった者に対して、その授業科目及びユニットについて改めて行う試験をいう。

(試験の実施時期)

第8条 期末試験及び中間試験の実施時期は別に定める。

2 追試験は、期末試験及び中間試験終了後1ヶ月以内に行う。

(試験の方法)

第9条 講義の試験は、筆記試験又は口頭試問により行う。

2 演習に関して試験を行う場合は、筆記試験又は口頭試問により行う。

3 実習に関して試験を行う場合は、筆記試験、口頭試問又は実技試験により行う。

(試験実施の公示)

第10条 期末試験及び中間試験の日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

2 追試験の施行期日は、予め公示する。

(期末試験及び中間試験の受験資格)

第11条 期末試験及び中間試験は、講義及び演習については、当該講義又は演習時間数の3分の2以上出席して履修した者、実習については、当該実習時間数の4分の3以上出席して履修した者でなければ、受験することができない。

(受験の申請)

第12条 試験を受験しようとする者は、受験申請書を提出するものとする。ただし、期末試験及び中間試験は、受験申請書の提出を要しない。

2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に必要事項を記入し、理由書又は医師の診断書等の証明書類

を添えて、当該試験終了後5日以内に口腔保健学科長に提出しなければならない。

- 3 前項に規定する期日までに追試験の受験申請のない場合は、追試験を受験することができない。
- 4 再試験は原則として行わない。ただし、期末試験、中間試験及び追試験を受験し、不合格となった者で平素の履修状況及び出席状況が良好な者に対して、願い出により行うことができる。
- 5 前項ただし書きの試験を願い出る者は、試験結果の発表があった日から起算して5日以内に再試験願いを口腔保健学科長に提出しなければならない。

(追再試験受験の可否)

第13条 口腔保健学科長は、追再試験の受験申請のあった者について、担当教員と協議の上、その可否を決定し、申請者に通知する。

(成績の評価並びに評点)

第14条 成績の評価は、試験の結果並びに実習成績等により行う。

- 2 成績の評点は、100点満点とする。
- 3 成績の評価は、授業科目又はユニットごとに、秀（90点以上）、優（80点以上90点未満）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）、不可（60点未満）とし、不可は、不合格とする。
- 4 期末試験及び中間試験を正当な理由がなく受験しなかった者又は受験申請書を提出して正当な理由なく追試験及び再試験を受験しなかった者は、そのときの当該授業科目又はユニットの試験結果を不合格とする。
- 5 追試験の評点は第2項を準用する。
- 6 再試験の評点は60点を限度とする。

(試験結果の公示)

第15条 期末試験、中間試験、追試験及び再試験の結果は、合否をもって公示する。

(実習・演習の修了認定)

第16条 実習及び演習については、所定の出席率を満たし、かつ次の各号の一に該当する者を当該授業科目又はユニットの実習又は演習を修了した者と認める。

- (1) 製作品、レポート等（以下「製作品等」という。）の提出を必要とする授業科目・ユニットの実習又は演習で提出した製作品等について担当教員が合格と判定した者
- (2) 担当教員が行う実習又は演習の試験に合格した者
- (3) その他担当教員が実習又は演習を修了したと判定した者

(卒業研究の修了認定)

第17条 卒業研究については、研究終了後に行う研究成果報告によって合格と判定された者を当該研究を修了した者と認める。

(実習・演習、卒業研究の修了認定の結果の公示)

第18条 実習・演習、卒業研究の修了認定の結果は、合否をもって公示する。

(成績の報告)

第19条 担当教員は、授業科目又はユニットごとに所定の採点表に評点結果を記入し所定の期日までに口腔保健学科長に報告しなければならない。

第4章 その他

(罰則)

第20条 試験に関し不正を行った者は、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条により懲戒する。

(その他)

第21条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は平成19年7月18日から施行する。

附 則

この規則は平成21年4月1日から施行する。

学生周知事項等

歯科衛生士国家試験ならびに社会福祉士国家試験について

歯科衛生士国家試験

〔試験の概要〕

（試験科目）

人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、歯科衛生士概論、歯科予防処置論、歯科保健指導論、歯科診療補助論

（受験資格）

- （１）文部科学大臣の指定した歯科衛生士学校を卒業した者
- （２）厚生労働大臣の指定した歯科衛生士養成所を卒業した者
- （３）外国の歯科衛生士学校を卒業し、又は外国において歯科衛生士免許を得た者であって、厚生労働大臣が（１）又は（２）に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者

（試験期日）

例年、３月の第１日曜日に行われます。

第２１回（前回）の歯科衛生士国家試験は、平成２４年３月４日（日）に行われました。

（受験手数料）

受験手数料の額は１４,３００円です。

（受験手続）

- １．必要書類
 - ア．受験願書
 - イ．写真
 - ウ．卒業証明書又は卒業見込証明書（受験資格の（１）、（２）に該当する者）

- ２．出願について

出願については、大学で必要書類をとりまとめ、歯科医療研修振興財団に提出します。

なお、受験願書、写真用台紙、受験手数料払込用紙等は、一般財団法人歯科医療振興財団から毎年１０月中旬に各学校・養成所に送付されます。

社会福祉士国家試験

〔試験の概要〕

(試験科目)

人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システム、現代社会と福祉、社会調査の基礎、相談援助の基盤と専門職、相談援助の理論と方法、地域福祉の理論と方法、福祉行財政と福祉計画、福祉サービスの組織と経営、社会保障、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、低所得者に対する支援と生活保護制度、保健医療サービス、就労支援サービス、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度

(受験資格)

- (1) 4年制大学等で指定科目(※)を修めて卒業した者
- (2) 2年制(又は3年制)短期大学等で指定科目を修めて卒業し、指定施設において2年以上(又は1年以上)相談援助の業務に従事した者
- (3) 社会福祉士短期養成施設(6月以上)を卒業(修了)した者
- (4) 社会福祉士一般養成施設(1年以上)を卒業(修了)した者

※指定科目は次のとおり(平成二十年三月二十四日文部科学省・厚生労働省令第三号)

但し、本学科の開講科目は一部名称が異なる。

- (1) 人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システムのうち1科目
- (2) 現代社会と福祉
- (3) 社会調査の基礎
- (4) 相談援助の基盤と専門職
- (5) 相談援助の理論と方法
- (6) 地域福祉の理論と方法
- (7) 福祉行財政と福祉計画
- (8) 福祉サービスの組織と経営
- (9) 社会保障
- (10) 高齢者に対する支援と介護保険制度
- (11) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度
- (12) 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
- (13) 低所得者に対する支援と生活保護制度
- (14) 保健医療サービス
- (15) 就労支援サービス、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度のうち1科目
- (16) 相談援助演習
- (17) 相談援助実習指導
- (18) 相談援助実習

(試験期日)

次回(第25回)の試験は、平成25年1月下旬に行われる予定です。

前回(第24回)の試験は、平成24年1月29日(日)に行われました。

(受験手数料)

受験手数料の額は5,580円です。

(受験手続)

1. 必要書類

ア. 受験申込書

イ. 写真

ウ. 卒業証明書又は卒業見込証明書（受験資格の（1）に該当する者）

2. 出願について

財団法人社会福祉振興・試験センターより本学に出願書類が届いた後、学務部教務課歯学系教務掛が社会福祉士養成課程履修者（4学年）に出願書類を配布します。受験予定者は出願書類を学務部教務課歯学系教務掛に提出してください。

学生周知事項

1. 掲示について

学生へ告知、通知、連絡はすべて掲示板により掲示する。掲示の見落としのないよう十分注意すると共に、1日に1度は掲示を見て不利益をこうむらないように心がけること。(2～4学年用は7号館1階)

2. 学生証について

- (1) 学生証は常に携帯すること。
- (2) 学生証を紛失又は破損等したときは、学務企画課(1号館西1階)に届け出て再交付の手続きをすること。
再交付費用(2,200円)は学生本人の負担とする。
- (3) 学生証は卒業、退学または除籍のときは直ちに学務企画課へ返納すること。
返却出来ない場合は、費用を負担することとする。

3. 学生旅客運賃割引証

- (1) 課外活動又は帰省等でJR線を利用し、乗車区間が片道100kmを超える場合旅客運賃の割引(2割)を受けることができる。
- (2) 学割証の不正使用(第三者への貸与等)は絶対にしないこと。
- (3) 年間使用限度枚数は1人10枚(1回につき2枚まで)
- (4) 私鉄、バス等の利用において通学証明書を必要とする場合は、所定の用紙を貰い持参すること。
- (5) 学生が必要なときは5号館3階談話室にある証明書自動発行機を使用すること。
(利用日時:月曜日～金曜日、8:30～21:00)
(問い合わせ先:学生支援課(内線5077))

4. 証明書等

証明書等は、教務課及び証明書自動発行機にて発行する。

- (1) 教務課歯学系教務掛(1号館西1階)(受付時間 8:30～17:15)

次に掲げるものは、教務課で発行する。

(①と②の交付は、原則として交付願を受理した日から1週間程度要します。)

①成績証明書

②調査書

③英文の在学証明書

④通学証明書(交通機関から請求された場合に限る。)

通学証明書が必要な場合は、歯学系教務掛に問い合わせてください。

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入すること。

- (2) 次に掲げるものは、5号館3階談話室にある自動発行機で発行する。

①在学証明書

②卒業見込証明書(第4学年在籍者のみ。)

(利用日時:月曜日～金曜日、8:30～21:00)

問い合わせ先:学務企画課企画調査掛(内線5074)

5. 住所・氏名等の変更について

本人又は保証人の住所、氏名、電話、本籍等（電話番号を含む。）に変更が生じたときは、速やかに教務掛へ申し出て所定の手続きをすること。

6. 休学、復学、退学、欠席

(1) 授業の欠席

病気その他の事由により欠席した場合は、欠席届を教務課歯学系教務掛（1号館西1階）へ提出すること。
（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。）

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）
また、休学を許可される期間は、通算して2年以内。
（特別の事情があるときは、更に1年以内の休学が許可されることがある。）

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付すること。）

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を受けること。
なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談すること。

7. ネームプレート着用について

歯学部学生であることを明示するために、歯学部・同附属病院では必ず着用すること。
プレートは貸与とし、紛失又は破損した場合は再交付を受けるものとする。この場合は実費負担すること。
学科名と氏名の間のスペースに学年を表示するシール（例「OH4」）を貼ること。シールは歯学系教務掛で配布しているので、汚損したら適宜貼り替えること。

8. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

9. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

- (1) 講義室、実習室、ロッカー室・・・学務部教務課（1号館西1階：内線5411）、歯学部防災センター（歯科棟北1階）
- (2) 上記（1）以外・・・歯学部総務課（歯科棟南2階：内線5406）

10. 授業料の払込について

金融機関の預金口座振替により、授業料を引き落とす。
前期分授業料は4月中に、後期分授業料は10月中に納付すること。

1 1. 湯島キャンパスにおける講義受講に際しての注意事項

- (1) 平日の午前8時30分から午後5時まで歯学部附属病院玄関から出入りすることを原則禁止
- (2) 歯学部建物内へは以下のように出入りすること
 - 1) 聖門↔1号館、2号館、7号館
 - 2) 正門↔1号館、2号館、7号館
 - 3) 御茶ノ水門あるいは丸の内線出口↔歯学部附属病院防災センター（歯学部時間外通用門）
- (3) 白衣又は実習着を着用していない学生は、歯学部附属病院の聖橋側エレベーターを使用すること。
- (4) 臨床実習履修中の学生以外がやむを得ない理由で歯学部附属病院内を移動するときは、私語を慎むこと。
- (5) 白衣又は実習着を着用したまま学外に出ないこと。

1 2. その他

- (1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。
なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。
- (2) 事務の窓口
教務事務・・・・・・・・学務部教務課歯学系教務掛（1号館西1階・内線5411）
授業料の納入・・・・・・・・財務部資金課収入管理掛（1号館西3階・内線5048）
奨学金・授業料免除・・学務部学生支援課学生支援総括掛（1号館西1階・内線5077）

スチューデントセンター（5号館2階）について

1. 開室時間：
9：00～17：00
2. 主な業務：
 - キャンパスライフ全般、生活・修学・就職に関する支援
 - メンタルヘルスやハラスメントに関する相談及びカウンセリング
3. 個別相談：
10：30～17：00

保健管理センター（5号館2階）について

1. 利用可能時間：
8：45～12：00、13：00～17：00
2. 主な業務：
 - 健康相談・処置
（担当医による相談受付時間、10：00～12：00、13：00～15：00）
 - 健康診断書の発行（申込受付時間、8：30～17：00）
 - 健康診断と各種検査、ワクチン接種（年間予定によって行われる）
（「保健管理センター案内」参照）

1号館西・2号館・7号館の管理、使用について

1. 1号館西・2号館・7号館の出入口の施錠について

1号館西出入口	1階正面玄関	終日出入可（防災センター管理）			
	1階東側出入口	解錠 6:00 施錠 18:30			
2号館出入口	2階正面玄関	解錠 7:30 施錠 18:00			
	2階外階段	解錠 7:30 施錠 18:00			
7号館出入口	1階聖門側（1ヶ所）	解錠 7:30 施錠 18:00			
	歯科棟北接続口（東側6か所）	解錠 7:30 施錠 18:00			
	1号館東接続口（2階、3階 2ヶ所）				

消防法の規定により、歯科棟側は避難口のため施錠しても建物内から外へはいつでも出られる。ただし、1号館東接続部（2階、3階）は施錠すると出入りできない。

2. 1号館西・7号館内各室の施錠について

1号館西	講義室	解錠 7:30 施錠 18:00			
	リフレッシュルーム	解錠 7:30 施錠 19:00			
	学生ロッカー室	各人の責任で解・施錠し、防犯に努めること。			
7号館	講義室	解錠 7:30 施錠 17:00			
	リフレッシュルーム	解錠 8:30 施錠 19:30			

3. 1号館西・7号館における講義室の目的外使用について

講義室は、原則として目的外使用は許可しない。

4. 学生のロッカー室（1号館西7階）について

- (1) 2・3年女子は第3ロッカー室、4年女子は第2ロッカー室、男子学生は第1ロッカー室を使用すること。
- (2) ロッカー室は、更衣のほか、休憩室として使用する。
- (3) 各人にロッカーが貸与されるので、丁寧に使用すること。また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状回復すること。
- (4) 各人で錠前を購入して、ロッカーには必ず鍵を閉め、盗難に注意すること。ロッカーでの盗難が多発しているため、とくに貴重品等の管理は厳重にすること。
- (5) ロッカーの上部に私物を置かないこと。置いた場合は、教務掛で撤去する。
- (6) ロッカーの内外部にシール、ポスター等を貼らないこと。
- (7) ロッカー室に飲食した空容器、紙クズ等は散らさないように必ず分別してゴミ箱に捨てること。
- (8) ロッカー室でサークルの集会をしたり、マーじゃん等はしないこと。

5. リフレッシュルーム（1号館西7階）の使用について

- (1) 口腔保健衛生学専攻2～4年生が使用できるほか、口腔保健衛生学専攻1年生も使用することができる。
- (2) 食事・休憩・歯磨きなどの目的で使用する。
- (3) 周囲に迷惑がかからぬよう、お互いに協力して、節度をもって使用すること。
- (4) 注意事項
 - 私物を保管・放置したり、特定の場所の占拠などをしないこと。（放置された私物は、適宜、予告なしに処

分する。)

- ・ エアコンの設定温度に留意し、誰もいないときには止めること。
- ・ 飲食した空容器、紙クズ等は散らさないように必ず分別してゴミ箱に捨てること。
- ・ 洗面台の排水が詰まるので、食べ物のカス等を流さないこと。
- ・ ホワイトボードは学生間の連絡に使用できるほか、教員からの連絡にも使用するので、不要になった書き込みは書いた者が責任をもって消し、不要になった掲示物も掲示した者が撤去すること。

(5) 平日に使用できるが、長期休暇中は平日も施錠されるので、その期間中に使用したい学生は、口腔保健衛生学専攻教員に申し出て解・施錠してもらうこと。

6. 歯学部学生リフレッシュルーム（7号館1、6階）の使用について

- (1) 歯学部在籍する学生が使用することができる。
- (2) 休息・飲食・自己学習・打合せなどの目的で使用する。
- (3) 平日に使用できるが、利用約束を守って使用すること。

(P38参照、問合せ先：教務課歯学系教務掛)

7. 学生用ホワイトボード・掲示板の使用について

- (1) 掲示物の内容については関知しないが、良識をもって掲示すること。
- (2) 掲示期間を過ぎることのないよう自主的に撤去すること。

(ホワイトボードの設置場所……第1～4講義室内、掲示板の設置場所……第3講義室後方)

8. 講義室・実習室の使用について

- (1) 講義室・実習室における飲食は原則として禁止する。
- (2) 講義室の机の上に腰をかけないこと。
- (3) 7号館7階以上は動物実験施設なので感染予防等のため関係者以外の出入りを禁止する。
- (4) 講義室・実習室においては、紙クズ等は散らさないように必ず分別してゴミ箱に捨てること。
- (5) 参考書・ノート等の私物は講義室の中に放置しないこと。(放置された私物は、適宜、予告なしに処分する。)
- (6) 室内は学生用ホワイトボード・掲示板以外に掲示物の添付を禁ずる。
- (7) 講義室・実習室等においては、下駄ばきを厳禁する。

9. スキルラボⅡ（1号館西5階）の使用について

スキルラボⅡには、学生が各自で技術練習できるよう、必要な設備・機器が整備されている。実習時間数には限りがあり、個人に寄って技術の習熟度が異なるので、口腔保健の専門職として臨床上必要な技術を修得するためには日々の研鑽が不可欠である。実習で修得した技能の確認、向上のため、スキルラボⅡを積極的に利用し、主体的に技術の修得に努めること。

附属病院内での注意事項

1. 附属病院内の通行に際しては、特に患者さんに配慮すること。
2. 附属病院内の患者待合室での休憩は差し控えること。
3. 附属病院内では、つっかけ・スリッパ等の使用を禁止する。

視聴覚研修スペースについて

7号館6F「視聴覚研修室・歯学部学生リフレッシュルーム」の半分は、自己学習等に使用できるよう、備付PCが10台設置されている。また、無線LAN付の個人PCにより学内LANへの接続も可能である。

施設を利用する場合、下記の注意事項を厳守すること。

1. 利用時間

平日 午前8時30分～午後7時30分

2. 利用する上での注意事項

- (1) きれいに、清潔に利用すること。
- (2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
- (3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任となる）。
- (4) 禁煙とする。
- (5) 備付の機器の使用にあたっては丁寧に行い、故障・不具合があった場合は、教務課に連絡すること。
- (6) 共同利用施設であることを認識し、他の利用者の迷惑になるような行為をしないこと。
- (7) 無線LAN等による学内LANへの接続方法については本学HP、図書館情報メディア機構内のマニュアルを参照すること
http://www2.tmd.ac.jp/cmn/lib/using_lan.pdf

<付記>

本スペースの他、図書館情報メディア機構内「情報検索室」にも同様に使用できるPCがある。

歯学部リフレッシュルームについて

7号館1F及び6Fには、学生の休息、自己学習等での使用を目的としたリフレッシュスペースが設けられている。この施設では無線LANを利用して、学内LANへの接続も可能である。

施設を利用する場合は、下記の注意事項を厳守すること。

1. 利用時間

平日 午前8時30分～午後7時30分

2. 利用する上での注意事項

- (1) きれいに、清潔に利用すること。
- (2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
- (3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任となる）。
- (4) 禁煙とする。
- (5) 本学学生としてあるまじき行為を行った場合、大学の懲戒規定にかかるとともに、他の学生を含め、当施設の利用を全面的に禁止することが有り得ることを念頭に置き、使用すること。
- (6) 他に使用している学生を考慮し、騒がないこと。
- (7) ゴミの始末は各自で行うこと。

歯学部附属病院の機構

歯学部附属病院は、患者の診療を通じて歯学の教育と研究を行う場である。しかし、最近では社会の要請にも答える必要から、歯科医療における模範的診療機関としての使命も課せられている。

1. 診療科

歯科病棟	8階
インプラント外来 歯科麻酔外来	7階
口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来・言語治療外来	6階
むし歯外来 歯周病外来	5階
第一総合診療室 第二総合診療室 頭頸部心療外来 顎関節治療部	4階
クリーンルーム歯科外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 義歯外来	3階
矯正歯科外来 小児歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	2階
歯科総合診療部 スペシャルケア外来（高齢者） スペシャルケア外来（障害者） 息さわやか外来	1階
歯科放射線外来	地下1階

2. 病棟（8階）

入院患者のために、60床のベッドとそれに必要な処置室、記録室等附帯施設が完備され、基準看護のもとに、日夜に亘る診療体制が敷かれている。

3. 薬剤部（1階）

ここには数名の薬剤師が配置されており、薬剤に関する業務、すなわち、調剤、製剤をはじめ、薬品の管理と情報の収集、伝達のみならず、臨床実習を行う学生に対して処方箋の取扱いその他の教育も行われている。

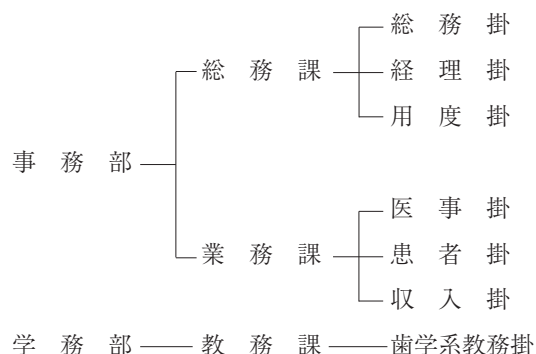
4. 医療技術部門

医療技術部門として次の2つが設けられている。

(1) 看護部	病院の看護業務を一本化するために看護部として独立させ、看護部長の統率のもとに80数名の看護婦が各診療科や病棟等に配置されている。
(2) 歯科衛生保健部	歯科診療における歯科健康教育・歯科予防処置および歯科診療補助を行うために室として位置づけ、約30名の歯科衛生士が口腔ケア外来など関係診療部門に配置されている。

5. 事務部門

事務部門は次のような組織になっている。



歯学部の実務業務は総務課と業務課の両者の協力によって遂行される。また学生は学務部教務課歯学系教務掛を通じて病院内で勉学できるようになっている。また、患者は全て業務課を経て受診するように決められている。なお、患者の歯科技工に用いる歯科材料は医事掛材料室から給付される。

6. 病院の管理運営

病院長が病院の管理運営を統括し、病院は病院長、各科長、各部長によって構成される病院運営会議によって運営される。また、学生の臨床教育については、各臨床教授で構成される臨床教育会議および歯学科教育委員会において討議される。

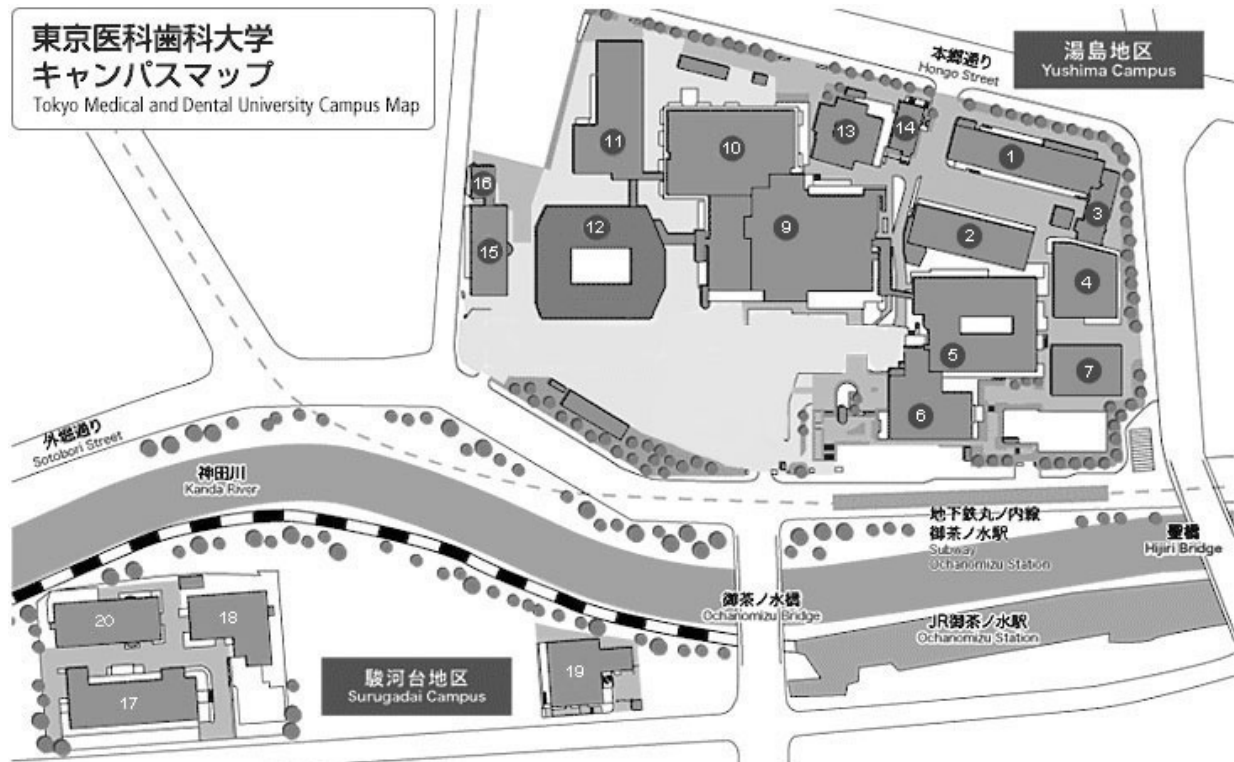
7. 第1、第2総合診療室（4階）

第1総合診療室は学生臨床実習の場として、成人における一口腔単位の総合歯科診療が行われている。学生には歯科診療用ユニットと技工機（総合技工室、5階）が配当される。なお、第2総合診療室では、臨床研修医の総合研修が行われている。

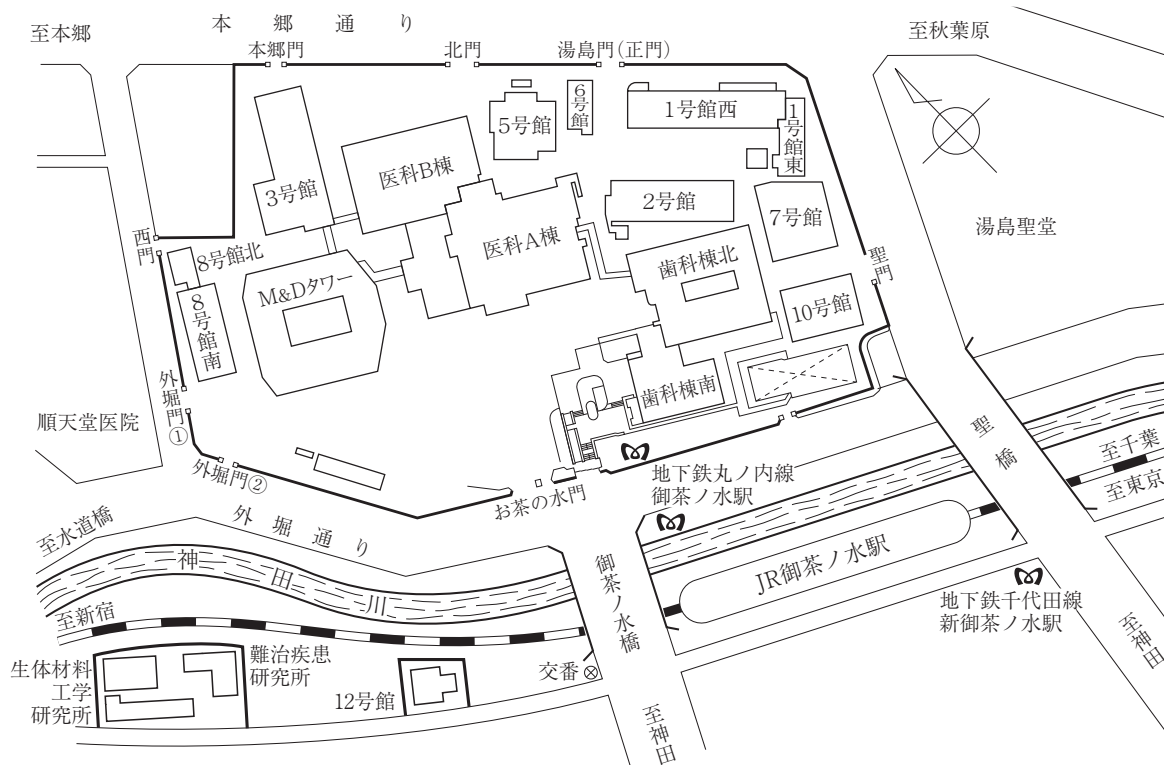
8. クリーンルーム歯科外来（3階）

血液・唾液・その他を媒体として院内感染を引き起こす可能性のある病原微生物（肝炎ウイルス、HIV、MRSAなど）を有して、本院を訪れる患者の数は極めて多い。そこで院内感染のリスクを分散しないために、これらの患者のうち、内科主治医等により疾患の管理がなされており、外来診療に耐え得る患者の一般歯科診療を行う施設としてクリーンルーム歯科外来が設けられている。

湯島キャンパス案内



- | | | |
|----------------|------------|------------------------|
| 1. 1号館西 | 9. 医科A棟 | 16. 8号館北 |
| 2. 2号館 | 10. 医科B棟 | 17. 生体材料工学研究所 |
| 3. 1号館東 | 11. 3号館 | 18. 難治疾患研究所駿河台棟 |
| 4. 7号館・動物実験施設棟 | 12. M&Dタワー | 19. 12号館 |
| 5. 歯科棟北 | 13. 5号館 | 20. 看護師宿舎
(レジデンス茗芳) |
| 6. 歯科棟南 | 14. 6号館 | |
| 7. 10号館 | 15. 8号館南 | |

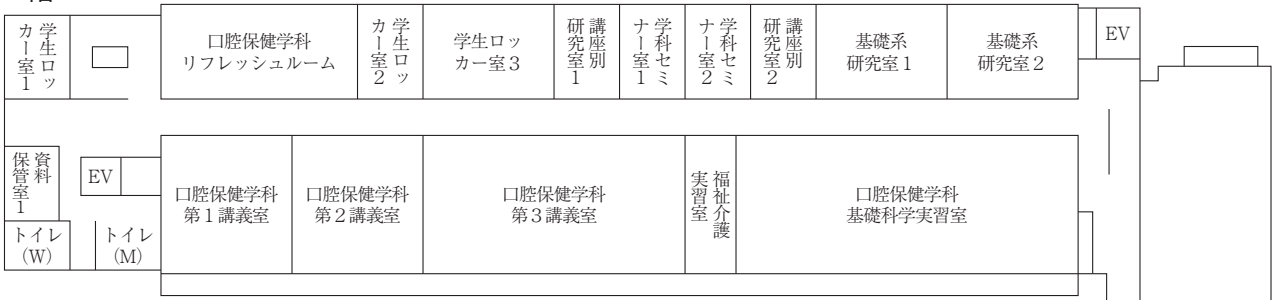


1号館西5～8階 平面図

8階



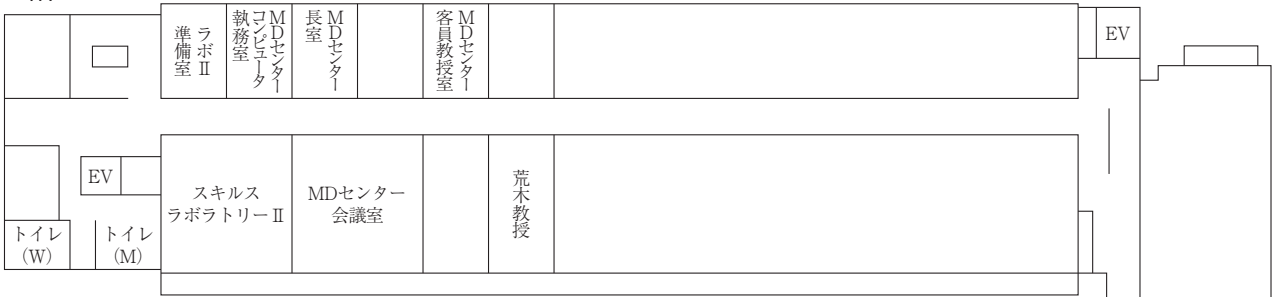
7階



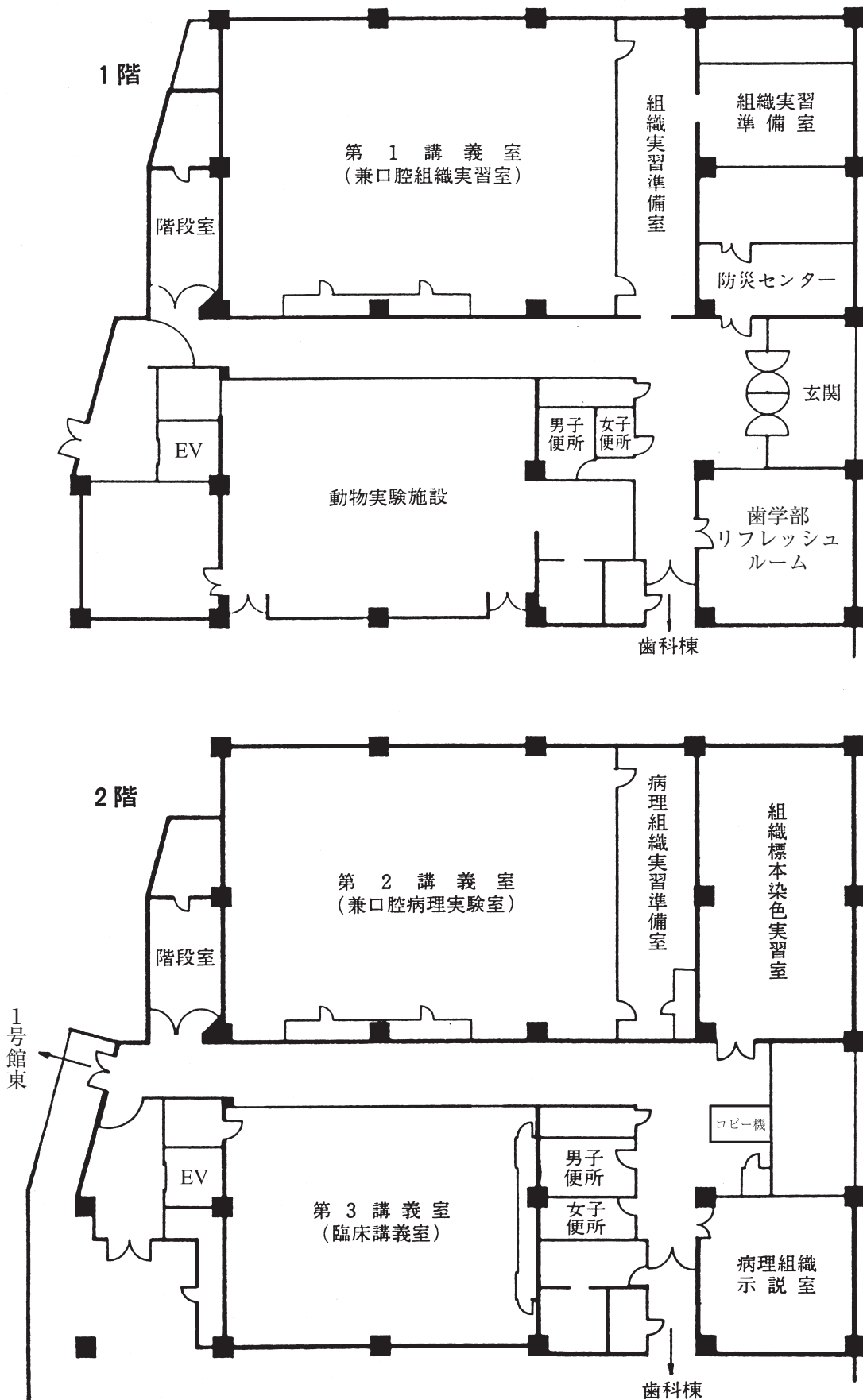
6階

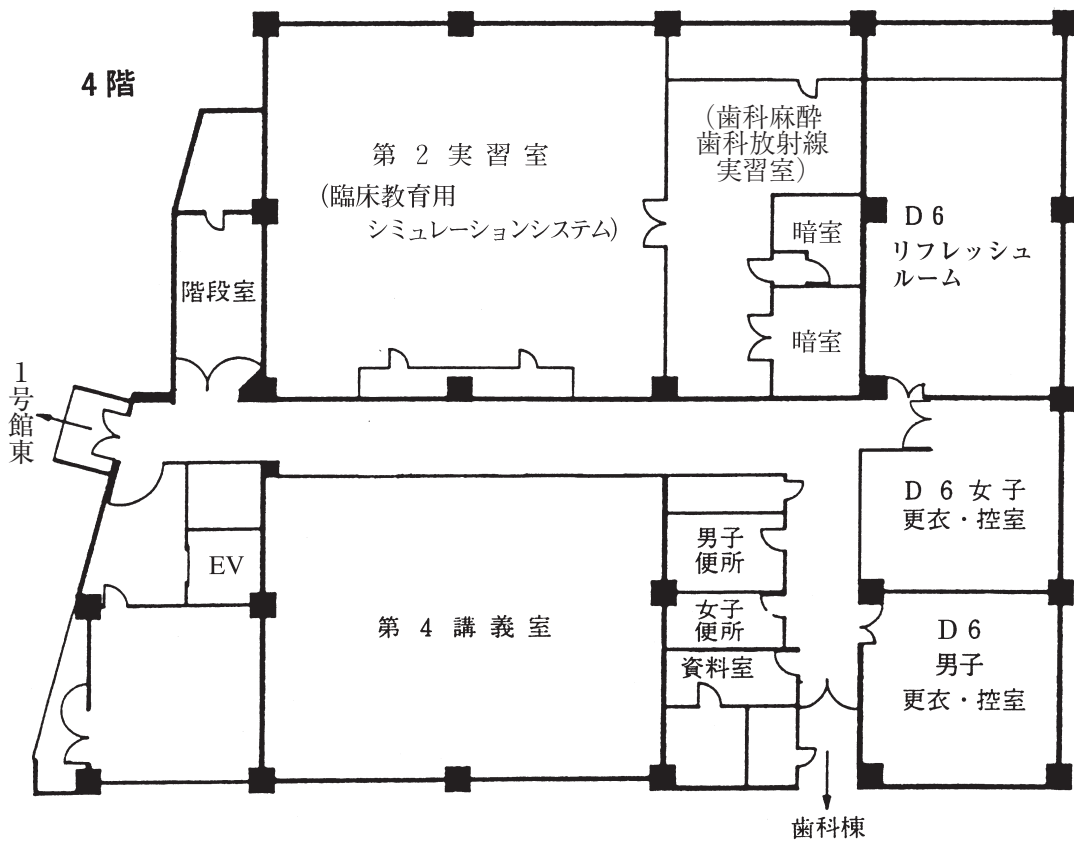
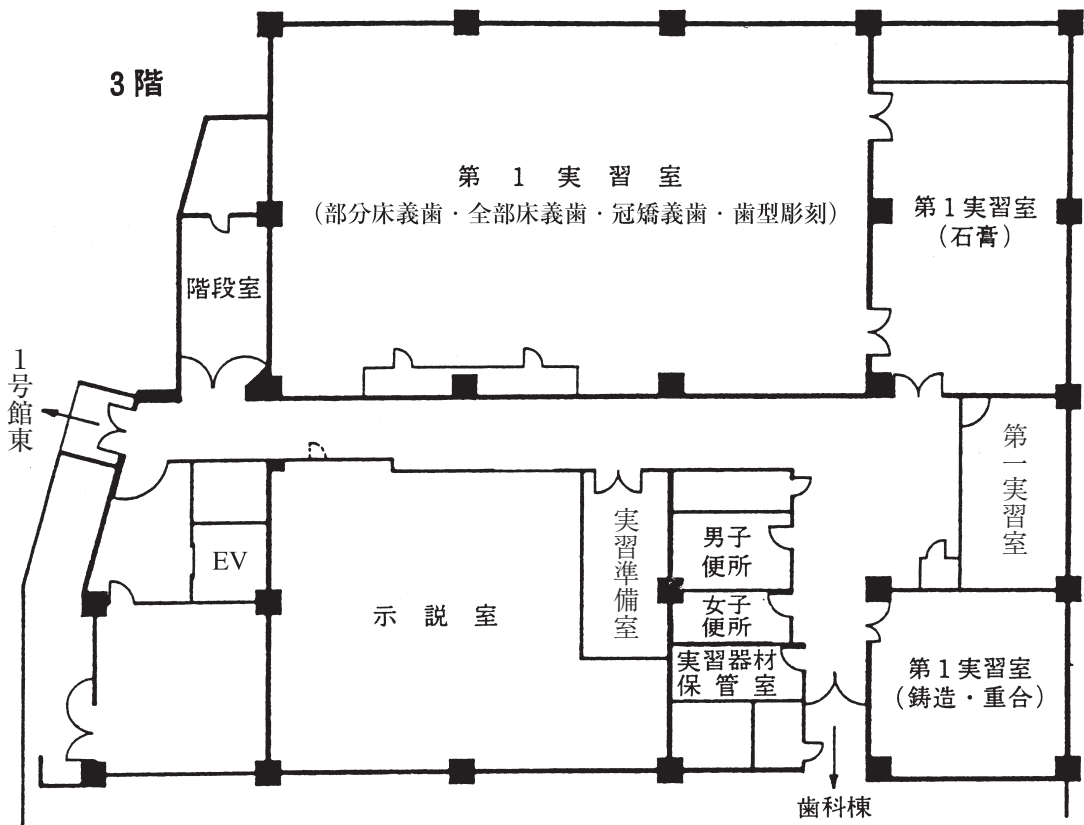


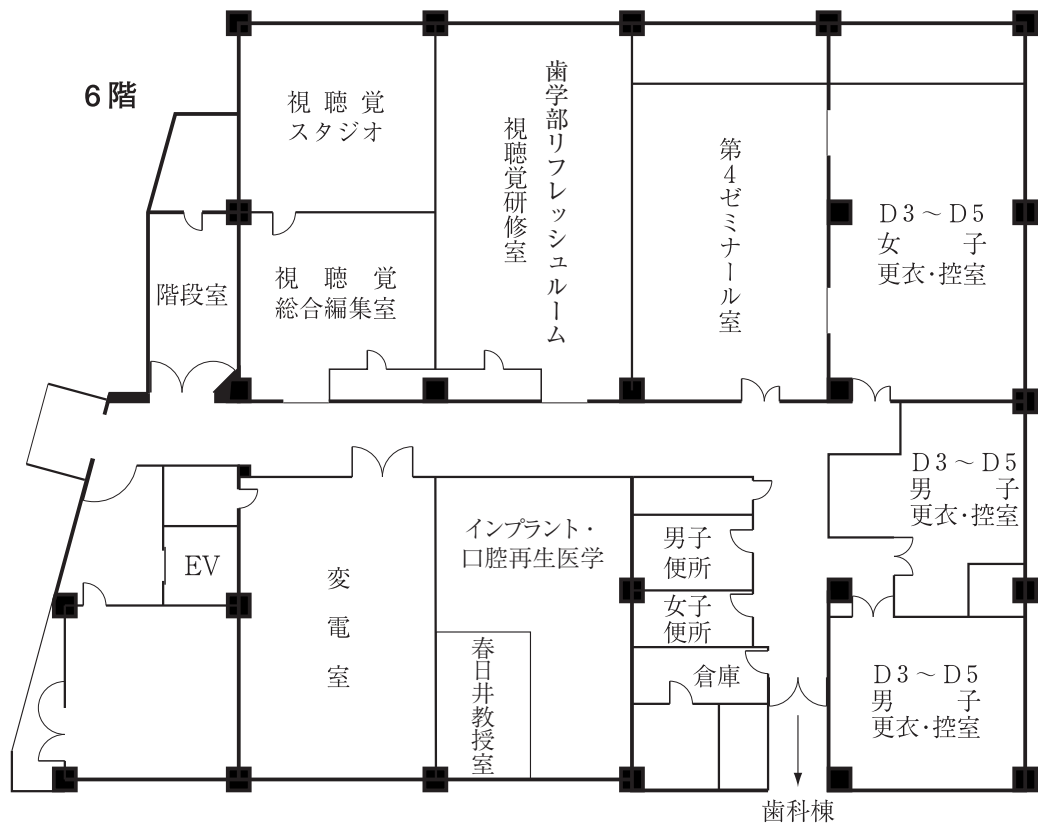
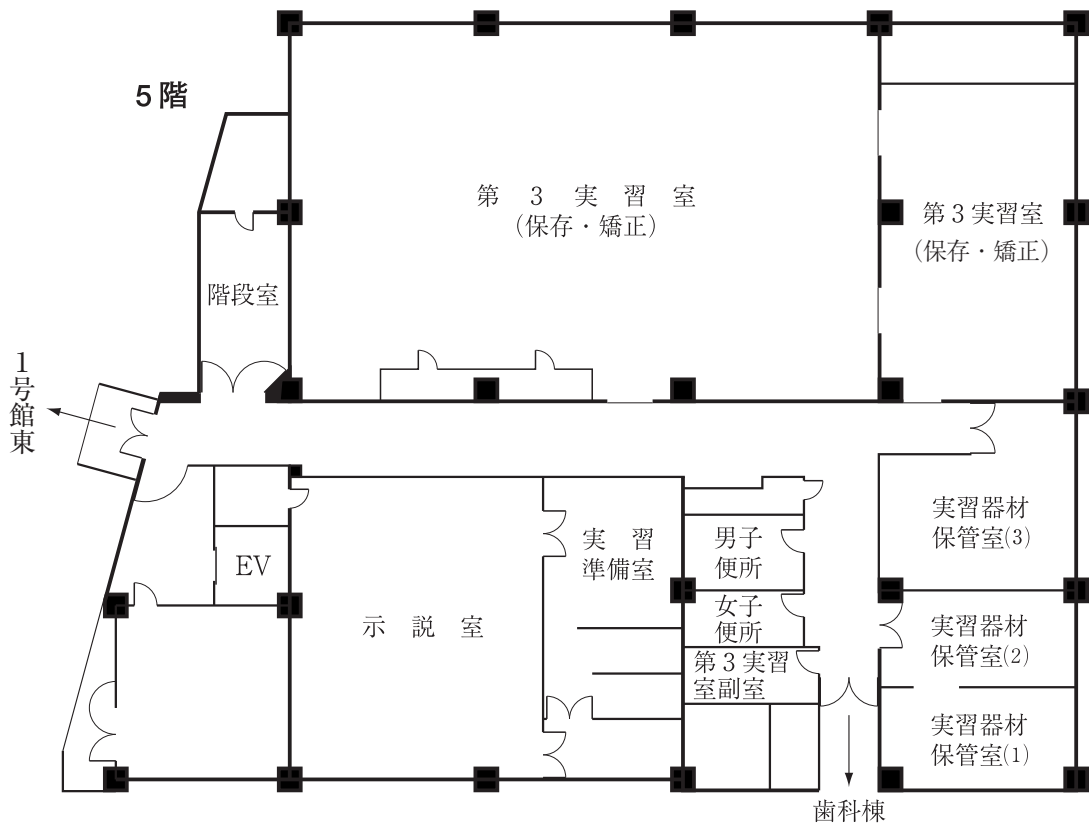
5階



7号館平面図







1号館（西・東）、7号館の配置

階	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他
9 F				歯科同窓会事務室
8 F	口腔保健学科 第4講義室 臨床基礎実習室 相互実習室 メディア実習室	口腔保健学科 学科セミナー室3 講座別研究室3、4 臨床系研究室	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻 教授室 准教授室 講師室	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻 専攻事務室 非常勤講師室 資料保管室2
7 F	口腔保健学科 第1、2、3講義室 基礎科学実習室 福祉介護実習室 学生ロッカー室 1、2、3 リフレッシュルーム	口腔保健学科 学科セミナー室1、2 講座別研究室1、2 基礎系研究室1、2		口腔保健学科 資料保管室1 歯学部会議室 (1号館東) 第1、2ゼミナール室 (1号館東)
6 F	歯学部演習室 1~11 基礎実習室 視聴覚研修室(7号館) 歯学部学生リフレッシュ ルーム(7号館)	先端材料評価学 インプラント・口腔 再生医学(7号館)	歯学科・宇尾 歯学科・春日井 (7号館)	第3ゼミナール室 (1号館東)
5 F	スキルスラボⅡ	医歯学教育システム 研究センター 生命倫理研究センター	歯学科・荒木	女性研究者支援室
4 F		口腔病理学 (1号館東)	歯学科・山口 (1号館東)	学術国際部国際交流 センター
3 F		全部床義歯補綴学 (1号館東)	歯学科・水口 (1号館東)	資金課収入管理掛
2 F		全部床義歯補綴学 (1号館東)		
1 F	歯学部学生リフレッ シブルーム(7号館)			学務企画課 学生支援課 教務課歯学系教務掛

歯科棟の配置

階	分野	教授室等	外来等	医局	その他
12	咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	小野 森山			
11	部分床義歯補綴学 摂食機能保存学 小児歯科学	五十嵐 三浦(宏)			
10	う蝕制御学 歯髄生物学 健康推進歯学	田上 須田 川口			歯科衛生保健部
9	顎口腔外科学 口腔放射線医学 顎関節咬合学	小村 倉林 野		顎関節咬合学	
8			病棟		医員当直室(男)
7			歯科麻酔外来 インプラント外来 手術室	麻酔・生体管理学	医員当直室(女) 滅菌材料室
6	口腔病態診断科学		口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来 言語治療外来 検査部	顎顔面外科学 顎口腔外科学	
5			むし歯外来 歯周病外来	う蝕制御学 歯髄生物学 歯周病学	総合技工室 ＜歯科棟南＞
4			第1総合診療室 第2総合診療室 顎関節治療部 歯科心身外来		ヘッドライター室 器材準備室 歯学部特別講堂 演習センター 歯科臨床研修センター 材料室 和同会売店
3			義歯外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 クリーンルーム歯科外来 技工部	部分床義歯補綴学 全部床義歯補綴学 摂食機能保存学 高齢者歯科学	大会議室 小会議室 看護部 研修医技工室
2			小児歯科学外来 矯正歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	小児歯科学 咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	歯学部総務課 歯学部国際交流室
1			歯科総合診療部 スペシャルケア外来 息さわやか外来 薬剤部	歯科総合診療部	電算室 防災センター 器材薬剤センター 研修医控室 歯学部業務課 患者相談室
B1			歯科放射線外来		低温室 ボイラー室 談話室
					B2 食堂

M & Dタワーの配置

	分野	教授室等		分野	教授室等		
(北側)	8階	硬組織構造生物学	高野	(南側)	8階	細菌感染制御学	中川
	8階	分子情報伝達学	高柳		7階	硬組織薬理学	大谷
	7階	硬組織病態生化学	柳下		7階	認知神経生物学	泰羅
	7階	歯学教育開発学	森尾		6階	医療経済学	川渕
	7階	口腔放射線腫瘍学	三浦(雅)		6階	顎顔面解剖学	柴田
	7階	硬組織再生学	篠村		6階	分子免疫学	東
	6階	分子発生学	井関				
	6階	ナノメディスン(DNP)					
	6階	分子細胞機能学	森田				

10号館の配置

	分野	教授室等	その他
7階	歯周病学	和泉	
6階	顎顔面外科学	原田	
5階	高齢者歯科学 疼痛制御学	嶋田	
4階	疼痛制御学 麻酔・生体管理学 スポーツ医歯学	深山	
3階	スポーツ医歯学 障害者歯科学 歯科医療行動科学	上野 篠塚 俣木	
2階	顎顔面補綴学 歯科心身医学 総合診療歯科学	谷口 豊福	

平成24年度歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻専門科目授業計画表

第1学年

前期	学部専門科目 「口腔保健と専門職」	24. 4. 17(火)～24. 5. 15 (火) 5週 毎週火曜日
----	----------------------	--

後期	学部専門科目 「歯科衛生学概論Ⅰ、Ⅱ」 「人体の構造及び疾病」 「公衆衛生学」 「社会保障Ⅰ」 「臨床体験実習」	24. 10. 2(火)～25. 1. 29 (火) 16週 毎週火曜日 25. 2. 5(火) 定期試験
----	---	---

第3学年

区 分		期 間
前 期	春 季 休 業	24. 4. 2(月)～5(木)
	ガイダンス(編入学生含む)	24. 4. 6(金)
	入学式(編入学生のみ)	24. 4. 9(月)
	授 業 1 7 週	24. 4. 9(月)～24. 7. 31(火)
	夏 季 休 業	24. 8. 1(水)～24. 8. 31(金)
	定 期 試 験	24. 9. 3(月)～24. 9. 14(金)
後 期	授業2週(選択科目のみ)	24. 9. 18(火)～24. 9. 27(木)
	臨 床 実 習 ガ イ ダ ン ス	24. 9. 28(金)・24. 10. 1(月)
	授 業 1 2 週	24. 9. 28(金)～24. 12. 21(金)
	創 立 記 念 日	24. 10. 12(金)
	お茶の水祭準備のため休講	24. 10. 12(金)
	お 茶 の 水 祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日)
	冬 季 休 業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
	授 業 5 週	25. 1. 7(月)～25. 2. 8(金)
	補 講 お よ び 定 期 試 験	25. 2. 12(火)～25. 2. 15(金)
	授業4週(選択科目のみ)※	25. 2. 18(月)～25. 3. 15(金)
	春 季 休 業	25. 3. 18(月)～25. 3. 29(金)

第2学年

区 分		期 間
前 期	春 季 休 業	24. 4. 2(月)～5(木)
	ガ イ ダ ン ス	24. 4. 6(金)
	授 業 1 7 週	24. 4. 9(月)～24. 7. 31(火)
	夏 季 休 業	24. 8. 1(水)～24. 8. 31(金)
	授業2週(選択科目のみ)	24. 9. 3(月)～24. 9. 14(金)
	補 講 お よ び 定 期 試 験	24. 9. 18(火)～24. 9. 28(金)
後 期	授 業 1 2 週	24. 10. 1(月)～24. 12. 21(金)
	創 立 記 念 日	24. 10. 12(金)
	お茶の水祭準備のため休講	24. 10. 12(金)
	お 茶 の 水 祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日)
	解 剖 体 追 悼 式	24. 10. 18(木)午後予定
	冬 季 休 業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
	授 業 5 週	25. 1. 7(月)～25. 2. 8(金)
	補 講 お よ び 定 期 試 験	25. 2. 12(火)～25. 3. 1(金)
	春 季 休 業	25. 3. 4(月)～25. 3. 29(金)

第4学年

区 分		期 間
前 期	春 季 休 業	24. 4. 2(月)～5(木)
	ガ イ ダ ン ス	24. 4. 6(金)
	授 業 1 7 週	24. 4. 9(月)～24. 7. 27(金)
	補 講 お よ び 定 期 試 験	24. 7. 30(月)～24. 8. 3(金)
	夏 季 休 業	24. 8. 6(月)～24. 8. 17(金)
	授業6週(選択科目のみ)	24. 8. 20(月)～24. 9. 27(木)
後 期	臨 地 実 習 ガ イ ダ ン ス	24. 9. 28(金)・24. 10. 1(月)
	授 業 1 2 週	24. 9. 28(金)～24. 12. 21(金)
	創 立 記 念 日	24. 10. 12(金)
	お茶の水祭準備のため休講	24. 10. 12(金)
	お 茶 の 水 祭	24. 10. 13(土)～24. 10. 14(日)
	冬 季 休 業	24. 12. 25(火)～25. 1. 4(金)
	授 業 2 週	25. 1. 7(月)～25. 1. 18(金)
	補 講 お よ び 卒 業 試 験	25. 1. 21(月)～25. 2. 15(水)
	卒 業 式	25. 3. 25(月)

歯学部 口腔保健学科 科目責任者連絡先一覧

所属	氏名	メールアドレス
大学院医歯学総合研究科医歯理工学専攻	生涯口腔保健衛生学分野	近藤 圭子 solan.pvoh@tmd.ac.jp solan.ltoh@tmd.ac.jp
	健康支援口腔保健衛生学分野	吉増 秀實 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp
		小野寺 光江 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
	口腔疾患予防学分野	品田 佳世子 shinada.pvoh@tmd.ac.jp
		遠藤 圭子 usagi.aohc@tmd.ac.jp usagi.pvoh@tmd.ac.jp
		大塚 紘未 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
	地域・福祉口腔保健衛生学分野	白田 千代子 hakuta.gohc@tmd.ac.jp hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
	口腔健康教育学分野	寺岡 加代 ktera.ohce@tmd.ac.jp
	口腔保健衛生基礎学分野	山口 朗 akira.mpa@tmd.ac.jp
		坂本 裕次郎 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp y.sakamoto.bsos@tmd.ac.jp

授業時間割

1限	9:00～9:50
2限	10:00～10:50
3限	11:00～11:50
4限	13:00～13:50
5限	14:00～14:50
6限	15:00～15:50
7限	16:00～16:50
8限	17:00～17:50

第1学年 履修ユニット

科目名	口腔保健と専門職
ユニット名	口腔保健と専門職
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年前期・必修1単位・90分×8回
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室、演習室

学習目標

自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習（PBL）や演習をとおして、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。

到達目標

- ・口腔保健の概要を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明できる。

授業計画 1 学年前期・必修1単位・90分×8回

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法（PBL テュー トリアル）	遠藤圭子
2	シナリオ1	シナリオ提示、学習項目の検討	口腔保健学科教員
3	学習項目の発表	ディスカッション	口腔保健学科教員
4	全体発表準備	全体発表項目、発表法の検討	口腔保健学科教員
5	全体発表	グループ評価	口腔保健学科教員
6	シナリオ2	シナリオ提示、学習項目の検討	口腔保健学科教員
7	学習項目の発表	ディスカッション	口腔保健学科教員
8	学習の振り返り	まとめ	遠藤圭子

評価方法

- ・授業内レポート、グループディスカッションの参加状況で総合的に評価する。
- ・本学歯学部試験規則第11条（期末試験及び中間試験の受験資格）に規定された出席要件を満たさない場合、本科目の単位は認定しない。

教科書および参考書

- ・授業中に資料を配布する。
- ・参考書は適宜紹介する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生学概論
ユニット名	歯科衛生学概論 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

歯科衛生の変遷と、歯科衛生業務に必要な専門知識・技術の概要および基本事項を理解するとともに、歯科衛生士の主要業務や歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・義靴の特徴を知る。

到達目標

- ・ 歯科衛生の変遷を説明する。
- ・ 歯科衛生を担う職種として、歯科衛生士の活動の場と業務内容を説明する。
- ・ 歯科衛生業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
- ・ 歯科臨床の業務で必要となる専門知識・専門技術を説明する。
- ・ 口腔疾患予防業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
- ・ 歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・専門義靴の特徴を説明する。

授業計画 1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科衛生の変遷と概要	オリエンテーション 歯科衛生の歴史、歯科衛生とは	遠藤圭子
2	歯科衛生業務	歯科衛生士の専門知識と専門技術	遠藤圭子
3	歯科衛生業務	歯科衛生士の活動の場と業務内容	遠藤圭子
4	口腔疾患予防業務	口腔疾患予防に必要な専門知識と専門技術	遠藤圭子
5	健康教育	健康教育の実践と必要な専門知識・技術	遠藤圭子
6	歯科診療の補助業務	歯科臨床の概要、歯科衛生業務内容	遠藤圭子
7	論理的思考ツールの活用	歯科衛生過程	遠藤圭子
8	学習の振り返り	まとめ	遠藤圭子

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総合的評価に加味する。

参考図書

- Esther M. Wilkins 著／石川達也 校閲／布施祐二・眞木吉信・松井恭平・松崎晃 監訳／全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科衛生士の臨床，医歯薬出版，2008
- 全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」，医歯薬出版，2007
- 全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」，医歯薬出版，2011
- 授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

- 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- 出席が全体の2/3に満たない場合は、単位認定はできない。出席要件を満たすように十分留意すること。

担当教員の office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生学概論
ユニット名	歯科衛生学概論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修1 単位・90 分×8 回
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を理解するとともに、また専門職として必要な対人援助の基本的事項および様々な場面において必要となる対人関係の特徴を理解する。

到達目標

- ・ 歯科衛生士としての職業倫理・行動規範を説明する。
- ・ 歯科衛生業務に必要な対人援助技術の基本事項を説明する。
- ・ 歯科臨床における対人援助技術の特徴を説明する。
- ・ 健康教育の場で必要となる対人援助技術の特徴を説明する。
- ・ 対象の人びとを理解する手立てを説明する。

授業計画 1 学年後期・必修1 単位・90 分×8 回

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	オリエンテーション (授業の概要と方法)	遠藤圭子
2	職業倫理・行動規範	歯科衛生業務における倫理および行動規範	遠藤圭子
3	対人援助	対人援助に必要な技術	遠藤圭子
4	対人援助技術	歯科臨床における対人援助技術	遠藤圭子
5	健康教育における コミュニケーション	コミュニケーションのあり方	遠藤圭子
6	歯科衛生過程と対人援助	歯科衛生過程の6つの構成要素とその内容	遠藤圭子
7	対象の理解	アセスメントとニーズ判断	遠藤圭子
8	学習の振り返り	まとめ	遠藤圭子

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書

- ・「歯科衛生士の臨床」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版, 2008
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版, 2007
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版, 2011
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・出席が全体の2/3に満たない場合は、単位認定はできない。出席要件を満たすように十分留意すること。

担当教員の office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	臨床体験実習
ユニット名	臨床体験実習
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室、体験実習施設・機関

学習目標

- ・多様な場における歯科衛生士の活動を見学体験することにより、歯科衛生士の専門性と社会的役割を理解する。
- ・専門職としての倫理観や態度、対人援助の基本について体験を通して学ぶ。

到達目標

- ・体験した歯科衛生士の活動の実際について説明する。
- ・歯科衛生士の専門的業務と社会的役割について説明する。
- ・歯科衛生士としての倫理観、態度および対人援助の基本を説明する。
- ・歯科衛生士に必要な専門知識・専門技術の基本事項を概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	学習方法と授業スケジュール	白田・遠藤
2	臨床体験実習①	歯学部附属病院見学①	白田・遠藤
3	臨床体験実習②	歯学部附属病院見学②	白田・遠藤
4	臨床体験実習の振り返り①	学習成果のまとめ（報告書作成）	白田・遠藤
5	臨床体験実習③	企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等の見学	白田・遠藤
6	臨床体験実習④	企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等の見学	白田・遠藤
7	臨床体験実習の振り返り②	学習成果のまとめ（発表の準備）	白田・遠藤
8	臨床体験実習の振り返り②	学習成果の発表	白田・遠藤

評価方法

- ・ 臨床体験実習の報告書や発表内容などで学習成果を評価する。
- ・ 臨床体験実習やグループディスカッションの参加状況を評価に加味する。

参考図書等

- ・ 授業中に配布する資料。
- ・ 参考書は授業時に紹介する。

留意事項

- ・ 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

遠藤圭子 随時 usage.aohc@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	人体の構造と機能 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

人体の正常な構造と機能を学んで、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルへと統合的に理解するとともに、組織および器官の発生のしくみと成長と加齢に伴う変化ならびに生体の恒常性維持機構について理解する。

到達目標

- ・ 人体の構成ならびに構造と機能の関係を概説する。
- ・ 細胞の構造と働きならびに遺伝子の分子機構を説明する。
- ・ 人体の発生と発達の概要を説明する。
- ・ 上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の特徴と役割を説明する。
- ・ 運動器（骨格系と筋系）の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・ 循環器の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・ 循環調節のしくみおよび血液の役割を説明する。
- ・ 内分泌器の構造および発生と成長に伴う変化を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	人体の構成	人体の構造と機能を学ぶ意義、人体の構成と身体の方角用語、細胞と組織と器官系	坂本裕次郎
2	人体を構成する細胞の構造と機能	核とその役割、細胞質と細胞膜・細胞内小器官の役割	坂本裕次郎
3, 4	組織と器官系の分類	上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織の構成要素の特徴と役割および器官系の構成	坂本裕次郎
5	人体の発生と生後発達	人体の発生過程と生後の変化	井関祥子

6	骨格系の形成と機能	骨組織の発生様式と骨格形成、骨組織と骨格の役割	坂本裕次郎
7, 8	骨格系と筋系	肉眼解剖学的にみた骨と筋、全身の骨格と筋の構成	坂本裕次郎
9, 10	筋の収縮機構と機能、骨格筋の収縮のタイプと疲労	骨格筋・心筋・平滑筋の収縮のしくみと役割	杉本久美子
11	心臓と脈管系の構造	心臓と血管・リンパ管の組織学的構造	坂本裕次郎
12	循環器系	肉眼解剖学的にみた全身の循環器の構成、	坂本裕次郎
13	循環器系の機能と循環調節	心臓と脈管系の機能とその調節機構	杉本久美子
14	血液の機能	血液の構成成分の働きと血液型	杉本久美子
15	内分泌系の構造と発生	内分泌器官の種類と構造、発生過程	井関祥子

評価方法

- ・筆記試験と受講状況による総合評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「グレイ解剖学」原著第2版 塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳 エルゼビア・ジャパン 2011年
- ・「標準組織学 総論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2002年
- ・「標準組織学 各論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2010年
- ・「標準生理学」第7版 小澤瀨司、福田康一郎総編集 医学書院 2010年
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1996年
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1995年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

坂本裕次郎 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

杉本久美子 火 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

井関祥子 随時 s.iseki.emb@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	栄養と代謝
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

食物に含まれる各栄養素の種類と機能、それらの消化・吸収・代謝の過程を学ぶとともに、さまざまな食品に含まれる栄養素を理解し、健康の維持・増進のための食生活についての知識を習得する。

到達目標

- ・健康と栄養摂取の関係について説明する。
- ・栄養素の種類と機能を説明する。
- ・栄養素の体内での消化・吸収について説明する。
- ・栄養素の代謝・応答について説明する。
- ・食品に含まれる栄養素を理解し、食品群の種類とその特徴について説明する。
- ・ホルモンによる恒常性の維持について説明する。
- ・ホルモンの分泌と作用メカニズムについて説明する。
- ・歯と歯周組織における硬組織の形態と構成成分ならびに機能について説明する。
- ・歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	栄養の基礎知識	栄養の基礎知識	小野寺光江
2	糖質の栄養学	糖質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺光江
3	脂質の栄養学	脂質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺光江
4	タンパク質の栄養学	タンパク質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺光江
5	ビタミンの栄養学	ビタミンの種類と栄養学的意義	小野寺光江
6	ミネラルの栄養学	ミネラルの種類と栄養学的意義	小野寺光江
7	消化と吸収	栄養素の消化と吸収	小野寺光江

8	食品と栄養	食品群の種類と特徴	小野寺光江
9	生体の構成要素	細胞の役割、生体における水	森田育男
10	糖質の生化学	糖質の代謝・応答	森田育男
11	脂質の生化学	脂質の代謝・応答	森田育男
12	タンパク質の生化学	タンパク質の代謝・応答	森田育男
13	ホルモン	ホルモンによる恒常性の維持、 ホルモンの分泌と作用メカニズム	森田育男
14	歯と歯周組織の生化学 1	歯と歯周組織の生化学	飯村忠浩
15	歯と歯周組織の生化学 2	歯の石灰化とカルシウム・リン代謝	飯村忠浩

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 2 栄養と代謝」医師薬出版株式会社
ISBN978-4-263-42819-1
- ・食品成分表2012 女子栄養大学出版
ISBN978-4-7895-1012-7

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺 光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

森田 育男 随時 morita.cell@tmd.ac.jp

飯村 忠浩 随時 iimura.gcoe@tmd.ac.jp

科目名	公衆衛生学
ユニット名	公衆衛生学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

健康、疫学、人口、環境、保健衛生などの基本事項を理解し、ヘルスプロモーションや予防医学を実践するための基礎的知識の習得と新たな発想を展開する方法を学ぶ。

到達目標

- ・健康の概念を説明する。
- ・疫学について説明する。
- ・人口統計について説明する。
- ・環境による健康への影響を説明する。
- ・地域保健について基本的事項を理解する。
- ・ヘルスプロモーション、予防医学の基本概念と実践方法について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	総論	総論、健康の概念、ヘルスプロモーション、予防医学、グループ課題	品田佳世子
2	疫学	疫学の定義および概要、疫学の方法	品田佳世子
3	人口	人口の動向、人口動態統計、生命表	品田佳世子
4	健康と環境 1	健康と環境の課題発表の準備	品田佳世子
5, 6	健康と環境 2	各グループの課題発表、健康と環境の総括	品田佳世子
7, 8	地域保健・公衆衛生	地域保健の概要と事例検討・発表	品田佳世子

評価方法

- ・課題発表・作成された資料、筆記試験と受講状況による総合評価を行う。

参考図書等

- ・教科者：最新歯科衛生士教本『保健生態学』（歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1）
医歯薬出版
- ・参考書：厚生指標 臨時増刊「国民衛生の動向」、厚生統計協会
「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子 火 16:00-18:00 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会保障 I
ユニット名	社会保障 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第 1 講義室

学習目標

- ・ 社会保障制度の基礎的知識および社会保障と口腔保健の関連性を理解する。
- ・ 少子高齢社会における社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を理解する。

到達目標

- ・ 社会保障制度の目的と機能を説明する。
- ・ 社会保障と口腔保健の関連性を説明する。
- ・ 少子高齢社会における社会保障制度の課題を説明する。
- ・ 社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を関係づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	社会保障の概要①	人々の暮らしと社会保障制度	
2	社会保障の概要②	高齢者の人々を支援する社会保障制度	
3	社会保障の概要③	障害のある人々を支援する社会保障制度	
4	社会保障の実際①	地域社会と社会保障の実際（事前学習）	
5	社会保障の実際②	地域社会と社会保障の実際（体験学習）①	
6	社会保障の実際③	地域社会と社会保障の実際（体験学習）②	
7	社会保障の実際④	地域社会と社会保障の実際（体験学習）③	
8	社会保障の実際⑤	地域社会と社会保障の実際（体験学習）④	
9	社会保障の実際⑥	地域社会と社会保障の実際（体験学習）⑤	
10	社会保障の実際⑦	地域社会と社会保障の実際（体験学習）⑥	
11	社会保障の実際⑧	地域社会と社会保障の実際（体験学習）⑦	

12	社会保障の実際⑨	地域社会と社会保障の実際（体験学習）⑧	
13	社会保障の実際⑩	体験学習の振り返り（事後学習）	
14	社会保障の概要④	児童・家庭を支援する社会保障制度	
15	授業のまとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッションや体験学習の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・授業中に配布する資料。
- ・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

第2学年 履修ユニット

科目名	臨床体験実習
ユニット名	臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2学年前後期・必修1単位・30時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室・附属病院・企業等

学習目標

多様な場における歯科衛生士の活動の見学体験を通して、歯科衛生士の専門性と社会的役割、専門職としての態度、ならびに対人援助の基本を学ぶ。

到達目標

- ・専門職種の活動の実際を説明する。
- ・歯科衛生士の専門的業務と社会的役割について説明できる。
- ・医療職としての態度および対人援助について説明できる。
- ・収集した情報をまとめ、発表する。

授業計画 2学年前期・必修・15時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1-3	オリエンテーション	臨床体験実習の目的、方法、スケジュール	白田千代子
4-9	施設見学	歯学部附属病院、企業内診療所	白田 遠藤 近藤
10・11	報告書の作成	見学場所、内容、考察	白田千代子
12・13	発表準備	資料およびシナリオ作成	遠藤圭子
14・15	発表および総括	発表、振り返りとまとめ	白田 近藤

授業計画 2 学年後期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1-3	オリエンテーション	臨床体験実習の目的、方法、スケジュール	白田千代子
4-9	施設見学	歯科医院、福祉施設等	白田 遠藤 近藤
10・11	報告書の作成	見学場所、内容、考察	白田千代子
12・13	発表準備	資料およびシナリオ作成	遠藤圭子
14・15	総括	発表、振り返りとまとめ	白田 近藤

評価方法

報告書の提出、発表の結果をもって、総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

・授業の際に紹介する。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

遠藤 圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

近藤 圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	科学英語 I
ユニット名	科学英語 I
授業形態	講義、ロールプレイ
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

- ・口腔保健に関連する基本的英語表現を身につける。
- ・口腔保健に関して、英語で意思疎通をする基礎的能力を身につける。

到達目標

- ・口腔保健関連の専門用語を英語で表現する。
- ・英会話で、予約対応、医療面接、術後の注意を行う。
- ・英語で歯科疾患についての説明やインフォームドコンセントをする。
- ・英語でブラッシング、フッ化物の応用、シーラントを説明する。
- ・歯科、口腔保健関連の英文を読解し、内容を理解する。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯学の基本英語	歯科・口腔保健学に必要な基本的英語表現を学ぶ	品田佳世子
3, 4	予約対応、 医療面接	英会話で、相互に予約対応および医療面接のロールプレイを行う	品田佳世子
5, 6	全身疾患の既往 や生活習慣	英会話で、相互に全身疾患の既往や生活習慣について聞く	品田佳世子
7, 8	歯周疾患について	英語で歯周疾患について相互に説明する	品田佳世子
9, 10	歯ブラシとブラ ッシング方法	英会話で、相互に歯ブラシやブラッシング方法を説明する	品田佳世子
11, 12	フッ化物の応 用、シーラント	英語で、相互にフッ化物の応用、シーラントとその効果について説明する	品田佳世子

13,	外国の歯科事情	外国の歯科事情について講義を聞く	品田佳世子
14, 15	英語の科学論文	英語の歯科、口腔保健に関する科学論文を読み、内容を理解する	品田佳世子

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・相互のロールプレイの状況を総括的評価に加味する。

参考図書等

教科書：最新歯科衛生士教本「歯科英語」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
 ・丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集 川口陽子 監修・著 クインテッセンス出版

留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・事前に配布された資料中のわからない単語を調べ、声を出して読んで、予習をしておくこと。

担当教員の Office hour

- ・品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	科学英語Ⅱ
ユニット名	科学英語Ⅱ
授業形態	歯学科と合同講義、発表
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	演習室

学習目標

- ・英語により情報発信を行い、世界の歯科医療・健康情報の把握と広い視野を持つ

到達目標

- ・英語で自己紹介、自分の趣味を表現する。
- ・英語で東京医科歯科大学の紹介を行う。
- ・英語で口腔保健学科や部活動について説明する。
- ・英語で日本の食べ物、観光地を紹介する。
- ・英語で日本の四季の特徴、日本人の特徴、日本文化を紹介する。
- ・英語で学校教育制度、歯学口腔保健学科の教育制度を説明する。
- ・英語で日本の医療保険制度の紹介を行う。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2, 3	グループ授業 ①	グループに分かれ、担当の留学生チューター（T A）①による母国の専門領域の歯科について英語の説明を聞く。自己紹介や大学、学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ①
4, 5, 6	グループ授業 ②	グループ授業、留学生チューター（T A）②による母国の専門領域の歯科について英語の説明を聞く。自己紹介や大学、学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ②
7, 8, 9	グループ授業 ③	グループ授業、留学生チューター（T A）③による母国の専門領域の歯科について英語の説明を聞く。自己紹介や学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ③

10, 11, 12	グループ授業 ④	グループ授業、留学生チューター（T A）④による母国の専門領域の歯科について英語の説明を聞く。自己紹介や学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ④
13, 14, 15	グループ授業 ⑤	グループ授業、留学生チューター（T A）⑤による母国の専門領域の歯科について英語の説明を聞く。自己紹介や学科紹介、日本の紹介等を英語で行う。	留学生 T A ⑤

評価方法

- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科英語」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集 川口陽子 監修・著 クインテッセンス出版

留意事項

- ・英語の辞書等は持参すること。
- ・事前に与えられた課題を用意し、発表できるように、予習をしておくこと。

担当教員の Office hour

- ・品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期・必修2単位・30時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室、医学部解剖学実習室

学習目標

人体の正常な構造と機能を理解して、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルへと統合的に理解するとともに、組織および器官の発生のしくみと成長、発育、加齢の過程に伴う変化について理解する。

到達目標

- ・末梢神経系および中枢神経系の構造と機能およびその発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・感覚器系の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・呼吸器系の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・内分泌器の構造および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序を説明する。
- ・生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を説明する。
- ・生殖器の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・消化器系の基本構造と発生を説明する。
- ・体幹体肢の運動器、循環器、神経系の相互関係と頭頸部へのつながりについて説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	脊髄と神経系の基本構造	神経系の構成、神経細胞と化学シナプスの構造、脊髄と脊髄神経	坂本裕次郎
2	神経系の発生	神経系の発生過程とその機構	井関祥子
3, 4	全身の末梢神経系	脊髄神経系と自律神経系と走行	坂本裕次郎
5	中枢神経系の構成	脳の基本構成と髄膜と脳室系	坂本裕次郎

6-8	神経系の働き	興奮伝導・興奮伝達のしくみ、神経伝達物質の働き、末梢神経系の働き、脊髄の働きと脊髄反射、脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き	泰羅雅登
9, 10	感覚器系の構造	感覚器の構造および感覚伝導路の基本	坂本裕次郎
11, 12	一般体性感覚、内臓感覚および特殊感覚	一般体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡感覚の伝導路と機能	泰羅雅登
13	呼吸器系の構造	呼吸器系の構成と組織	坂本裕次郎
14	呼吸器系の発生	呼吸器系の発生過程とその機構	井関祥子
15	呼吸器系の働き	呼吸運動、ガス交換のしくみ、呼吸調節、肺気量の分画	泰羅雅登
16	内分泌系の構造と発生	内分泌器官の構造と発生のしくみ	井関祥子
17, 18	生殖器の構造と発生	生殖器の構造と発生のしくみ	坂本裕次郎
19, 20	泌尿器系の構造と発生	泌尿器系の構造と発生のしくみ	井関祥子
21, 22	尿の生成と体液の調節	尿生成のメカニズム、排尿、体液量および体液組成の調節	泰羅雅登
23	体温調節	発汗、体温調節機構	泰羅雅登
24	消化器系総論	消化器系の全体像と発生および基本構造	坂本裕次郎
25, 26	運動器としての骨格と筋	骨格標本を使って、体幹・体肢の骨格と筋の総括と頭頸部とのつながりについて	坂本裕次郎
27	脊髄神経系・自律神経系・脈管系と周囲の構造	体幹・体肢の末梢神経系・脈管系の総括と頭頸部とのつながりについて	坂本裕次郎
28-30	解剖学見学実習	頭頸部以外を中心に解剖体の観察	坂本裕次郎

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「グレイ解剖学」原著第2版 塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳 エルゼビア・ジャパン

2011 年

- ・「標準組織学 総論」第 4 版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2002 年
- ・「標準組織学 各論」第 4 版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2010 年
- ・「標準生理学」第 7 版 小澤澗司、福田康一郎総編集 医学書院 2010 年
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第 2 版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1996 年
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1995 年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用し、手袋（臨床系実習と同様のグローブ）やマスク等を着用すること。

担当教員の office hour

坂本裕次郎 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

泰羅雅登 随時（事前に連絡すること） masato.cnb@tmd.ac.jp

井関祥子 随時 s.iseki.emb@tmd.ac.jp

科目名	歯・口腔の構造と機能
ユニット名	歯・口腔の構造と機能
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前・後期・必修 3 単位・45 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・基礎科学実習室

学習目標

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能および分子的基盤を学ぶとともに、それらの発生と成長について学び、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との関連について理解を深める。

到達目標

- ・ 顎顔面と口腔諸器官の構造および発生と成長について説明する。
- ・ 唾液線の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用について説明する。
- ・ 歯と歯周組織の形態と構成成分ならびに機能について説明する。
- ・ 歯と歯周組織の発生、成長過程を説明する。
- ・ 脳神経の支配様式と働きについて説明する。
- ・ 脳の構造と上行性・下行性伝導路について説明する。
- ・ 口腔領域の体性感覚器・味覚器官の構造と働きおよび発生と成長について説明する。
- ・ 下顎反射のしくみとその役割について説明する。
- ・ 咀嚼運動の神経機構と嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明する。
- ・ 発声・構音のしくみを説明する。
- ・ 消化器系の構造と機能について説明する。
- ・ 口腔諸器官（歯・歯周組織・唾液線を含む）の機能と全身の正常機能とを関連づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	口腔粘膜・舌・唾液腺	口腔粘膜・舌・唾液腺の構造	坂本裕次郎
4, 5	口腔領域の組織観察	口唇・舌・扁桃・唾液腺の顕微鏡観察	坂本裕次郎
6	顎顔面領域の発生	顎顔面領域の初期発生	坂本裕次郎

7	歯の発生 1	硬組織形成前までの歯胚の発生過程	坂本裕次郎
8	歯の発生 2	象牙質・歯髄複合体の形成機構	坂本裕次郎
9	歯の発生 3	エナメル質の形成機構	坂本裕次郎
10, 11	顔面の発生・歯の発生の組織像	顔面の発生、初期歯胚、硬組織形成期歯胚の顕微鏡観察	坂本裕次郎
12	歯周組織の形成機構	歯周組織の形成機構	坂本裕次郎
13	象牙質・歯髄複合体	象牙質・歯髄複合体の構造と象牙質の成長線	坂本裕次郎
14	エナメル質	エナメル質の構造と成長線	坂本裕次郎
15	歯周組織	歯周組織の構造	坂本裕次郎
16	歯列形成と歯の萌出と交換	歯列と咬合の形成と歯の萌出と交換のしくみ	坂本裕次郎
17, 18	歯と歯周組織の組織像	象牙質・エナメル質・歯周組織の顕微鏡観察	坂本裕次郎
19, 20	脳神経	脳神経系の構成と走行	坂本裕次郎
21, 22	歯と口腔の神経	歯と口腔の感覚をつかさどる神経	坂本裕次郎
23-25	中枢神経系	中枢神経系の外景と内景、脳脊髄膜と脳室系、上行性・下行性伝導路	坂本裕次郎
26	記憶・学習・情動行動	記憶・学習・情動行動のしくみ	泰羅雅登
27	口腔粘膜感覚・	口腔粘膜感覚・	泰羅雅登
28, 29	歯髄感覚・歯根膜感覚	歯髄感覚・歯根膜感覚のしくみ	泰羅雅登
30, 31	唾液腺の機能	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分・生理作用	泰羅雅登
32, 33	味覚・嗅覚	味覚と嗅覚のしくみ	杉本久美子
34	咽頭～食道・喉頭	咽頭～食道・喉頭の構造	坂本裕次郎
35	顎関節感覚・咀嚼運動	顎関節感覚・咀嚼運動の制御機構	坂本裕次郎
36	下顎反射	開口反射と閉口反射のしくみ	泰羅雅登
37	嚥下、吸引、嘔吐	嚥下、吸引、嘔吐のしくみ	泰羅雅登
38	発声と構音	発声のしくみと構音	泰羅雅登
39, 40	胃腸、肝胆膵	胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の構造	坂本裕次郎
41-43	消化と吸収	消化管運動のしくみ、消化液の成分と作用および分泌調節、栄養素の消化と吸収および排便反射のしくみ	杉本久美子

44, 45	消化器系の組織 観察	口腔領域以外の消化器系の顕微鏡観察	坂本裕次郎
--------	---------------	-------------------	-------

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年
- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「標準組織学 各論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2010年
- ・「基礎歯科生理学」第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版 2008年
- ・「標準生理学」第7版 小澤濤司、福田康一郎総編集 医学書院 2010年
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1996年
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1995年

留意事項

- ・実習には、白衣を着用すること。
- ・解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用し、手袋（臨床系実習と同様のグローブ）やマスク等を着用すること。

担当教員の Office hour

坂本裕次郎 口腔保健衛生基礎学分野 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

泰羅雅登 認知神経生物学分野 随時（事前に連絡すること） masato.cnb@tmd.ac.jp

杉本久美子 口腔基礎科学分野 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

科目名	歯・口腔の構造と機能
ユニット名	歯の形態学実習
授業形態	講義・実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前・後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・基礎科学実習室、医学部解剖学実習室

学習目標

歯の種類と形態的特徴および役割、頭蓋と顎関節および頭頸部の諸器官の構造を互いに関連付けて学び、歯と口腔の役割を包括的に理解するとともに、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との相互関係について理解を深める。

到達目標

- ・ 口腔の構造とはたらきについて説明する。
- ・ 歯と歯周組織の構成要素ならびに役割について説明する。
- ・ 歯と歯列の方向用語、歯の形態を表す用語について説明する。
- ・ 歯の分類と表記方法について説明する。
- ・ 永久歯の種類ごとに歯冠と歯根の形態について説明する。
- ・ 永久歯の種類と上下左右の区別について説明する。
- ・ 乳歯の種類ごとに歯冠と歯根の形態について説明する。
- ・ 乳歯の種類と上下左右の区別について説明する。
- ・ 歯の形態について立体的に表現する。
- ・ 頭蓋を構成する骨の種類と形態および顎関節の構造について説明する。
- ・ 頭頸部の筋の種類と起始・停止、支配神経と作用を説明する。
- ・ 頭頸部の動・静脈、リンパ系について説明する。
- ・ ヒトの歯の形態と顎運動を互いに関連付けて説明する。
- ・ 口腔諸器官の機能と全身の正常機能とを関連づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔諸器官の総論	口腔～咽頭の構造と機能の基礎知識、歯と歯周組織の構成要素	坂本裕次郎

2	歯と歯列の総論	歯の種類と記号・方向用語、歯列と咬合の基礎知識	坂本裕次郎
3-6	永久歯の解剖学	切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯の形態	坂本裕次郎
7, 8	乳歯の解剖学	乳切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態	坂本裕次郎
9-11	歯の形態実習 1	実習内容と使用器具の説明、スケッチ 1	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
12-14	歯の形態実習 2	石膏を使って歯の形態形成の準備作業、スケッチ 2	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
15-17	歯の形態実習 3	前歯の形態形成	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
18-20	歯の形態実習 4	小臼歯の形態形成	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
21-23	歯の形態実習 5	上顎大臼歯の形態形成	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
24-26	歯の形態実習 6	下顎大臼歯の形態形成	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
27-29	歯の形態実習 7	特別課題などを行う	坂本裕次郎 富川紘一 安江 透
30	まとめ	前半の総括	坂本裕次郎
31-33	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋の外景・内景、頭頸部の動・静脈 1	坂本裕次郎
34-36	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋を構成する骨、頭頸部の動・静脈 2、リンパ管・リンパ節	坂本裕次郎
37, 38	頭頸部の筋系と頸筋膜	表情筋・咀嚼筋・浅頸筋・外側頸筋・前頸筋（舌骨上筋・舌骨下筋）・後頸筋、頸筋膜	坂本裕次郎
39, 40	顎関節と顎運動	顎関節の構造と機能および顎運動	坂本裕次郎
41-43	解剖学見学実習	頭頸部を中心とする局所解剖体の観察	坂本裕次郎
44, 45	まとめ	後半の総括	坂本裕次郎

評価方法

- ・授業は講義と実習を合わせて行い、期末の客観試験、論述試験および実習内容で総括的評価を行う。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、出席状況、提出物、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期と後期での講義の評価と実技の評価を総合して年間評価するが、原則として前期と後期に講義と実技のそれぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に講義と実技を分けて評価するので、前期と後期それぞれに講義と実技での受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年
- ・「歯の解剖学」第22版 藤田恒太郎原著 金原出版 1995年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「グレイ解剖学」原著第2版 塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳 エルゼビア・ジャパン 2011年

留意事項

- ・実習室で行われる授業では白衣を着用すること。
- ・解剖実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用し、臨床系実習と同様のゴム手袋（グローブ）やマスク等を着用すること。

担当教員の Office hour

坂本裕次郎	口腔保健衛生基礎学分野	随時	y. sakamoto. ombi@tmd. ac. jp
富川紘一	口腔機能再建技工学分野	随時	fukawa. peoe@tmd. ac. jp
安江 透	歯冠修復技工学分野	随時	yasue. sdt@tmd. ac. jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	病理学総論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	勝部 憲一
主な授業場所	口腔保健学科第 4 講義室

学習目標

・疾病の病理学的分類および原因と病態に関する基本的知識を習得し、人体の構造と機能の正常と異常の相互関係について理解する。

到達目標

- ・病因に基づく疾病の分類体系を理解する。
- ・疾病の原因となる変化が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、器官系レベル、個体の各レベルにあり、相互に密接に関連していることを理解する。
- ・各々の疾病における組織学的変化の基礎を理解する。

授業計画 2 年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	病理学序論	病理学の歴史、病因論	勝部 憲一
3, 4	遺伝性疾患	染色体異常、遺伝子異常、奇形	勝部 憲一
5, 6	退行性病変	代謝障害、退行性病変	勝部 憲一
7, 8	進行性病変	再生と修復、進行性病変	勝部 憲一
9, 10	循環障害	循環障害	勝部 憲一
11, 12	炎症	炎症、感染症	勝部 憲一
13	免疫異常	免疫学の基礎、免疫異常	勝部 憲一
14, 15	腫瘍	腫瘍	勝部 憲一

評価方法

- ・出席状況、授業態度と期末の客観試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版 2008年
- ・ルービン 病理学－臨床医学への基盤－ 西村書店 2007年

留意事項

- ・特になし

担当教員の Office hour

勝部 憲一 口腔病理学分野 月・金 16:00-17:30 katsube.mpa@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	口腔病理学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本 啓
主な授業場所	口腔保健学科第 4 講義室

学習目標

- ・ 顎口腔領域の疾病の病理学的分類および原因と病態に関する基本的知識を習得し、顎口腔領域の諸器官について正常な構造と機能と異常との相互関係を理解する。

到達目標

- ・ 各々の疾患の病因・病態と症状を、その組織学的変化と対応して理解する。
- ・ 顎口腔の解剖学的構造と疾患との相互関係からそれぞれの理解を深める。
- ・ 主な口腔疾患の臨床的な症状と病理・病態を、症例を通して理解する。

授業計画 2 年後期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯の異常	歯の発育異常、歯の損傷と付着物	坂本 啓
3, 4	う蝕	う蝕	坂本 啓
5, 6	歯髄炎	歯髄炎	坂本 啓
7, 8	歯周炎	根尖性歯周炎、歯周病、治癒の病理	坂本 啓
9	口腔の発育異常	口腔の発育異常	坂本 啓
10-11	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患	坂本 啓
12	口腔の嚢胞	口腔の嚢胞	坂本 啓
13-14	口腔の腫瘍	口腔の腫瘍	坂本 啓
15	顎骨の病変	顎骨の病変	坂本 啓
16	唾液腺疾患	唾液腺疾患、加齢に伴う口腔病変	坂本 啓
17	歯の構造と疾患	歯の正常構造と歯の疾患との相互関係	坂本裕次郎
18	歯周組織と疾患	歯周組織の正常構造と歯周疾患との相互関係	坂本裕次郎

19, 20	乳歯と疾患	乳歯の正常構造の特徴と疾患との相互関係	坂本裕次郎
21, 22	顎骨と疾患	上下顎骨の正常構造と顎骨疾患との相互関係	坂本裕次郎
23, 24	口腔の軟組織と疾患	口腔粘膜、舌、唾液腺の正常構造と顎骨疾患との相互関係	坂本裕次郎
25, 26	臨床口腔病理 1	症例検討：歯肉炎、辺縁性歯周炎	品田佳世子 坂本 啓
27, 28	臨床口腔病理 2	症例検討：歯髄炎、根尖性歯周炎	品田佳世子 坂本 啓
29, 30	臨床口腔病理 3	症例検討：粘膜疾患、唾液腺疾患	品田佳世子 坂本 啓

評価方法

- ・出席状況、授業態度と期末の客観試験で総合的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「病理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版 2008年
- ・口腔病理アトラス 第2版 高木 實（監修）文光堂 2006年

留意事項

- ・特になし

担当教員の Office hour

坂本 啓（口腔病理学分野） 月・金 16:00-17:30 s-kei.mpa@tmd.ac.jp

坂本裕次郎 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	薬理学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	大谷啓一
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

到達目標

- ・ 薬の作用、有効量、中毒量、致死量について概説する。
- ・ 薬物の投与方法と生体内分布について概説する。
- ・ 薬物の連用および併用に伴う現象について概説する。
- ・ 中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説する。
- ・ 末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説する。
- ・ 痛みと薬物について概説する。
- ・ 抗炎症薬の種類と作用について概説する。
- ・ 呼吸・循環器系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・ 消化器系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・ 内分泌系薬物、ホルモン剤の種類と作用について概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	薬理学の基礎、医療と薬物	薬物療法の種類、薬理作用の基本形式と分類、薬物の用量と作用	大谷
2, 3	身体と薬物	薬物の作用機序、薬物動態、薬物の投与方法連用、併用による作用、薬理作用に影響を与える因子、薬物の副作用・有害作用、ライフステージと薬物	大谷

4, 5	中枢神経系作用薬物	全身麻酔薬、睡眠薬、向精神薬、抗けいれん薬、抗・パーキンソン薬、中枢神経興奮薬	大谷
6, 7	末梢神経系作用薬物	神経伝達物質、自律神経系作用薬	杉本
8	局所麻酔薬	局所麻酔薬の作用機序・分類・代謝	大谷
9	痛みと薬物	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬、解熱鎮痛薬	大谷
10	抗炎症薬	ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、痛風治療薬	青木
11, 12	循環器系作用薬	降圧薬、高脂血症治療薬、抗狭心症薬、強心薬、抗不整脈薬、高脂血症治療薬、腎疾患治療薬	青木
13	呼吸器系作用薬	鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進薬	田村
14	消化器系作用薬	食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬	田村
15	内分泌系作用薬・代謝系疾患治療	糖尿病治療薬、ホルモン拮抗薬	大谷

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「薬理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「シンプル薬理学」改訂第3版 植松俊彦 他編 南江堂
- ・「現代歯科薬理学」第5版 小椋秀亮監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

大谷啓一	硬組織薬理学分野	月、火	16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
青木和弘	硬組織薬理学分野	火	16:00-18:00	kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦	硬組織薬理学分野	金	16:00-18:00	tamu.hpha@tmd.ac.jp
杉本久美子	口腔基礎科学分野	木	16:00-18:00	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	病原微生物と生体防御
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前・後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

病原微生物の特徴と病原性、口腔および全身の感染症の病因と感染成立の機序および生体の防御反応のしくみについて理解し、その理解に基づく感染予防の方法ならびに実際の対処法を理解する。

到達目標

- ・細菌、ウイルス等による感染について、微生物の病原性を構造、機能、遺伝的因子から理解する。
- ・感染の予防と治療の基礎を微生物の特性に着眼して理解する。
- ・病原微生物の分類と病原性について説明する。
- ・口腔細菌の特徴と病原性について説明する。
- ・免疫獲得と免疫寛容の機構および免疫疾患の病因・病態について説明する。
- ・病原微生物や様々な外来刺激に対する生体の防御系を説明する。
- ・疼痛の病因・病態について説明する。
- ・顎・顔面・口腔領域の神経痛の病因・病態について説明する。
- ・歯科医療現場で遭遇する感染症について説明する。
- ・感染予防の方法と限界について説明する。
- ・医療現場における安全対策について説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	微生物学総論	微生物の一般的性状（細菌、ウイルス、その他）	中川一路
3-5	感染	微生物の病原因子、感染経路、感染症の種類、口腔内症状を呈する感染症	中川一路
6, 7	感染と免疫	感染と免疫の基礎	中川一路
8, 9	化学療法	化学療法の機序、薬剤耐性	中川一路

10, 11	微生物学各論 1	グラム陽性菌、グラム陰性菌	中川一路
12, 13	微生物学各論 2	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、ウイルス	中川一路
14, 15	口腔細菌	う蝕関連細菌、歯周疾患関連細菌	中川一路
16	免疫概論	免疫システムとは、自己寛容	東みゆき
17	免疫担当細胞	免疫担当細胞	東みゆき
18	自然免疫	食細胞、抗体、補体、自然免疫	東みゆき
19	適応免疫 1	細胞性免疫、エフェクター細胞	東みゆき
20	適応免疫 2	液性免疫、免疫記憶、ワクチン	東みゆき
21	アレルギー	過敏症、自己免疫	東みゆき
22, 23	疼痛総論	疼痛の概念と分類、疼痛発生の原因と機序	坂本裕次郎
24	顎・顔面領域の疼痛	脳神経と顎・顔面領域の疼痛の原因と機序	坂本裕次郎
25, 26	歯科医療と感染症	歯科医療現場において遭遇するおもな感染症	砂川光宏
27, 28	感染予防の方法	歯科医療現場における感染予防法の実際	砂川光宏
29, 30	安全対策	歯科医療現場における安全対策	三輪全三

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、出席状況、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2011年
- ・新歯科衛生士教本「微生物学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2007年

担当教員の Office hour

坂本裕次郎 口腔保健衛生基礎学分野 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
 中川一路 細菌感染制御学分野 月・木 16:00-18:00 ichiro-n.bac@tmd.ac.jp
 東みゆき 分子免疫学分野 月～金 16:00-18:00 miyuki.mim@tmd.ac.jp
 砂川光宏 クリーンルーム歯科外来 (事前に連絡すること) m.sunakawa.endo@tmd.ac.jp
 三輪全三 小児歯科外来 月・水・木 16:00-18:00 miwa.dohs@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科基礎科学実習室、歯学部基礎実習室

学習目標

人体の構造と機能及び疾病、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ちと回復過程の促進などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

到達目標

- ・人体の骨格標本および主要器官の組織標本を観察して特徴を説明する。
- ・組織標本の切片作製と染色を行い、光学顕微鏡観察の意義について説明する。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明する。
- ・蛍光色素等の硬組織内への沈着を観察し、硬組織の成長・発育過程を説明する。
- ・尿の比重測定および一般検査を行い、尿から得られる生体の情報について説明する。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明する。
- ・咀嚼筋筋電図および誘発筋電図を記録し、筋収縮のしくみについて説明する。
- ・細菌の分離培養とその細菌の鑑別を行う。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	解剖組織学実習 1	組織標本作製（組織切片の作製）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
4-6	解剖組織学実習 2	組織標本作製（組織切片の作成）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
7-9	解剖組織学実習 3	組織標本作製（組織切片の染色）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
10-12	解剖組織学実習 4	骨格標本の観察	坂本裕次郎
13-15	生理学実習 1	尿の生理学（尿比重測定・一般尿検査）	小野寺光江
16-18	生理学実習 2	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）	杉本久美子

19-21	生理学実習 3	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）	杉本久美子
22-24	生理学実習 4	咀嚼筋筋電図	杉本久美子
25-27	薬理学実習 1	全身麻酔薬の作用	青木和広・ 田村幸彦
38-30	薬理学実習 2	硬組織の薬理	青木和広・ 田村幸彦
31-33	薬理学実習 3	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用	青木和広・ 田村幸彦
34-36	細菌学実習 1	細菌の分子生物学的実験 1	中川一路
37-39	細菌学実習 2	細菌の分子生物学的実験 2	中川一路
40-42	細菌学実習 3	細菌の分子生物学的実験 3	中川一路
43-45	まとめ	実習の総括	坂本裕次郎

評価方法

- ・出席状況、実習態度、提出レポート等で総括的評価を行う。
- ・各実習項目の実習状況を総合して評価するが、原則としてそれぞれに合格しなくてはならない。
- ・実習項目ごとに評価するので、原則としてそれぞれに出席を満たさなくてはならない。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

- ・必ず白衣を着用すること。
- ・事前に、配付される実習書等を読み、関連知識を予習しておくこと。

担当教員の office hour

坂本裕次郎 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
 青木和弘 硬組織薬理学分野 月 16:00-18:00 kazu.hpha@tmd.ac.jp
 田村幸彦 硬組織薬理学分野 金 16:00-18:00 tamu.hpha@tmd.ac.jp
 中川一路 細菌感染制御学分野 月・木 16:00-18:00 ichiro-n.bac@tmd.ac.jp
 杉本久美子 口腔基礎科学分野 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
 小野寺光江 随時 m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	口腔衛生学
ユニット名	口腔衛生学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

口腔衛生学およびそれに関連する法律を理解するとともに集団の口腔保健に関する問題を解決するための疫学的方法論および衛生行政のシステムを理解する。

到達目標

- ・口腔衛生学について説明できる。
- ・う蝕の検出と指数を説明できる。
- ・歯周疾患の検出と指数を説明できる。
- ・口腔清掃状態と歯石の指数を説明できる。
- ・口腔保健に関連する法律について説明できる。
- ・地域保健法、健康増進法および健康日本 21 施策を説明できる。
- ・地域歯科保健について説明できる。
- ・衛生行政のシステムを概説できる。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔衛生学概論	口腔衛生学についての概説	品田佳世子
2	口腔診査の疫学的意義	口腔診査法の変遷とそれぞれの特徴、歯科検診における誤差の考察	品田佳世子
3	う蝕の検出基準と指数	う蝕の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
4	歯周疾患の検出基準と指数	歯周疾患の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
5	口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数	口腔清掃状態・歯石の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
6	歯のフッ素症・酸蝕症などの検出基準と指数	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子

7,8	母子保健法、母子歯科保健	母子保健の動向と規則、母子歯科保健	品田佳世子
9,	学校保健安全法、学校歯科保健	学校保健の動向と規則、学校歯科保健	品田佳世子
10	労働安全衛生法、産業歯科保健	産業保健の動向と規則、産業歯科保健	品田佳世子
11	高齢者の医療、口腔保健に関する法律、成人歯科保健、高齢者歯科保健	成人保健、高齢者保健の動向と規則、成人歯科保健、高齢者歯科保健、介護予防	品田佳世子
12	地域保健法、地域歯科保健	地域保健の動向と規則、地域歯科保健	品田佳世子
13,14	地域歯科保健の実例	特定の地域の保健行政組織と保健事業の実例	品田佳世子
15	衛生行政	中央の保健行政組織とその機能、保健行政組織のネットワークと今後のあり方	品田佳世子

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「国民衛生の動向」（厚生指針 臨時増刊） 厚生統計協会毎年発行
- ・最新歯科衛生士教本「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「衛生行政・社会福祉」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科でいかそう健康増進法」8020 推進財団編 医歯薬出版
- ・「歯科六法必携」能美光房、宮武光吉、石井拓男編 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・新歯科衛生士教本「衛生学・公衆衛生学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

- ・品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	口腔健康科学
ユニット名	口腔健康科学
授業形態	講義・PBL テュートリアル
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	寺岡加代
ユニット責任者	寺岡加代、小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科第3講義室(講義)、歯学部演習室等(PBL テュートリアル)

学習目標

口腔健康科学の概念および意義を学び、科学的根拠に基づくヘルスプロモーションが実践できる口腔保健の専門家としての役割を理解する。

到達目標

- ・口腔健康科学の意義を説明する。
- ・ヘルスプロモーションの概要を説明する。
- ・WHO の健康戦略を説明する。
- ・保健行動の理論とモデルを説明する。
- ・ヘルスプロモーションの展開過程（計画・実施・評価）を説明する。
- ・口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明する。
- ・人々の健康に影響をおよぼす要因を説明する。
- ・人々の健康に関する問題を発見し、解決するための方法を検討する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-2	口腔健康科学の概要 -1	健康の概念、口腔健康科学の意義、PBL の概要	寺岡、小野寺
3	セッション1	シナリオ1	口腔保健学科教員
4-6	セッション2	学習発表・討論、シナリオ2	口腔保健学科教員
7-9	セッション3	学習発表・討論、シナリオ3	口腔保健学科教員
10-12	セッション4	学習発表・討論、全体発表の準備	口腔保健学科教員
13-14	全体発表	シナリオ1~4についてグループ発表	口腔保健学科教員
15	口腔健康科学の概要	ヘルスプロモーションの概要・役割、WHO	寺岡

評価方法

講義：期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

PBL：セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「オーラルヘルスプロモーション」 岡田昭五郎監修 (財) 口腔保健協会
- ・「ヘルスプロモーション講座」 島内憲夫編著 JUHRC
- ・「健康教育・ヘルスプロモーション」 武藤孝司著 篠原出版

留意事項

講義：事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

PBL：PBL テュートリアルブックをよく読んで、グラドルールを厳守すること。

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

担当教員の Office hour

寺岡加代 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

小野寺光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

杉本久美子 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

大木明子 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	社会保障Ⅱ
ユニット名	社会保障Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉サービスを包含する社会保障の理念や歴史、社会保障の各制度や体系、諸外国における社会保障制度の概要を理解する。
- ・社会保障制度における歯科衛生士の位置付けと役割を理解する。

到達目標

- ・現代社会における社会保障制度の課題を説明する。
- ・社会保障制度の概念・対象・理念を説明する。
- ・社会保障の財源と費用を説明する。
- ・社会保険と社会扶助の関係を説明する。
- ・公的保険制度と民間保険制度の関係を説明する。
- ・社会保障制度の体系（各制度の概要）を説明する。
- ・年金保険制度や医療保険制度の具体的内容を説明する。
- ・諸外国における社会保障制度の概要を説明する。
- ・社会保障制度における歯科衛生士の位置付けと役割を説明する。

授業計画

2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1	現代社会と社会保障制度(1)	オリエンテーション、少子高齢社会と社会保障制度	専攻教員、 坪井
2	現代社会と社会保障制度(2)	人口動態や労働環境の変化と社会保障制度の課題	専攻教員、 坪井
3	社会保障制度の概念・対象・理念(1)	社会保障の概念と範囲	専攻教員、 坪井

4	社会保障制度の概念・対象・理念(2)	社会保障の役割と意義	専攻教員、 坪井
5	社会保障制度の概念・対象・理念(3)	社会保障の理念と対象	専攻教員、 坪井
6	社会保障の歴史(1)	諸外国における社会保障制度の発達	専攻教員、 坪井
7	社会保障の歴史(2)	日本における社会保障制度の発達	専攻教員、 坪井
8	社会保障の財源と費用	社会保障の財源、社会保障給付費、国民負担率	専攻教員、 坪井
9	社会保険と社会扶助(1)	社会保険の概念と範囲	専攻教員、 坪井
10	社会保険と社会扶助(2)	社会扶助の概念と範囲	専攻教員、 坪井
11	公的保険制度と民間保険制度の関係	公的施策と民間保険制度の現状	専攻教員、 坪井
12	社会保障制度の体系(1)	年金保険制度の概要	専攻教員、 坪井
13	社会保障制度の体系(2)	介護保険制度の概要	専攻教員、 坪井
14	社会保障制度の体系(3)	労災保険制度の概要	専攻教員、 坪井
15	社会保障制度の体系(4)	雇用保険制度の概要	専攻教員、 坪井
16	社会保障制度の体系(5)	家族手当制度の概要	専攻教員、 坪井
17	社会保障制度の体系(6)	生活保護制度の概要	専攻教員、 坪井
18	社会保障制度の体系(7)	社会福祉制度の概要	専攻教員、 坪井
19	社会保障制度の体系(8)	医療保険制度の概要	専攻教員、 坪井
20	年金制度の具体的内容	国民年金、厚生年金、各種共済組合の年金	専攻教員、

			坪井
21	医療保険制度の具体的内容(1)	国民健康保険（具体的内容と事例）	専攻教員、 坪井
22	医療保険制度の具体的内容(2)	健康保険（具体的内容と事例）	専攻教員、 坪井
23	医療保険制度の具体的内容(3)	各種共済組合の医療保険（具体的内容と事例）	専攻教員、 坪井
24	社会保障における歯科衛生士の役割(1)	介護保険制度における歯科衛生士の役割	専攻教員、 坪井
25	社会保障における歯科衛生士の役割(2)	社会福祉制度における歯科衛生士の役割	専攻教員、 坪井
26	社会保障における歯科衛生士の役割(3)	医療保険制度における歯科衛生士の役割①	専攻教員、 坪井
27	社会保障における歯科衛生士の役割(4)	医療保険制度における歯科衛生士の役割②	専攻教員、 坪井
28	諸外国における社会保障制度の概要(1)	各国の社会保障制度（具体的内容と特徴）①	専攻教員、 坪井
29	諸外国における社会保障制度の概要(2)	各国の社会保障制度（具体的内容と特徴）②	専攻教員、 坪井
30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	専攻教員、 坪井

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

坪井真（日本放送協会学園）

科目名	保健医療サービス
ユニット名	保健医療サービス
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・30 時間
科目責任者	小野寺 光江
ユニット責任者	小野寺 光江
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・保健医療サービスに関連する法律や衛生行政、医療保険制度、政策動向を理解する。
- ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携やチームアプローチを理解する。

到達目標

- ・保健医療サービスに関連する法律（憲法、地域保健法、健康増進法など）の概要を説明する。
- ・保健医療サービスに関連する政策動向を説明する。
- ・衛生行政の概要と政策動向を説明する。
- ・医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）の特徴や仕組みを説明する。
- ・保健医療サービスにおける専門職（医師、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、保健師、医療ソーシャルワーカー、他の医療技術職）の役割と実際を説明する。
- ・保健医療サービスにおける他職種連携や医療チームアプローチを説明する。
- ・インフォームドコンセントの概要（関連制度、自己決定・自立尊重原理など）を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	保健医療サービス関連の法・制度(1)	憲法・医療法などの基本法規と保健医療制度	大溝 茂
2	保健医療サービス関連の法・制度(2)	保健医療サービスの制度・政策(概要)	大溝 茂
3	保健医療サービス関連の政策動向(2)	障害者福祉・児童福祉と保健医療サービス	大溝 茂
4	保健医療サービス関連の法・制度(3)	保健医療サービス従事者の関係法規と資格制度	北原 稔

5	保健医療サービス関連の法・制度(4)	健康増進法の概要と制度・政策	北原 稔
6	保健医療サービス関連の法・制度(5)	地域保健の関連法規と制度・政策	北原 稔
7	保健医療サービス関連の法・制度(6)	母子保健の関連法規と制度・政策	小野寺光江
8	保健医療サービス関連の法・制度(7)	学校保健の関連法規と制度・政策	品田佳世子
9	保健医療サービス関連の法・制度(8)	産業保健の概要と関連法規および 制度・政策	品田佳世子
10	保健医療サービス関連の法・制度(9)	成人・高齢者保健の関連法規と 制度・政策	小野寺光江
11	保健医療サービス関連の法・制度(10)	精神保健の概要と関連法規および 制度・政策	宮本眞巳
12	保健医療サービス関連の政策動向(1)	高齢者福祉・介護と保健医療 サービス	小野寺光江
13	保健医療サービス関連の政策動向(3)	歯科口腔保健の推進と保健医療 サービス	矢澤正人
14	保健医療サービスにおける専門職(1)	保健医療サービスにおける 歯科医師の役割	矢澤正人
15	衛生行政(1)	国の衛生行政と機能	矢澤正人
16	衛生行政(2)	都道府県・市区町村の衛生行政と 保健事業の実際	矢澤正人
17	衛生行政(3)	衛生行政の政策動向と今後の課題	矢澤正人
18	医療保険制度(1)	医療保険の種類とプロセス	寺岡加代
19	医療保険制度(2)	出来高払い・包括払いの制度と 特徴	寺岡加代
20	医療保険制度(3)	診療報酬制度の概要、診療報酬と 医療連携	寺岡加代
21	医療保険制度(4)	医療費減免等の諸制度（高額療 養費制度など）	寺岡加代
22	医療保険制度(5)	医療費に関する政策動向と今後の 課題	寺岡加代
23	インフォームドコンセントの概要	関連諸制度、自己決定・自立尊重 の原理について	寺岡加代
24	保健医療サービスにおける専門職(1)	保健医療サービスにおける	小野寺光江

		医療専門職の役割	
25	保健医療サービスにおける専門職(2)	保健医療サービスにおける 歯科衛生士の役割	白田千代子 遠藤 圭子 近藤 圭子
26	保健医療サービスにおける専門職(4)	保健医療サービスにおけるMSW の役割	山田麻記子
27	保健医療サービスにおける専門職(5)	医療チームアプローチと 多職種連携	山田麻記子
28	保健医療サービスにおける専門職(3)	保健医療サービスにおける 歯科技工士の役割	池田 正臣
29-30	まとめ	まとめ	寺岡加代、 小野寺光江

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺 光江 生涯口腔保健衛生学分野 講師 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

寺岡 加代 口腔健康教育学分野 教授 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

品田 佳世子 口腔疾患予防学 教授 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

大溝 茂（桜美林大学）

北原稔（神奈川県厚木保健福祉事務所）

矢澤正人（東京都多摩立川保健所）

山田麻記子（医学部附属病院医療福祉支援センター）

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	歯科保存学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

・保存系歯科医学の内容を理解し、保存系歯科医療におけるチームアプローチを実践するために必要な知識を修得する。

到達目標

- ・歯の硬組織疾患を説明する。
- ・う蝕のリスクファクターと診断法、病理と処置法を説明する。
- ・窩洞の分類と修復物の理想的臨床形態を説明する。
- ・コンポジットレジン修復を説明する。
- ・歯科用セメントの種類と使用目的を説明する。
- ・アマルガム修復を説明する。
- ・メタルインレー修復を説明する。
- ・審美的間接法修復を説明する。
- ・う蝕の保存修復治療に必要な器具、器材、前準備、ならびに術後管理を説明する。
- ・歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・外科的歯周治療の種類、目的、器具、器材、前準備を説明する。
- ・歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
---	------	------	-------

1, 2	歯周病・歯周治療、 歯周病の病因	歯周病・歯周治療の概説、歯周病の病因	渡辺 久
3, 4	歯周組織, 歯周組織 検査と診断	歯周組織診査の種類、目的、器具、器材、準備	渡辺 久
5, 6	スケーリング・ルート プレーニング	歯周基本治療としてのスケーリング・ルートプレー ニング、目的、器具、器材、準備、術後管理	渡辺 久
7, 8	歯周外科手術、咬 合調整と固定	歯周外科手術、咬合調整と固定の種類、目的、器具、 器材、準備、術後管理	渡辺 久
9, 10	根分岐部病変・習 癖・治療計画とケー ススタディ	根分岐部病変、習癖などについて、歯周治療の計画 とメンテナンスの内容、目的、器具、器材、準備、 術後管理、歯周治療における診療の流れと器材の準 備	渡辺 久
11, 12	保存修復治療	歯の構造と硬組織疾患、う蝕のリスクファクターと 診断、う蝕の病理と処置法、窩洞の分類、修復物の 形態	島田康史
13, 14	成形充填修復 1	成形充填修復治療の流れ、コンポジットレジン修復	島田康史
15, 16	成形充填修復 2	歯科用セメント（ガラスアイオノマーセメント修 復）、アマルガム修復	島田康史
17, 18	鑄造修復	間接法修復治療の流れ、メタルインレー修復、審美 的間接法修復	島田康史
19, 20	ケーススタディ	う蝕の保存修復歯科治療における診療の流れと器 材の準備、治療計画とメンテナンス	島田康史
21, 22	歯内治療	歯内治療概説、歯髄保存療法の種類、目的、器具、 器材、準備、術後管理、ラバーダム防湿、隔壁	竹田淳志
23, 24	歯髄除去療法	歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、準備、術 後管理	竹田淳志
25, 26	感染根管治療	感染根管治療の種類、目的、器具、器材、準備、術 後管理	竹田淳志
27, 28	根管充填法	根管充填法の種類、目的、器具、器材、準備、術後 管理、および外科的歯内治療の種類、目的、器具、 器材、準備、術後管理	竹田淳志
29, 30	ケーススタディ	歯内治療における診療の流れと器材の準備	竹田淳志

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・沼部幸博監修：新人歯科衛生士のためのペリオドンタルインスツルメンテーション. クインテッセンス出版
- ・日本歯周病学会編：歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック. 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
- ・「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・接着ここが知りたい歯科衛生士編 日本接着歯学会編 口腔保健協会
- ・保存修復学 2 1 田上順次、千田彰、奈良陽一郎、桃井保子 永末書店

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

渡辺 久	月～金	17:00-19:00	watanabe.peri@tmd.ac.jp
島田康史	月・火・木・金	16:30-18:30	shimada.ope@tmd.ac.jp
竹田淳志	月・火・水・金	17:00-18:00	takeda.a.endo@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	小児歯科学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 単位認定は（2 単位）は 3 学年前期（15 時間）終了時に行う
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第 4 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

到達目標

- ・ 出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明する。
- ・ 小児の情緒と社会性の発達を説明する。
- ・ 小児の健康を育む食生活と支援の重要性を説明する。
- ・ 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明する。
- ・ 顎・顔面頭蓋の成長過程を説明する。
- ・ 歯列咬合の発育過程を説明する。
- ・ 歯科治療時の小児の行動への対応法を説明する。
- ・ 障害児の口腔内の特徴と歯科的対応を説明する。
- ・ 小児期の口腔保健の重要性とその手段を説明する。
- ・ 小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を説明する。
- ・ 青少年期に特有な心身の問題とその解決策を概説する。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	小児の成長発育、機能の発達、情緒・社会性の発達	成長発育の特徴、身体の発育とその評価、器官の発育、運動・感覚機能の発達、情緒・社会性の発達	石川雅章
3, 4	小児の生理的特徴、摂食機能と言語の	原始反射、哺乳に関する反射、小児の生理的特徴、感覚の発達、栄養摂取と摂食機能の発達、	石川雅章

	発達	哺乳期、離乳期、幼児期、児童・生徒期、発達期の食の問題、言語の基礎知識、言語の発達、発達期にみられる構音障害	
5, 6	顎・顔面頭蓋、歯列・咬合の発育	頭蓋の構成要素と相対的発育、頭蓋の発育機構、頭蓋発育の評価法、側貌頭部エックス線規格写真計測による日本人小児の平均成長、歯列咬合の発育（無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列期）、歯列発育の評価法	石川雅章
7, 8	発達期の口腔疾患と口腔保健Ⅰ	乳歯・幼若永久歯の特徴、歯・歯数・萌出の異常、乳歯う蝕の特徴、小児う蝕の実態、重症乳歯う蝕の為害作用、青少年期のう蝕	三輪全三
9, 10	発達期の口腔疾患と口腔保健Ⅱ	発達期の歯周疾患、不正咬合、口腔軟組織疾患の原因と予防、不良習癖、咬合誘導	三輪全三
11, 12	歯科治療時の小児行動への対応法	小児の歯科診療時の留意事項（診療環境の整備、小児歯科治療三角、コミュニケーションの確立）、小児の情動の特徴、行動変容法、強制的な行動抑制	小野芳明
13, 14	青少年期に見られる問題点と解決策	青少年の生活環境と問題、いじめ・不登校・児童虐待などの実態、解決策の模索	中里みどり
15	発達期の口腔保健	全体のまとめ	遠藤圭子

評価方法

- 毎回の授業開始前小テストで形成的評価を行う。
- 2 学年後期末の客観試験、記述試験で中間的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・小児の口腔科学 前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他 学建書院
- ・「国民衛生の動向 2011・2012 年」 厚生統計協会
- ・「平成 22 年版 子ども・若者白書」 内閣府
- ・「平成 22 年版 食育白書」 内閣府
- ・「小学校 歯の保健指導の手引き」 東山書房

担当教員の Office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

担当教員（学科外）

石川雅章（歯学部）

三輪全三（小児歯科）

小野芳明（小児歯科）

担当教員（非常勤）

中里みどり（横浜市教育委員会）

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	歯科補綴学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

補綴歯科医療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を習得する。

到達目標

- ・補綴歯科治療の意義と目的を説明する。
- ・補綴歯科治療の種類・特徴を説明する。
- ・補綴歯科治療に関連のある顎口腔系の機能と形態を説明する。
- ・有床義歯の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・冠橋義歯の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・補綴装置使用時における口腔の健康管理を説明する。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	補綴歯科治療の基礎	意義と目的、補綴装置の役割、補綴装置の種類と特徴、材質の相違が口腔に及ぼす影響	鈴木哲也
2	補綴装置の製作過程 1	印象採得 全部床義歯・特徴・粘膜負担	鈴木哲也
3	補綴装置の製作過程 2	垂直的・水平的な咬合採得法、ゴシックアーチ法の概略、咬合器の形態と機能、咬合器と咬合採得	鈴木哲也
4	補綴装置の製作過程 3	印象採得 部分床義歯	若林則幸

5	床義歯の構成と特徴	部分床義歯の特徴 クラスプ・レスト・Iバー・アタッチメント・マグネット・テレスコープ・連結子 歯根膜負担	若林則幸
6	補綴装置の取り扱い方1	床義歯の取り扱い、義歯装着により生じる問題と対応方法、 歯周病との関連	若林則幸
7	補綴装置の管理と補修1	床義歯の管理、補綴装置の修理、デンチャーメーカーキングの目的と実際、ティッシュコンディショニング、支台歯のオーバーロード	鈴木哲也
8	まとめ	健康を考える・口から食す	駒田 亘
9,10	冠橋義歯の種類と特徴1	金属冠・レジン前装冠・ポーセレン前装冠・レジτζジャケットクラウン・オールセラミッククラウン・3/4冠・4/5冠・ピンレヅジ・プロキシマールハーフクラウン・アンレー・ラミネートベニア・ブリヅジなど	駒田 亘
11	冠橋義歯の種類と特徴2	ボンティックの形態、材質と為害作用 セラミック・ジェルコニア等、テンポラリークラウンの意義と為害作用、仮着と合着	駒田 亘
12	補綴装置の取り扱い方2	冠橋義歯の取り扱い、クラウンブリヅジの失敗症例と対応方法	駒田 亘
13	補綴装置の管理と補修2	冠橋義歯の管理	駒田 亘
14	まとめ	健康を考える・介護予防のために	鈴木哲也
15	補綴装置の装着	歯科技工士との協働	鈴木哲也

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。出席状況および授業態度を沿う核的評価に加味する。随時の小テスト等で形成的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常(1)歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・第3版 歯科補綴学専門用語集 日本補綴歯科学会編 医師薬出版
- ・全部床義歯補綴学 林都志夫編 医歯薬出版
- ・よい義歯だめな義歯 鈴木哲也編 クインテッセンス出版

- ・スタンダード部分床義歯補綴学 藍 稔編 学健書院
- ・部分床義歯のトラブル解消法 細見洋泰編 クインテッセンス出版
- ・義歯のケア-歯科衛生士のための副読本-(日本義歯ケア学会監修) 濱田泰三、水口俊介、秋葉徳寿、他編 デンタルダイヤモンド社
- ・クラウンブリッジ補綴学 石橋寛二、川添堯彬編 医歯薬出版
- ・歯冠修復上・下 萩原芳幸編 クインテッセンス出版
- ・口と歯の事典 高戸 毅、天笠光雄編 朝倉書店

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の Office hour

鈴木哲也	随時	suzuki.peoe@tmd.ac.jp
若林則幸	随時	wakabayashi.rpyo@tmd.ac.jp
駒田 亘	随時	w.komada.fpro@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	口腔外科・歯科麻酔学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

口腔外科・歯科麻酔学のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

到達目標

- ・ 顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明する。
- ・ 口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明する。
- ・ 唾液腺疾患の病因と病態について説明する。
- ・ 顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明する。
- ・ 顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
- ・ 麻酔法を説明する。
- ・ 口腔外科・歯科麻酔のチーム医療について説明する。
- ・ 口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明する。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法	吉増秀實
2	先天異常	口唇口蓋裂の診断、治療、その他の顔面奇形	吉増秀實
3	顎発育異常	顎変形症の診断と治療	吉増秀實
4	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷	吉増秀實

5	炎症	歯性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療	吉増秀實
6	嚢胞	歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、軟組織嚢胞の診断と治療	吉増秀實
7	良性腫瘍・腫瘍類似疾患	良性腫瘍・腫瘍類似疾患の診断と治療	吉増秀實
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断・治療	吉増秀實
9	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療	吉増秀實
10	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患の診断と治療	吉増秀實
11	血液疾患、出血性素因	血液疾患、出血性素因の診断と治療	吉増秀實
12	代謝性疾患の口腔症状、症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患	吉増秀實
13, 14	顎関節疾患	顎関節症の診断と治療、顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療	木野孔司
15	口腔外科診療総論	診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒）	吉増秀實
16	口腔外科診療各論（抜歯）	抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治癒過程、術後処置偶発症と処置等	吉増秀實
17	口腔外科小手術	種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等	吉増秀實
18	口腔外科手術患者の口腔ケア	口腔癌・口唇口蓋裂・顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア	吉増秀實
19	歯科麻酔学概論	歯科麻酔学概論	神野成治
20	全身状態評価・バイタルサイン	全身状態評価・バイタルサイン	神野成治
21, 22	全身麻酔法	全身麻酔法	神野成治
23, 24	局所麻酔法	局所麻酔法、局所麻酔薬の種類	神野成治
25, 26	精神鎮静法ほか	精神鎮静法ほか	神野成治
27, 28	ペインクリニック	ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性疾患の種類、診断と治療	神野成治

29, 30	総括	まとめ	吉増秀實
--------	----	-----	------

評価方法

- ・ 随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・ 期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011
- ・ 「歯科衛生士のための口腔外科学」 古森孝秀編著 永末書店
- ・ 「臨床病態学 3」 北村 聖 総編集 ヌーヴェルヒロカワ
- ・ 「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道健一編 永末書店
- ・ 「最新口腔外科学 第4版(総論,各論)」 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

吉増秀實 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

担当教員（学科外）

木野孔司（顎関節治療部）

神野成治（麻酔・生体管理学分野）

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	口腔疾患予防学の基礎
授業形態	講義・実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前後期・必修 3 単位・135 時間
科目責任者	品田 佳世子
ユニット責任者	品田 佳世子
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・臨床基礎実習室・相互実習室

学習目標

- ・ 歯・口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。
- ・ 歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的知識と技術を修得する。

到達目標

- ・ 歯・口腔の健康と予防の定義について説明する。
- ・ 歯・口腔の健康と予防の方法と健康づくりについて説明する。
- ・ セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティーケアの内容を説明する。
- ・ 歯・口腔の付着物・沈着物について説明する。
- ・ 口腔清掃について説明する。
- ・ プラークコントロールの方法について説明する。
- ・ 歯磨剤や洗口剤について説明する。
- ・ 歯周病の症状・種類・診査を説明する。
- ・ 歯周病の予防を説明する。
- ・ う蝕の発生のメカニズムを説明する。
- ・ う蝕の発生要因とう蝕活動性試験を説明する。
- ・ フッ化物の応用とそのう蝕予防効果を説明する。
- ・ フッ化物の代謝や毒性について説明する。
- ・ 歯質損耗 (tooth wear) の症状、種類、予防、治療法を説明する。
- ・ 口臭の分類、原因、予防、処置を説明する。
- ・ 生体への配慮 (器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防) の基本を実践しながら、歯科予防処置を実施できる。
- ・ 歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・ 歯科衛生過程の基本的な使い方を理解する。

授業計画 2 学年前後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔の健康と口腔疾患の予防	歯・口腔の健康と予防の定義、基礎	品田佳世子
2-3	歯・口腔の付着物・沈着物	歯・口腔の付着物・沈着物：ペリクル、プラーク、歯石、舌苔、外来性色素沈着物	品田佳世子
4-5	口腔内観察 1	自己観察 健康な口腔内の把握	品田、近藤圭子、大塚紘未、遠藤圭子、白田千代子
6-7	う蝕の発生、発生要因	う蝕の発生機序、発生要因、う蝕活動性試験	品田佳世子
8-9	リスク検査	実習 う蝕リスクテスト	品田、近藤、大塚、遠藤、白田
10	う蝕予防：食餌性要因、酸蝕症	シュガーコントロール、代用甘味料、その他の予防方法、歯質損耗（tooth wear）の症状・種類・予防法、	品田佳世子
11-12	飲料の糖度と pH 測定	実習	品田、近藤、大塚、遠藤、白田
13	う蝕の予防：フッ化物の応用	フッ化物の応用とそのう蝕予防効果	品田佳世子
14-15	フッ化物応用 1	実習 フッ化物洗口など	品田、近藤、大塚、遠藤、白田
16	フッ化物の急性、慢性中毒	フッ化物の代謝、急性・慢性中毒	品田佳世子
17	歯周病の原因とリスク評価	歯周病の症状・種類・診査・検診、実態調査	品田佳世子
18-19	歯周病のリスクテスト	実習	品田、近藤、大塚、遠藤、白田
20	プラーク・歯石の評価、Index	プラーク・歯石の評価、Index	品田佳世子

21-22	プラーク・歯石等の自己評価	実習 自己観察可能なインデックス	品田、近藤、 大塚、遠藤、 白田
23	歯周病の予防	口腔保健指導、生活習慣指導、歯石除去、歯面研磨等	品田佳世子
24	プラークコントロール：ブラッシング	歯・口腔の清掃法：自然的・人工的・手術的・科学的清掃法、プラークコントロールの重要性と効果、方法	品田佳世子
25-26	ブラッシング	実習	品田、近藤、 大塚、遠藤、 白田
27	フロス、歯間ブラシ、その他	歯間清掃用具および補助的清掃用具	品田佳世子
28-29	フロッシング等	実習	品田、近藤、 大塚、遠藤、 白田
30	歯磨剤、洗口剤について	歯磨剤、洗口剤について	品田佳世子
31	口臭の原因と予防	口臭の分類、原因、予防方法	品田佳世子
32-33	口臭測定等	実習	品田、近藤、 大塚、遠藤、 白田
34-37	フッ化物応用 2 (後期)	相互実習 フッ化物歯面塗布、フッ化物応用の方法と実際	品田、近藤、 大塚、遠藤、 白田、
1-2	歯科衛生過程概略 実習の進め方 1	歯科衛生過程概略、実習の目的と基本事項 実習使用器材の準備 (購入物品について)	近藤、遠藤、 大塚、白田
3-4	実習の進め方 2	マネキンの取扱方法、 歯科用ユニットの操作方法	近藤、遠藤、 大塚、白田
5-6	実習の基本 1	インスツルメントの種類、 衛生材料の作成、滅菌物の取扱方法	近藤、遠藤、 大塚、白田、
7-8	実習の基本 2	位置と姿勢、インスツルメント (診査・検査器具、スケーラー) の把持法と操作法	近藤、遠藤、 大塚、白田、
9-10	インスツルメンテーション 1	インスツルメントの基本操作 1 スケーリングの基本操作 1	近藤、遠藤、 大塚、白田、

			田澤千鶴
11-12	インスツルメンテーション 2	インスツルメントの基本操作 2 スケーリングの基本操作 2	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
13-14	インスツルメンテーション 3	インスツルメントの基本操作 3 スケーリングの基本操作 3	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
15-16	インスツルメンテーション 4	前歯部のスケーリング 1	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
17-18	インスツルメンテーション 5	前歯部のスケーリング 2	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
19-20	インスツルメンテーション 6	前歯部のスケーリング 3	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
21-22	インスツルメンテーション 7	前歯部のスケーリング 4	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
23-24	インスツルメンテーション 8	臼歯部のスケーリング 1	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
25-26	インスツルメンテーション 9	臼歯部のスケーリング 2	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
27-28	インスツルメンテーション 10	臼歯部のスケーリング 3	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
29-30	インスツルメンテーション 11	臼歯部のスケーリング 4	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
31-32	歯面研磨 1	歯面研磨に使用する器材と取扱、方法	近藤、遠藤、 大塚、白田

33-34	歯面研磨 2	歯面研磨の実際	近藤、遠藤、 大塚、白田
35-36	シャープニング 1	シックスケーラーのシャープニング	近藤、遠藤、 大塚、白田
37-38	ルートプレーニング 1	ルートプレーニングの基本	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
39-40	ルートプレーニング 2	ルートプレーニング実習	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
41-43	SRP 1	スケーリング、ルートプレーニング	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
44-46	SRP 2	スケーリング、ルートプレーニング	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
47-48	シャープニング 2	グレイシーキュレットのシャープニング	近藤、遠藤、 大塚、白田
49-51	超音波スケーリング 1	超音波スケーリング	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
52-54	超音波スケーリング 2	超音波スケーリングの実際	近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
55-58	相互実習について	相互実習について、相互実習 スケーラーのシャープニング、準備	近藤、遠藤、 大塚、白田
59-62	相互実習 1	アセスメント 1 医療面接、口腔内観察、検査	品田、塩山、 近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤
63-66	相互実習 2	アセスメント 2	品田、塩山、 近藤、遠藤、 大塚、白田、 田澤

67-70	対象者の把握	記録の整理、歯科衛生診断のためのまとめ	近藤、遠藤、大塚、白田
71-74	相互実習 3	ハンドスケーリング 前歯	品田、塩山、近藤、遠藤、大塚、白田、田澤
75-78	相互実習 4	ハンドスケーリング 前歯	品田、塩山、近藤、遠藤、大塚、白田、田澤
79-82	相互実習 5	ハンドスケーリング 臼歯	品田、塩山、近藤、遠藤、大塚、白田、田澤
83-86	相互実習 6	ハンドスケーリング 臼歯	品田、塩山、近藤、遠藤、大塚、白田、田澤
87-90	相互実習 7	超音波スケーラーによるスケーリング	品田、塩山、近藤、遠藤、大塚、白田、田澤
91-94	相互実習 8	処置後の評価 医療面接、口腔内観察、検査	品田、塩山、近藤、遠藤、大塚、白田、田澤
95-98	記録の整理と確認	記録の整理と確認、まとめ、評価	近藤、遠藤、大塚、白田

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・出席および実習態度などを評価に加味する。
- ・実技試験および筆記試験による試験を実施し、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「歯科衛生士の臨床」ウイルキンス著 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「ベーシック スキル」 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅡ「アセスメントとインスツルメンテーション」 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ「デブライドメント」 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅣ「アドバンス スキル」 医歯薬出版
- ・授業の際に印刷物を配付、または e-learning システム上にアップロードする。

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子	随時	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子	随時	usagi.aohc@tmd.ac.jp
白田千代子	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
大塚絃未	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
塩山秀裕	随時	sioyperi@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

田澤千鶴

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	医学一般 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・ 主な感染症を説明する。
- ・ 主な循環器疾患を説明する。
- ・ 主な呼吸器疾患を説明する。
- ・ 主な消化器疾患を説明する。
- ・ 主な神経疾患を説明する。
- ・ 主な血液疾患を説明する。
- ・ 主な精神疾患を説明する。
- ・ 主な骨・関節・結合組織疾患を説明する。
- ・ 主な精神疾患を説明する。
- ・ 臓器移植を概説する。
- ・ 主な先天性疾患を説明する。
- ・ 有病者の歯科治療・口腔保健活動における対応法を説明する。

授業計画 2 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	内科	内科総論	下門顕太郎
2	内科	呼吸器疾患	立石知也
3	内科	循環器疾患	磯部光章
4	内科	循環器疾患	足利貴志
5, 6	内科	代謝性疾患, 内分泌疾患	吉本貴宣

7, 8	内科	消化管疾患, 肝・胆・膵疾患	岡本隆一
9	内科	神経疾患	水澤英洋
10	内科	腎臓疾患	油井直史
11	内科	血液疾患	山本正英
12	内科	膠原病・リウマチ	高村聡人
13, 14	脳神経外科	脳血管障害、脳腫瘍等	成相 直
15	外科	食道・胃外科	中島康晃
16	外科	肝胆膵外科	工藤 篤
17	外科	大腸・肛門外科	石黒めぐみ
18	外科	乳腺外科	佐 隆宣
19, 20	整形外科	神経系疾患	若林良明
21, 22	整形外科	関節系疾患	渡辺敏文
23, 24	産婦人科	妊娠、出産、不妊治療、更年期障害など	鳥羽三佳代
25, 26	産婦人科	子宮筋腫、子宮がん、卵巣がんなど	若菜公雄
27, 28	精神科	うつ病、統合失調症	西川 徹
29, 30	精神科	認知症	車地暁生
31, 32	講義の総括	総括（試験 1）	吉増秀實
33-35	演習 1	有病者に対する歯科的対応 1	小林 裕
36-38	演習 2	有病者に対する歯科的対応 2	吉増秀實
39-41	演習 3	有病者に対する歯科的対応 3	吉増秀實
42-44	演習 4	有病者に対する歯科的対応 4	吉増秀實
45	演習の総括	総括（試験 2）	吉増秀實

評価方法

- ・ 2 学年後期末に試験を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 医科臨床系教科書を参照

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

吉増秀實 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

担当教員 (学科外)

下門顕太郎 (血流制御内科学分野)
立石知也 (総合呼吸器病学分野)
磯部光章・足利貴志 (循環制御内科学分野)
吉本 貴宣 (分子内分泌内科学分野)
岡本 隆一 (消化器病態学分野)
水澤英洋 (神経内科学分野)
油井 直史 (腎臓内科学分野)
山本正英 (血液内科学分野)
高村聡人 (膠原病・リウマチ内科学分野)
成相 直 (脳神経機能外科学分野)
中島康晃 (食道・胃外科学分野)
石黒めぐみ・佐藤 隆宣 (腫瘍外科学分野)
工藤 篤 (肝胆膵・総合外科学分野)
若林良明 (整形外科学分野)
渡辺敏文 (運動器外科学分野)
鳥羽三佳代・若菜公雄 (生殖機能協関学分野)
西川 徹・車地暁生 (精神行動医科学分野)
小林 裕 (都立広尾病院)

科目名	健康教育の基礎
ユニット名	健康教育の基礎 I
授業形態	講義・演習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室・臨床基礎実習室

学習目標

ライフステージ毎の健康課題を理解し、口腔健康教育におけるアセスメントから評価に至る流れを修得する。

到達目標

- ・口腔健康教育を説明できる。
- ・ライフステージ毎の健康課題を説明する。
- ・歯科衛生過程を活用した健康教育実践の流れが説明できる。
- ・歯科衛生に関わる理論を説明する。
- ・ニーズの把握について説明できる。
- ・アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、実施、評価の各ステップが説明できる。
- ・健康教育のモデルを使い、計画立案ができる。
- ・家庭、地域、学校、職域における健康教育の実際を知る。
- ・視聴覚教材の種類と特徴、作成および使用に際しての留意点を説明できる。

授業計画 2 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1, 2	口腔健康教育とは	健康教育・口腔健康教育の定義 考え方	遠藤
3, 4	ライフステージ毎の健康課題	健康のとらえ方、発達課題 歯や口の健康	遠藤
5, 6	口腔健康教育の基盤となる理論 健康教育のための計画づくり	ニーズの考え方、行動理論 アセスメントに基づく計画立案	遠藤
7, 8	健康教育の実践	健康教育実践に必要なスキル	白田

9, 10	健康教育の評価	評価とは何か、評価の種類	遠藤
11, 12	評価の具体的な事例	保健行政における健康教育評価	白田
13, 14	社会的アプローチ	ソーシャルマーケティング論の応用	遠藤
15, 16	健康教育の展開－家庭	家庭における健康教育の実際	白田
17, 18	〃 －学校	学校における健康教育の実際	遠藤
19, 20	〃 －職域	職域における健康教育の実際	白田
21, 22	〃 －地域	地域における健康教育の実際	白田
23, 24	課題別健康教育－ライフスキル	ライフスタイル支援のあり方	遠藤
25, 26	〃 －運動	筋力トレーニング、禁煙支援	遠藤
27, 28	〃 －栄養、休養	食育、余暇時間	遠藤
29, 30	まとめ	まとめ	遠藤

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「健康教育　ヘルスプロモーションの展開」日本健康教育学会編　保健同人社　2003
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」全国歯科衛生士教育協議会編　医歯薬出版
2011
- ・平成17年歯科疾患実態調査報告書　口腔保健協会　2007
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料やe-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

遠藤圭子　　随時　usagi.aohc@tmd.ac.jp

白田千代子　随時　hakuta.gohc@tmd.ac.jp

科目名	健康教育の基礎
ユニット名	健康教育の基礎Ⅱ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2学年後期・必修1単位・45時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・臨床基礎実習室

学習目標

口腔健康教育の実践に必要な知識・技術を修得し、実践力を培う。

到達目標

- ・生活と口腔保健行動の関連を説明できる。
- ・歯科衛生過程の流れに従って、健康教育が組み立てられる。
- ・個人の口腔保健と生活習慣に関するアセスメントができる。
- ・アセスメントした内容を活用して、歯科衛生診断、計画立案ができる。
- ・対象者に合わせた健康教育計画が立案できる。
- ・口腔健康教育実践のためのツールを説明できる。
- ・口腔清掃の術式、用具の種類と用途を説明でき、口腔清掃指導を実施できる。
- ・対象者に対して、口腔健康教育を実施・評価できる。
- ・口腔内写真撮影ができ、情報把握ができる。

授業計画 2学年後期・必修1単位・46時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1-3	小学生対象の健康教育 1	H小学校における健康教育実習の目的 事前調査について	遠藤
4-6	小学生対象の健康教育 2	学童対象の健康教育計画	遠藤
7-9	小学生対象の健康教育 3	歯科衛生診断、計画立案、健康教育目標の設定、 媒体、シナリオ（絵コンテ）作成	大塚・近藤・ 遠藤
10-12	小学生対象の健康教育 4	リハーサル、評価 健康教育評価法の選択	遠藤
13-15	H小学校健康教育実習	1・2年対象の健康教育の実際 報告書作成	大塚・近藤・ 遠藤
16-18	口腔内写真撮影 1 写真撮影の基礎	デジタルカメラの取り扱い、撮影、パソコン への取り込み・整理、管理法 口角鉤、写真用ミラー使用上の注意	遠藤
19-21	口腔内写真撮影 2 相互実習	相互実習時の配慮点 写真撮影、写真の整理・管理	遠藤
22-24	歯口清掃 1 用具	歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、 歯磨剤、洗口剤	近藤・遠藤
25-27	歯口清掃 2 方法	用具の使い方	遠藤・白田・ 近藤
28-30	歯口清掃 3	電動歯ブラシの種類と使用法	〃

31-33	対象別健康教育事例検討 1	乳幼児期の健康課題	〃
34-36	対象別健康教育事例検討 2	学童期の健康課題	〃
37-39	対象別健康教育事例検討 3	思春期の健康課題	〃
40-42	対象別健康教育事例検討 4	成人期の健康課題	〃
43-45	まとめ	学校、保護者への報告書の作成	遠藤

評価方法

授業態度、グループワークでの役割行動、出席、提出物、期末試験によって、総括的評価を行う。
 期末試験受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書

- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告」 厚生労働省医政局歯科保健課編 口腔保健協会
- ・新歯科衛生士教本「保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「新歯ブラシ事典」 松田裕子、近藤いさを 学建書院
- ・「プラークコントロールのためのホームケア指導」 荒川浩久編集 クインテッセンス出版
- ・「歯と口の健康百科」 伊藤公一他編 医歯薬出版
- ・「子どもの声を生かした保健室活動 ー大規模校における養護教諭と子どもたちー」 尾花美恵子 不昧堂出版
- ・「お母さんの疑問にこたえる すこやかな口 元気な子ども」 田中英一、佐々木洋他 医歯薬出版

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
- ・授業進度や学外実習先の状況によって、関連の授業項目の順序が入れ替わることがある。

担当教員の Office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@md.ac.jp
 近藤圭子 随時 solan.pvoh@md.ac.jp
 白田千代子 随時 hakuta.gohc@md.ac.jp
 大塚紘未 随時 hiromi.pvoh@md.ac.jp

科目名	食生活教育
授業形態	講義・演習
開講時期・単位・時間数	2学年前後期・必修・45時間
科目責任者	小野寺光江
ユニット責任者	小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

栄養学の知識を基に健康を保持・増進するための食生活について理解し、栄養指導に必要な知識と技能を修得する。

到達目標

- ・ 栄養や食生活に関する国の取り組みについて理解し説明する。
- ・ 日本人の食事摂取基準について理解し説明する。
- ・ 健康づくりのための食育の必要性を理解し説明する。
- ・ 日本人の食生活の現状を理解する。
- ・ ライフステージに適した食生活について理解し説明する。
- ・ 保健機能食品について理解し説明する。
- ・ 食生活指導の意義を理解し説明する
- ・ 食生活と口腔保健の関連を理解し説明する。
- ・ 食品の形態と食べやすさの関係について理解し説明する。
- ・ 疾病と食生活指導の必要性を理解し説明する。
- ・ 個人の栄養・食生活を分析する。
- ・ 自らの食生活の現状を知り問題および課題を発見し、食生活教育方法を検討する。
- ・ 口腔保健の立場から個人および集団に対する食生活指導をする。

授業計画 2学年前期・必修・50分×15回

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	日本人の食生活 1	日本人の食生活の現状と栄養や食生活に関する国の取り組み（国民健康・栄養調査の最近の結果など）	小野寺光江
2	日本人の食生活 2	日本人の食事摂取基準	小野寺光江
3	ライフステージと食生活 I	成長・発達・加齢による食に関する機能の変化と食生活	小野寺光江
4	ライフステージと食生活 II	母性の栄養と食生活	小野寺光江
5	ライフステージと食生活 III	乳児期の栄養と食生活	小野寺光江
6	ライフステージと食生活 IV	幼児期の栄養と食生活	小野寺光江
7	ライフステージと食生活 V	学童期および青少年期の栄養と食生活	小野寺光江
8	ライフステージと食生活 VI	成人期の栄養と食生活	小野寺光江
9	ライフステージと食生活 VII	高齢期の栄養と食生活	小野寺光江

10	保健機能食品Ⅰ	食品安全学、保健機能食品学概論	森田育男
11	保健機能食品Ⅱ	保健機能食品学特論	森田育男
12	食生活教育の基礎知識Ⅰ	食生活と口腔保健の関連-1 食生活と口腔機能、食品のう蝕誘発能	寺岡加代
13	食生活教育の基礎知識Ⅱ	食生活と口腔保健の関連-2 食品の形態と食べやすさの関係	寺岡加代
14	食生活指導の基礎知識Ⅲ	食生活と口腔保健の関連-3 咀嚼の意義と全身への影響	寺岡加代
15	食生活教育の基礎知識Ⅳ	疾病と栄養指導-1（糖尿病）	小野寺光江
16	食生活教育の基礎知識Ⅴ	疾病と栄養指導-2（高血圧症、腎臓病）	小野寺光江
17	食生活教育の基礎知識Ⅵ	疾病と栄養指導-3（脂質異常症）	小野寺光江
18	食生活教育の基礎知識Ⅶ	疾病と栄養指導-4（手術前後の栄養、 経管栄養）	小野寺光江
19	食生活教育の基礎知識Ⅷ	栄養・食事バランスの分析 - 1	寺岡加代
20	食生活教育の基礎知識Ⅸ	栄養・食事バランスの分析 - 2	寺岡加代
21	食生活教育の基礎知識Ⅹ	栄養・食事バランスの分析 - 3	寺岡加代
22-24	食生活教育演習Ⅰ	個人に対する食生活教育-1	寺岡加代
25-27	食生活教育演習Ⅱ	個人に対する食生活教育-2	寺岡加代
28-30	食生活教育演習Ⅲ	個人に対する食生活教育-3	寺岡加代
31-33	食生活教育演習Ⅳ	個人に対する食生活教育-4	寺岡加代
34-36	食生活教育 1（演習）	食生活指導の事例検討-1（妊婦）	寺岡加代、 小野寺光江
37-39	食生活教育 2（演習）	食生活指導の事例検討-2（乳幼児）	寺岡加代、 小野寺光江
40-42	食生活教育 3（演習）	食生活指導の事例検討-3（高齢者）	寺岡加代、 小野寺光江
43-45	食生活教育 4（演習）	食生活指導の事例検討-4（発表会）	寺岡加代、 小野寺光江

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

講義、グループ討論、課題発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・副読本：食品成分表 2012 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会監修 医師薬出版
- ・「わかりやすい栄養学」第3版 中村美知子・長谷川恭子編集 ニューヴェルヒロカワ
- ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」第6版 日本糖尿病学会編 日本糖尿病協会・文光堂

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

寺岡加代	随時	ktera.ohce@tmd.ac.jp
小野寺光江	随時	m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	臨床検査
ユニット名	臨床検査
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	吉増秀實
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

口腔保健の実践に必要な臨床検査についての理論と実際を理解し、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。

到達目標

- ・ 臨床検査の目的および意義を説明する。
- ・ 主な臨床検査について説明する。
- ・ 口腔領域のエックス線写真を読影する。
- ・ 歯科金属アレルギー検査を説明する。

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	臨床検査 1	臨床検査概論、血液検査	検査部長/吉増秀實
4-6	臨床検査 2	肝機能検査、腎機能検査、感染症検査	検査部長/吉増秀實
7-9	臨床検査 3	病理検査、口腔領域の検査	検査部長/
10-12	画像診断	歯と歯周組織の X 線診断、デンタル X 線写真、パノラマ X 線写真等の読影法（正常像、異常像）等	口腔放射線分野教員
13, 14	歯科用金属によるアレルギー検査	歯科用金属によるアレルギー検査	歯科アレルギー外来教員
15	咀嚼機能検査	咀嚼機能検査	健康推進歯学教員

評価方法

- ・ 随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・ 講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 新歯科衛生士教本 歯科診療補助 臨床検査法
- ・ 歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学第2版, 学建書院, 2010

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

吉増秀實 火・木 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

担当教員 (学科外)

検査部教員

口腔放射線医学教員

歯科アレルギー外来教員

科目名	生体材料学
ユニット名	生体材料学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

顎口腔歯科領域の治療に使用される歯科生体材料の種類と使用方法について学習する。

到達目標

- ・ 歯科生体材料の一般的性質を理解する。
- ・ 石膏の種類と使用方法を理解する。
- ・ 印象材の種類と使用方法について理解する。
- ・ セメント(合着用セメント、成形修復用セメント)の種類と使用方法について説明する。
- ・ アクリルレジンおよびコンポジットレジンの種類と使用方法を説明する。
- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）に使用する材料の種類と使用方法を概説する。
- ・ 歯科生体材料の安全性について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科生体材料の特徴、生体適合性	歯科生体材料の特徴とその素材、歯科材料の所要性質、生体適合性の重要性と評価方法	高橋英和
2	歯科生体材料の物理的性質と化学的性質	歯科生体材料の物理的性質、機械的性質、応力（ひずみ線図、硬さ）	高橋英和
3	成形修復材 1	歯科用アマルガムの性質と取扱方法、グラムアイオノマーセメントの性質と扱い方法	高橋英和
4	成形修復材 2	コンポジットレジンの性質と扱い方法、接着機序	高橋英和
5	印象材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質	高橋英和
6	印象材 2	ゴム質印象材、非弾性印象材、機能印象材	高橋英和

7	模型材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質	高橋英和
8	模型材 2	石膏の取扱い方法	高橋英和
9	鑄造	歯科精密鑄造の概要とその特徴 鑄造用合金の種類と特徴	高橋英和
10	義歯床用材料	義歯床用レジンの特徴、レジンの重合、裏装材 義歯安定剤	高橋英和
11	合着材 1	合着材の所要性質と種類 リン酸亜鉛セメントの特徴と練和法	高橋英和
12	合着材 2	ポリカルボキシレートセメントの特徴と練和法 ガラスアイオノマーセメントの特徴と練和法 接着性レジンセメントの特徴と練和法	高橋英和
13	歯科治療用材料 予防歯科材料 矯正用材料	歯内療法に用いる小器具の特徴、仮封材の特徴 予防充填材の種類と特徴、歯ブラシの構造 矯正用ワイヤの特徴	高橋英和
14	口腔外科用材料と感染予防 インプラント材料 その他の材料	顎義歯に用いる材料、エプテラゼに用いる材料 インプラント材料の性質、歯科再生材料の性質 歯の物性	高橋英和
15	まとめ	歯科生体材料のまとめ	高橋英和

評価方法

- ・ 期末の筆記試験で総括評価を行う。
- ・ 必要に応じて小テストによる形態的評価を行う。
- ・ 出席状況、平常学習態度等を総括評価に加味する。

参考図書等

- ・ 「臨床歯科理工学」 宮崎隆編 医歯薬出版 2006
- ・ 「コア歯科理工学」 小倉英夫編 医歯薬出版 2008
- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

高橋英和 火 16:00-19:00 takahashi.abm@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学
授業形態	実習・演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年・必修 2 単位・90 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・基礎実習室・臨床基礎実習室・相互実習室

学習目標

- ・ 歯科材料を実際に使用し、その性質や特徴を知り、取り扱い方を学ぶ。
- ・ PCを使用したメディア情報処理、コンテンツ作成の基礎を習得する。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。
- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、基本的な歯科衛生士に必要な技術を身につける。

到達目標

- ・ 石膏を使用して、その特徴、使用目的を知る。
- ・ 印象材の種類とその特徴を体験を通して知る。
- ・ 切削加工を体験し、その意味を知る。
- ・ 学内無線 LAN に各自持ち込み PC を接続できる。
- ・ インターネットにおけるセキュリティー管理、著作権保護を実践できる。
- ・ PC 上で静止画像、プレゼンテーションファイル、動画像を編集できる。
- ・ 表計算ソフトで簡単な集計ができる。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状を理解する。
- ・ 歯科患者の特徴、心理状態を理解し説明する。
- ・ ライフサイクルに合わせた、歯科衛生士の関わりを理解する。
- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、基本的な歯科衛生士に必要な技術を身につける。

授業計画 2 学年前期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-5	石膏	石膏の種類、取り扱い方	高橋英和 岩崎直彦
6-8	石膏	石膏を使用して	高橋英和 岩崎直彦
9-12	印象	印象 1	高橋英和 岩崎直彦
13-15	印象	印象 2	高橋英和 岩崎直彦
16-18	切削加工の基礎	切削加工の意味と実際	高橋英和 岩崎直彦
1, 2	インターネット接続とセキュリティ	各自持参 PC の無線 LAN 接続、インターネットとセキュリティ、著作権、e-learning 基礎	木下淳博
3, 4	静止画像処理 プレゼンテーションファイル作成演習 1	メディアコンテンツ作成（静止画像処理）、 プレゼンテーションファイル作成演習 1	木下淳博 須永昌代
5, 6	プレゼンテーションファイル作成演習 2	プレゼンテーションファイル作成演習 2	木下淳博 須永昌代
7, 8	動画像処理 1	メディアコンテンツ作成（動画像処理 1）	木下淳博 須永昌代
9, 10	動画像処理 2	メディアコンテンツ作成（動画像処理 2）	木下淳博 須永昌代
11, 12	表計算ソフト演習	表計算ソフトによる集計	木下淳博
13	試験	各自持参 PC による試験（CBT）	木下淳博
14	課題発表（動画像処理）	課題発表（動画像処理）	木下淳博
1, 2	口腔保健、歯科医療 1	口腔保健、歯科医療の変遷（演習）	遠藤圭子 近藤圭子
3, 4	口腔保健、歯科医療 2	口腔保健、歯科医療の現状とこれから（演習）	遠藤・近藤
5, 6	歯科診療従事者と歯科診療利用者	臨床の場における専門職種の協働、利用者への対応	遠藤圭子

7, 8	成人の口腔保健歯科医療 1	う蝕・歯周病予防、保存治療、成人の矯正治療、メンテナンス	品田佳世子
9, 10	成人の口腔保健・歯科医療 2	診療所・会社診療所、地域保健の現場	品田佳世子
11, 12	成人の口腔保健・歯科医療 3	口腔外科的疾患の治療とメンテナンス, 有病者・病棟入院者へのかかわり	吉増秀實
1-4	歯科診療室の環境整備	歯科診療室の基礎知識、診療室での身だしなみ、診療室管理の実際、清掃の仕方	白田・近藤・遠藤・大塚
5-7	歯科診療補助の概要 1	歯科治療の流れと歯科衛生士の役割	白田・近藤・遠藤・大塚
8-10	歯科診療補助の概要 2	歯科器材の特徴と取り扱いにおける注意点	白田・近藤・遠藤・大塚
11, 12	共同動作の基本 1	共同動作の概念、術者・補助者・患者のポジション	白田・近藤・遠藤・大塚
13, 14	共同動作の基本 2	ライティング、器具の受渡し、バキュームテクニック、他	白田・近藤・遠藤・大塚
15, 16	インシデントとアクシデント	インシデント・アクシデントの概要と発生時の対応	白田・近藤・遠藤・大塚
17-19	歯科診療補助の実際 1	歯科に用いる薬剤・材料の管理	白田・近藤・遠藤・大塚
20-22	歯科診療補助の実際 2	各診療における特徴的な歯科器具	白田・近藤・遠藤・大塚
23, 24	材料の取扱い	衛生材料の種類と取扱い、作成	白田・近藤・遠藤・大塚
25-28	機械・器械の取扱い	歯科用チェア・ユニットの取扱い、管理の仕方	白田・近藤・遠藤・大塚・田澤千鶴
29-32	滅菌と消毒の実際 1	滅菌・消毒・洗浄の定義、消毒薬使用の実際、歯科ユニットの清掃・消毒	白田・近藤・遠藤・大塚・田澤
33-36	滅菌と消毒の実際 2	各種器材の滅菌・消毒、各種滅菌器材の取扱い	白田・近藤・遠藤・大塚・田澤

37-40	滅菌と消毒の実践 3	外科的処置時の滅菌操作、滅菌グローブの装着	白田・近藤・ 遠藤・大塚・ 田澤
41-44	共同動作の実際	患者の誘導（グループワークと実習） 姿勢と位置の確認（実習）	白田・近藤・ 遠藤・大塚・ 田澤
89, 90	まとめ		白田・近藤・ 遠藤・大塚

評価方法

- ・ 出席状況、平常学習態度等を総括的評価に加味する。
- ・ 提出課題ファイル、試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

- ①入学時の案内・ガイダンス等で指定した推奨ノートPCを準備し、指定のソフト(Microsoft 社製 Power Point、Excel は必須) をインストールしておくこと。
- ②ノート PC、USB フラッシュメモリーおよびステレオイヤホンを持参すること。
- ③事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

高橋 英和 火 16:00 - 19:00 takahashi.abm@tmd.ac.jp
木下 淳博 金 16:00 - 17:00 kinoshita.emdv@tmd.ac.jp
須永 昌代 随時 sunaga.endv@tmd.ac.jp
岩崎 直彦 随時 iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp
白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤 圭子 随時 usage.aohc@tmd.ac.jp
近藤 圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp
大塚 紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

田澤 千鶴（つるた歯科医院）

科目名	臨床口腔保健衛生応用学 I
ユニット名	臨床口腔保健衛生応用学 I
授業形態	実習・演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・90 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・基礎実習室・臨床基礎実習室・相互実習室・歯学科補綴実習室

学習目標

- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱い・技術を理解し、歯科衛生士に必要な基本的な技術を身につける。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

到達目標

- ・ 器材の種類・特性・用途を理解する。
- ・ 診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱いを行う。
- ・ 器材の特性にあわせ、滅菌・消毒を行う。
- ・ 器材の管理のしかたを説明する。
- ・ 患者を安全に誘導する。
- ・ チーム医療に必要な技能を理解する。
- ・ 各科に必要な器材を選択し、診療の流れにそって説明する。
- ・ バイタルサイン（意識レベルを含む）を測定する。
- ・ 歯科患者の特徴、心理状態を理解し説明する。
- ・ ライフサイクルに合わせた歯科衛生士の関わりを理解する。
- ・ 歯科保健医療に関わる職種をあげ、それぞれの役割を説明する。

授業計画 2 学年後期・必修 2 単位・90 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 1	外科的処置時の滅菌操作の実際	白田・近藤・ 遠藤・大塚
4-6	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 2	術衣の着用、滅菌グローブの装着 穴布の使用法	白田・近藤・ 遠藤・大塚

7-10	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 3	消毒薬使用の実際 歯科ユニットの清掃・消毒の実際	白田・近藤・ 遠藤・大塚
11-14	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 4	各種器材の滅菌・消毒の実際 各種滅菌器材の取り扱い	白田・近藤・ 遠藤・大塚
15-17	材料の取扱い	衛生材料の種類と取扱い、作成	白田・近藤・ 遠藤・大塚
18, 19	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	白田・近藤・ 遠藤・大塚
20-23	共同動作（相互実習） 1	姿勢と位置の確認、 ライティング、ミラーテクニック	白田・近藤・ 遠藤・大塚・ 田澤千鶴
24, 25	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	白田・近藤・ 遠藤・大塚
26-29	共同動作（相互実習） 2	バキュームテクニック、3WAY シリンジの使用 方法、器具の受け渡し	白田・近藤・ 遠藤・大塚・ 田澤
30, 31	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	白田・近藤・ 遠藤・大塚
32-35	バイタルサイン（相互実 習） 1	歯科診療に必要な計測、検査	吉増・小野寺 白田・近藤・ 遠藤・大塚
36, 37	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	白田・近藤・ 遠藤・大塚
38-41	バイタルサイン（相互実 習） 2	歯科診療に必要な計測、検査	吉増・小野寺 白田・近藤・ 遠藤・大塚
42-45	歯科材料の取扱い 1	充填材、仮封材 合着用セメントの練和と取扱い	白田・近藤・ 遠藤・大塚
46-49	歯科材料の取扱い 2	印象材 アルジネートの練和と取扱い	白田・近藤・ 遠藤・大塚・ 田澤
50, 51	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	白田・近藤・ 遠藤・大塚

52-55	研究用模型の作成 1	全顎印象採得実習（相互実習）	歯科医師 歯科技工士 近藤・白田 遠藤・大塚・ 田澤
56-58	研究用模型の作成 2	平行模型の作成 1	歯科医師 歯科技工士 近藤・白田 遠藤・大塚
59-61	研究用模型の作成 3	平行模型の作成 2	白田・近藤・ 遠藤・大塚
62, 63	防湿法 1	防湿法について ラバーダム防湿法（基礎実習）	歯科医師 歯科技工士 近藤・白田 遠藤・大塚
64, 65	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	近藤・白田 遠藤・大塚
66-69	防湿法 2	防湿法の実際 ラバーダム防湿法（相互実習）	歯科医師 近藤・白田 遠藤・大塚・ 田澤
1, 2	地域における口腔保健・歯科医療	他職種とのかかわり、医療関係専門職・福祉関係専門職・地域住民	遠藤圭子
3, 4	乳幼児・小児の口腔保健・歯科医療 1	う蝕・歯周病予防、不正咬合と口腔機能の維持増進	遠藤圭子
5, 6	乳幼児・小児の口腔保健・歯科医療 2	診療所・病院、地域保健の現状	遠藤圭子
7, 8	学校歯科保健 1	小学校・特別支援学校での口腔保健と歯科治療	品田佳世子
9, 10	学校歯科保健 2	中学校・高校での口腔保健と歯科治療	品田佳世子
11, 12	成人・高齢者の口腔保健・歯科医療 1	歯の欠損・喪失と歯科補綴治療、口腔機能維持向上	白田千代子
13, 14	成人・高齢者の口腔保健・歯科医療 2	地域保健、有病者・病棟入院患者への関わり	白田千代子

84-86	まとめ		白田千代子
87-90	試験	実技試験、筆記試験	

評価方法

- ・ 中間と期末の筆記試験、実技試験及び提出レポート・課題により総括的評価する。
- ・ 出席状況、意欲・授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 器材準備マニュアル第5版 全国歯科衛生士教育協議会編 財団法人 口腔保健協会

留意事項

- ・ 事前に資料の配布、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

白田千代子	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤 圭子	随時	usage.aohc@tmd.ac.jp
近藤 圭子	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
大塚 紘未	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
吉増 秀實	随時	h-yoshimasu.mfs@tmd.ac.jp
小野寺光江	随時	mitsue.cell@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

田澤 千鶴 （つるた歯科医院）

科目名	歯科衛生過程
ユニット名	歯科衛生過程基礎演習
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	2学年前後期・必修1単位・30時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・演習室

学習目標

人々の健康ニーズにあった支援を提供するために、論理的に思考し、問題を解決する知識・技術を習得する。

到達目標

- ・ 歯科衛生過程の概念を説明する
- ・ 歯科衛生過程の構成要素を説明する
- ・ 歯科衛生過程の必要性と重要性を説明する
- ・ 事例から、対象者の情報を分類・整理する
- ・ 事例から、対象者の歯科衛生分野における問題を明確化し、優先順位をつける
- ・ 明確化した問題の関連因子を特定し、歯科衛生診断文を作成する
- ・ 歯科衛生計画を立案する
- ・ 歯科衛生評価を説明する
- ・ 具体的事例で歯科衛生過程を考える

授業計画 2学年前期・必修2単位・30時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1・2	歯科衛生過程の概念	歯科衛生過程の構成要素	遠藤
3・4	歯科衛生アセスメント1	歯科衛生アセスメントの方法 データの分類・整理と分析・解釈	遠藤・白田
5・6	歯科衛生アセスメント2	歯科衛生問題の明確化 優先順位の決定	遠藤
7・8	歯科衛生診断1	歯科衛生診断文の作成	白田・遠藤
9・10	歯科衛生診断2	〃	遠藤
11・12	歯科衛生計画1	介入内容の検討	遠藤・近藤
13・14	歯科衛生計画2	〃	遠藤・近藤

15		介入法の実際	遠藤・近藤・ 白田
----	--	--------	--------------

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1・2	歯科衛生過程の展開 1	小児の事例（情報確認と整理、統合）	遠藤
3・4	歯科衛生過程の展開 2	〃（歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画）	遠藤
5・6	歯科衛生過程の展開 3	大学生の事例（情報確認と整理、統合）	遠藤
7・8	歯科衛生過程の展開 4	〃（歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画）	遠藤
9・10	歯科衛生過程の展開 5	歯周病の事例（情報確認と整理、統合）	遠藤
11・12	歯科衛生過程の展開 6	〃（歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画）	遠藤
13・14	実践と評価の意義	歯科衛生実践、評価	遠藤
15	総括	まとめ	遠藤

評価方法

- ・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
- ・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「歯科衛生ケアプロセス」佐藤陽子 他 医歯薬出版 2004
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2011
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤 圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp
 近藤 圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp
 白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生過程
ユニット名	歯科衛生過程専門演習
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室・演習室

学習目標

人々の健康ニーズにあった支援を提供するために、問題解決思考過程の歯科衛生過程の概念と展開の方法を理解し、必要な知識・技術を習得する。

到達目標

- ・事例を通して、対象者の情報を分類・整理する
- ・事例を通して、対象者の歯科衛生分野における問題を明確化し、優先順位をつける
- ・明確化した問題の関連因子を特定し、歯科衛生診断文を作成する
- ・歯科衛生計画を立案する(目標・歯科衛生介入・期待される結果)
- ・歯科衛生評価を説明する

授業計画 2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1・2	小児の事例 1	情報確認と整理	遠藤
3・4	小児の事例 2	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤
5・6	大学生の事例 1	情報確認と整理	遠藤
7・8	大学生の事例 2	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤
9・10	歯周病の事例 1	情報確認と整理	遠藤
11・12	歯周病の事例 2	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤
13・14	実践と評価の意義	歯科衛生実践、評価	遠藤
15	総括	まとめ	遠藤

評価方法

- ・課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。
- ・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「歯科衛生ケアプロセス」佐藤陽子 他 医歯薬出版 2004
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2011
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ
ユニット名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉サービスの専門職としての自己理解・他者理解を理解する。
- ・支援を必要とする人たち（患者・サービス利用者・地域住民など）との信頼関係構築に必要なコミュニケーション・スキルやヘルス・カウンセリングの基本を理解する。
- ・保健・医療・福祉サービスにおける相談援助の基盤となる専門職の職業倫理を理解する。

到達目標

- ・保健・医療・福祉サービスの専門職としての自己理解（その重要性と特徴）を説明する。
- ・保健・医療・福祉サービスの専門職としての他者理解（その重要性と特徴）を説明する。
- ・支援を必要とする人たち（患者・サービス利用者・地域住民など）との信頼関係構築に必要なコミュニケーション・スキルやヘルス・カウンセリングの基本を説明する。

授業計画

2 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1	保健・医療・福祉サービスの専門職と相談援助の基盤	オリエンテーション 保健・医療・福祉サービスの専門職と相談援助の基盤	白田・大塚・坪井
2	自己理解と他者理解(1)	自己理解・他者理解と相談援助 ライフ・ヒストリーを通じた自己理解	白田・大塚・坪井
3	自己理解と他者理解(2)	自己紹介ゲームを通じた自己理解・他者理解 授業の振り返りと学習課題	白田・大塚・坪井
4	自己理解と他者理解(3)	自己覚知（専門職としての自己理解） 職業倫理と他者理解の関係性	白田・大塚・坪井

5	自己理解と他者理解(4)	歯科医療・口腔保健における他者理解	白田・大塚・坪井
6	自己理解と他者理解(5)	社会福祉サービスにおける他者理解 授業の振り返りと学習課題	白田・大塚・坪井
7	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(1)	コミュニケーションと自己理解（対人関係の特徴1） コミュニケーションと他者理解（対人関係の特徴2）	白田・大塚・坪井
8	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(2)	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの理解（傾聴と受容）	白田・大塚・坪井
9	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(3)	様々なコミュニケーションとヘルス・カウンセリング授業の振り返りと学習課題	白田・大塚・坪井
10	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(4)	相談援助におけるコミュニケーションとヘルス・カウンセリング1（歯科医療）	白田・大塚・坪井
11	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(5)	相談援助におけるコミュニケーションとヘルス・カウンセリング2（口腔保健①）	白田・大塚・坪井
12	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(6)	相談援助におけるコミュニケーションとヘルス・カウンセリング3（口腔保健②） 授業の振り返りと学習課題	白田・大塚・坪井
13	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(7)	相談援助におけるコミュニケーションヘルス・カウンセリング4（社会福祉）	白田・大塚・坪井
14	コミュニケーション・スキルとヘルス・カウンセリングの基本(8)	相談援助におけるコミュニケーションとヘルス・カウンセリング5（職場・職域）	白田・大塚・坪井
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	白田・大塚

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループ学習の参加状況を評価に加味する。

参考図書等

- ・授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp
大塚 紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

坪井 真（日本放送協会学園）

科目名	現代社会と福祉 I
ユニット名	現代社会と福祉 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第 4 講義室

学習目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

到達目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を説明できる。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら説明できる。
- ・ 現代社会における福祉政策の構成要素や社会資源、関連政策などの概要を説明することができる。
- ・ 人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・ 社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画

2 学年前期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1	オリエンテーション	授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認	専攻教員
2-3	社会福祉の概念と理念	人びとの生活に関わる日本の社会福祉制度	専攻教員
4-6	社会福祉の歴史的展開過程 1	近代以前における社会福祉の歴史	専攻教員
7-9	社会福祉の歴史的展開過程 2	現代社会における社会福祉（実践と制度）	専攻教員
10-12	現代社会における福祉政策 1	現代社会の特徴と福祉政策の概念・理念	専攻教員
13-15	現代社会における福祉政策 2	人びとの健康に関連する日本の政策と国際動向	専攻教員
16-18	保健・医療・福祉専門職の役割	健康にかかわる保健・医療・福祉専門職の役割	専攻教員
19-21	グループ討議	人びとの健康と生活に関連する社会福祉の課題	専攻教員

22	保健・医療・福祉専門職の 価値・倫理	福祉の哲学・原理・価値・人間観	長谷川洋昭
23-24	保健・医療・福祉の実際(1)	人々の生活・健康と保健・医療・福祉(1)	長谷川洋昭
25-27	保健・医療・福祉の実際(2)	人々の生活・健康と保健・医療・福祉(2)	長谷川洋昭
28-29	保健・医療・福祉の実際(3)	人々の生活・健康と保健・医療・福祉(3)	長谷川洋昭
30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	専攻教員

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員（非常勤）

長谷川洋昭（田園調布学園大学）

科目名	現代社会と福祉Ⅱ
ユニット名	現代社会と福祉Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第 4 講義室

学習目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

到達目標

- ・ 保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を具体的に説明できる。
- ・ 現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら具体的に説明できる。
- ・ 福祉政策におけるニーズと社会資源について説明できる
- ・ 福祉政策の課題や福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について説明できる
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について説明できる。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。
- ・ 人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を具体的に述べることができる。
- ・ 社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画

2 学年後期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1-2	オリエンテーション、現代社会における福祉	授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認、現代社会における福祉（特徴と概要）	柳沢志津子
3-4	福祉政策におけるニーズと社会資源	ニーズと社会資源の定義、グループ演習①	柳沢志津子
5-6	福祉政策の課題 1	現代の社会問題（貧困・失業・社会的排除等）	柳沢志津子

7-8	福祉政策の課題 2	社会的包摂とセーフティネット、グループ討議②	柳沢志津子
9-10	福祉政策の課題 3	福祉国家の類型と福祉政策の国際比較	柳沢志津子
11-12	福祉政策の課題 4	日本と諸外国の福祉政策、グループ討議③	柳沢志津子
13-14	福祉政策の構成要素 1	福祉政策の視座と福祉供給部門の概要	柳沢志津子
15-16	福祉政策の構成要素 2	福祉政策と日常生活、グループ討議④	柳沢志津子
17-18	福祉政策の構成要素 3	福祉政策の手法・政策決定過程・政策評価	柳沢志津子
19-20	福祉政策の構成要素 4	福祉供給部門の特徴、グループ討議⑤	柳沢志津子
21-22	福祉政策の構成要素 5	福祉供給・福祉利用に内在する課題	柳沢志津子
23-24	福祉政策の構成要素 6	福祉政策と相談援助の関係、グループ討議⑥	柳沢志津子
25-26	福祉政策と関連政策 1	保健・医療・福祉分野の政策と生活関連政策	柳沢志津子
27-28	福祉政策と関連政策 2	福祉政策と生活課題、グループ討議⑦	柳沢志津子
29-30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	柳沢志津子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員（非常勤）

柳沢志津子（東洋学園大学）

科目名	ソーシャルワークⅠ
ユニット名	ソーシャルワークⅠ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前後期・選択・60時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

- ・相談援助の理論および相談援助の過程と知識・技術について理解する。
- ・相談援助の実際および相談援助の事例分析（意義や方法）について理解する。

到達目標

- ・相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明できる。
- ・相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。
- ・相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明できる。
- ・相談援助における事例分析の意義や方法について説明できる。
- ・相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について説明できる。

授業計画

3学年前期・選択・38時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1-3	ソーシャルワークの概要	オリエンテーション ソーシャルワークの概要（定義・倫理、歴史、理論）	山田美代子
4-6	人と環境の交互作用	システム理論の理解 システム理論とソーシャルワーク実践の関連性	山田美代子
7-9	相談援助の対象	具体的な相談援助の対象と範囲 実際の相談援助事例	山田美代子
10-12	様々な実践モデルとアプローチ	相談援助における実践モデル（問題解決アプローチ、エンパワメント・アプローチなど）	山田美代子
13-15	相談援助の過程	相談援助の基本的なプロセス、事例検討	山田美代子
16-18	相談援助における援助関係	援助関係形成の方法（コミュニケーション・スキル、	山田美代子

		言語・非言語コミュニケーションなど)	
19-20	相談援助のための面接技術(1)	相談援助における面接の場面、活用される援助技術	山田美代子
21-23	相談援助のための面接技術(2)	相談援助における面接の場面、活用される援助技術	山田美代子
22-24	ケースマネジメントと ケアマネジメント	ケースマネジメントとケアマネジメントの共通点と 相違点、諸外国と日本の事例の比較検討	山田美代子
25-27	個別援助技術	個別援助技術（ケースワーク）の内容 事例検討	山田美代子
28-30	スーパービジョン	スーパービジョンの概要、事例検討	山田美代子
31-36	アウトリーチと地域援助技術	アウトリーチの概念、地域援助技術（コミュニティワ ーク）の内容、事例検討	専攻教員
37-42	相談援助における社会資源の活 用・調整・開発	一般的な社会資源の種類、相談援助における社会資源 の位置づけ・活用・調整・開発、事例検討	専攻教員
43-48	ネットワーキング（相談援助におけ る多職種・多機関との連携を含む）	相談援助におけるネットワーキング（相談援助におけ る多職種・多機関との連携を含む）、事例検討	専攻教員

3 学年後期・選択・12 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
49-51	集団援助技術	集団援助技術（グループワーク）の内容 事例検討	堀千鶴子
52-54	記録、相談援助と個人情報の保護の 意義と留意点	相談援助における記録の意味や位置づけ、相談援助に おける個人情報保護の意義と留意点	堀千鶴子
55-57	相談援助の実際 （権利擁護活動を含む）	相談援助（権利擁護活動を含む）の事例検討 グループ討議	堀千鶴子
58-60	相談援助における情報通信技術 (IT)の活用	相談援助における情報通信技術(IT)の活用、事例検討	堀千鶴子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・「相談援助の理論と方法 I（現代の社会福祉士養成シリーズ）」および「相談援助の理論と方法 II（現代の社会福祉士養成シリーズ）」くみ出版

- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員（非常勤）

山田美代子（西片医療福祉研究会）

堀千鶴子（城西国際大学）

第3学年 履修ユニット

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	再建系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

補綴治療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を習得する。

到達目標

- ・補綴歯科治療の意義と目的を説明する。
- ・補綴歯科治療の種類・特徴を説明する。
- ・補綴歯科治療に関連のある顎口腔系の機能と形態を説明する。
- ・有床義歯の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・冠橋義歯の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・顎顔面補綴装置の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・口腔インプラントの種類・特徴を説明し、診療過程を概説する。
- ・補綴装置使用時における口腔の健康管理を説明する。
- ・スポーツ選手の歯の健康管理について説明する。
- ・スポーツ外傷と安全対策について説明する。
- ・金属アレルギーの特徴と対応方法を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	補綴治療の基礎 1	補綴歯科治療の意義と目的、顎口腔機能に果たす補綴装置の役割	水口俊介
2	補綴治療の基礎 2	補綴歯科装置の種類と特徴、粘膜負担と歯根膜負担、材質の相違が歯周組織に与える影響	水口俊介
3	補綴治療の基礎 3	顎口腔系の形態・機能、咬合器の基本と歯科臨床上の必要性・役割	水口俊介

4	補綴歯科治療の基礎 4	歯の喪失に伴う変化	水口俊介
5	床義歯の構成と特徴 1	全部床義歯の特徴と構成要素、金属床とレジン床の特徴と相違、顎口腔系・口腔粘膜への影響	水口俊介
6	床義歯の構成と特徴 2	部分床義歯の特徴、構成要素（クラスプ、レスト、I バー、アタッチメント、マグネット、テレスコープ、連結子など）の特徴と相違	上野剛史
7	冠橋義歯の種類と特徴 1	冠橋義歯の特徴、金属冠、レジン前装冠、ポーセレン前装冠、レジンジャケットクラウン、オールセラミッククラウン、3/4 冠、4/5 冠、ピンレッジ、プロキシマールハーフクラウン、アンレー、ラミネートベニア、ブリッジなど	駒田 亘
8	冠橋義歯の種類と特徴 2	ブリッジの種類と特徴、ポンティックの形態・材質と偽害性、仮着と合着、支台歯形成方法	駒田 亘
9	補綴装置の製作過程 1	印象採得の特徴、全部床制作のための印象採得、部分床制作のための印象採得、クラウンブリッジのための印象採得	水口俊介
10	補綴装置の製作過程 2	咬合採得の特徴、全部床制作のための咬合採得、部分床制作のための咬合採得、クラウンブリッジのための咬合採得	駒田 亘
11	補綴装置の取扱い 1	床義歯の取扱い、義歯装着により生じる問題、義歯安定剤の問題と使用法、味覚と義歯、発音と義歯、唾液と義歯、義歯の慣れ	駒田 亘
12	補綴装置の取扱い 2	冠橋義歯の取扱い、クラウンブリッジの失敗症例と対応方法	駒田 亘
13	補綴装置の管理と補修	床義歯の管理、冠橋義歯の管理、補綴装置の修理、デンチャーマーキングの目的と実際、ティッシュコンディショニング	上野剛史
14	補綴歯科治療の特徴	補綴歯科治療の基本方針、患者の疑問に対する対応、患者指導	上野剛史
15	インプラントの基礎と臨床 1	インプラントの歴史、インプラントの種類	黒田真司
16	インプラントの基礎と臨床 2	インプラントの手技、インプラントの管理	黒田真司
17	インプラントの臨床と制作過程 1	インプラントの埋入法	黒田真司

18	インプラントの臨床と制作過程 2	インプラントの補綴法	黒田真司
19	金属アレルギー1	歯科における金属アレルギーの現状	三浦宏之
20	金属アレルギー2	金属アレルギーの臨床的対応と予防	三浦宏之
21	顎顔面補綴学	顎顔面補綴学が対応する症例	墨田由香
22	顎顔面補綴治療の実際 1	補綴症例、顎顔面補綴治療における口腔衛生指導	墨田由香
23	顎顔面補綴治療の実際 2	顎顔面補綴治療の実際に求められる心理ケア	墨田由香
24	顎顔面補綴治療の実際 3	顎顔面補綴治療におけるチーム医療	墨田由香
25	スポーツ歯学の基礎と臨床 1	スポーツ選手の歯の健康管理	未定
26	スポーツ歯学の基礎と臨床 2	スポーツ外傷と安全対策	未定
27	補綴歯科臨床の実際 1	補綴歯科臨床の実際、 補綴装置の製作過程と患者指導	駒田 亘
28	補綴歯科臨床の実際 2	補綴歯科臨床の実際、 補綴装置の製作過程と患者指導	上野剛史
29	健康を考える補綴歯科臨床 1	補綴臨床から健康を考える	上野剛史
30	健康を考える補綴歯科臨床 2	補綴臨床から健康を考える	黒田真司

評価方法

補綴歯科医療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を習得する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常(1) 歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・第3版 歯科補綴学専門用語集 日本補綴歯科学会編 医歯薬出版
- ・全部床義歯補綴学 林都志夫編 医歯薬出版
- ・よい義歯 だめな義歯 鈴木哲也 クインテッセンス出版
- ・スタンダード部分床義歯補綴学 藍 稔編 学健書院
- ・部分床義歯のトラブル解消法 細見洋泰 クインテッセンス出版
- ・義歯のケア-歯科衛生士のための副読本-(日本義歯ケア学会監修) 濱田泰三、水口俊介、秋葉徳寿他編 デンタルダイヤモンド社
- ・クラウンブリッジ補綴学 石橋寛二、川添堯彬編 医歯薬出版
- ・歯冠修復上・下 萩原芳幸 クインテッセンス出版

- ・よくわかる口腔インプラント学 赤川安正、松浦正朗編 医歯薬出版
- ・GPのための金属アレルギー臨床 中山秀夫・松村光明編 デンタルダイヤモンド社
- ・声と言葉のしくみ 亀田和夫 口腔保健協会
- ・口唇裂口蓋裂の補綴治療 大山喬史編 医歯薬出版
- ・顎顔面補綴の臨床 大山喬史・谷口 尚著 医学情報社
- ・言語聴覚士に必要な歯科の知識 谷口 尚・片倉伸郎・大野友久・墨田由香著 インテルナ出版
- ・スポーツマウスガードハンドブック 大山喬史・上野俊明編 医学情報社
- ・スポーツ歯学の臨床 大山喬史編 医学情報社
- ・スポーツ歯学の臨床マニュアル 日本スポーツ歯科医学編 医学情報社
- ・口と歯の事典 高戸 毅、天笠光雄編 朝倉書店

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員（学科外）

- 水口俊介 随時 s.minaguchi.gerd@tmd.ac.jp
- 三浦宏之 随時 h.miura.fpro@tmd.ac.jp
- 駒田 亘 随時 w.komada.fpro@tmd.ac.jp
- 上野剛史 随時 t.ueno.rpro@tmd.ac.jp
- 墨田由香 随時 yuka.mfp@tmd.ac.jp
- 黒田真司 随時 skuroda.mfc@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	外科系歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	吉増秀實
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

口腔外科臨床のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

到達目標

- ・ 顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
- ・ 顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明する。
- ・ 口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明する。
- ・ 唾液腺疾患の病因と病態について説明する。
- ・ 顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明する。
- ・ 顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明する。
- ・ 顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明できる。
- ・ 麻酔法を説明する。
- ・ 口腔外科のチーム医療について説明する。
- ・ 口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明する。

授業計画 3 学年前期・必修 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法	吉増秀實
2	先天異常	口唇口蓋裂の診断、治療、その他の顔面奇形	吉増秀實
3	顎発育異常	顎変形症の診断と治療	吉増秀實
4	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷	吉増秀實

5	炎症	歯性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療	吉増秀實
6	嚢胞	歯源性嚢胞、非歯源性嚢胞、軟組織嚢胞の診断と治療	吉増秀實
7	良性腫瘍・腫瘍 類似疾患	良性腫瘍・腫瘍類似疾患の診断と治療	吉増秀實
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断・治療	吉増秀實
9	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療	吉増秀實
10	口腔顎顔面領域 の神経疾患、唾 液線疾患	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患の診断と治療	吉増秀實
11	血液疾患、出血 性素因	血液疾患、出血性素因の診断と治療	吉増秀實
12	代謝性疾患の口 腔症状、症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患	吉増秀實
13, 14	顎関節疾患	顎関節症の診断と治療、顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療	木野孔司
15	口腔外科診療総 論	診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒	吉増秀實
16	口腔外科診療各 論（抜歯）	抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治癒過程、術後処置偶発症と処置等	吉増秀實
17	口腔外科小手術	種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等	吉増秀實
18	口腔外科手術患 者の口腔ケア	口腔癌・口唇口蓋裂・顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア	吉増秀實
19	歯科麻酔学概論	歯科麻酔学概論	神野成治
20	全身状態評価・ バイタルサイン	全身状態評価・バイタルサイン	神野成治
21, 22	全身麻酔法	全身麻酔法	神野成治
23, 24	局所麻酔法	局所麻酔法、局所麻酔薬の種類	神野成治
25, 26	精神鎮静法ほか	精神鎮静法ほか	神野成治
27, 28	ペインクリニッ ク	ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性疾患の種類、診断と治療	神野成治

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011
- ・「歯科衛生士のための口腔外科学」 古森孝秀 編著 永末書店
- ・「臨床病態学 3」北村 聖 総編集 スーヴェルヒロカワ
- ・「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道健一編 永末書店
- ・「最新口腔外科学 第4版(総論,各論)」 塩田重利、富田喜内監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

吉増秀實 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

担当教員 (学科外)

木野孔司 (顎関節治療部)

神野成治 (麻酔・生体管理学分野)

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	発達育成系・障害者歯科医学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 3 学年前期・必修・15 時間 単位認定（2 単位）は 3 学年前期終了時に行う
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。障害児・者に対して、口腔保健の立場から支援する際に必要な知識、技術を修得する。

到達目標

- ・ 障害とは何かを理解し、種々の障害の定義を説明できる。
- ・ 障害児・者の口腔内の特徴と歯科疾患罹患状況を説明できる。
- ・ 障害児・者の歯科治療時における行動への対応法を概説する。
- ・ 障害児・者の歯科治療におけるチーム医療を概説する。
- ・ 障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制を概説する。
- ・ 障害児・者の口腔健康教育の実際を説明できる。
- ・ 広汎性発達障害児の療育と歯科的対応が概説できる。
- ・ 発達期障害児の摂食指導が概説できる。

授業計画 3 学年前期・必修 15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	障害と歯科医療 1	障害の分類およびその特徴、口腔内所見、歯科疾患罹患状況	篠塚 修
3, 4	障害と歯科医療 2	行動調整法の種類とその概要	篠塚 修
5, 6	障害と歯科医療 3	診療計画立案、予後管理、障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制	篠塚 修
7, 8	う蝕予防の最新理論	プラークフルイド、臨界 pH、母子感染に対する考え方、歯質の成熟と再石灰化	品田佳世子

9, 10	障害児・者に対する口腔健康教育の実際	ニーズ診断（理解力、運動機能、コミュニケーション能力評価）、障害に対応したセルフケア、ホームケア	大沼由希 秋山喜久江
11, 12	広汎性発達障害児・者に対する行動調整法と口腔健康教育、歯科治療の実際	広汎性発達障害児療育の概要、TEACHH 法、PECS 法、歯科診療の構造化、自閉症児歯科治療と口腔健康教育時の視覚支援	五十川伸崇
13, 14	発達障害児の食べる機能、発達障害とその対応	摂食、発達療法、摂食・嚥下機能の発達を阻害する要因、摂食機能障害の検査方法、評価の流れ	未定
15	まとめ	歯科衛生の視点からの障害児・者支援	遠藤圭子

評価方法

出席状況、レポート・テスト等により総括的評価を行う。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本 「障害歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「スペシャルニーズデンティストリー」 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版
- ・「食べる機能の障害」 金子芳洋編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（学科外）

篠塚 修（障害者歯科学分野）

大沼由希（歯学部附属病院）

秋山（歯学部附属病院）

担当教員（非常勤）

五十川伸崇（亀田病院）

科目名	先端歯周病予防学
ユニット名	先端歯周病予防学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

歯周病予防に必要な最新の臨床知識を理解し、歯科衛生士としての実践に役立つ判断能力を養う。

到達目標

- ・ 歯周病予防と全身の関連を説明できる。
- ・ 最新の歯周病検査を説明する。
- ・ 歯周病における免疫反応を概説する。
- ・ 歯周専門分野での歯科衛生士の役割を説明する。
- ・ 歯周病予防における歯科衛生士の役割を説明する。

授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	歯周組織の健康と全身の健康との関わり 1.	歯周病のリスクファクターとなる全身疾患に関する最新情報	和泉雄一
3	歯周組織の健康と全身の健康との関わり 2.	歯周病のリスクファクターとなる全身疾患に関する最新情報	未定
4	ライフステージと歯周疾患	各ライフステージにおける歯周疾患の特徴およびその予防	未定
5	3・4 年次臨床実習における歯周基本治療の実際 1.	臨床実習における歯周治療の流れ・健康調査票の確認	塩山秀裕
6	3・4 年次臨床実習における歯周基本治療の実際 2.	臨床実習における歯周組織検査・口腔保健衛生指導	塩山秀裕

7	3・4年次臨床実習における歯周基本治療の実際3	臨床実習におけるスケーリング・ルートプレーニング	塩山秀裕
8	歯科衛生士による歯周治療の実際1	歯科衛生士による歯周病治療の実際	宮本洋子
9	歯科衛生士による歯周治療の実際2	本学歯学部附属病院での歯科衛生士による歯周治療の実際	難波佳子
10	最新の歯周病検査	酵素反応、遺伝工学的手法を用いた最新の細菌検査	竹内康雄
11	歯周組織再生治療	歯周組織再生の最新治療	木下淳博
12	歯周病専門医による歯周外科治療の実際1	結合組織移植術を用いた根面被覆の症例	菊池重成
13	歯周病専門医による歯周外科治療の実際2	歯周組織再生療法の症例	須田智也
14	歯周病専門開業医における歯科衛生士の役割	歯周病専門開業医における歯科衛生士の役割	菊池重成 鷺尾有香
15	歯周外科治療における歯科衛生士の役割	歯周外科治療における歯科衛生士の役割	難波佳子

評価方法

出席状況、レポート・小テスト等により総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・歯周病診断のストラテジー 吉江弘正、宮田 隆 編 医歯薬出版
- ・チームアプローチで成功させる実践的歯周治療 野口俊英、横田 誠 編 医学情報社
- ・AN INTRODUCTION TO RISK PREDICTION AND PREVENTIVE DENTISTRY Per Axelsson, DDs.
Odont Dr Quintessence Publishing, Inc

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨む事。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

渡辺 久 随時 watanabe.peri@tmd.ac.jp

科目名	口腔疾患予防学実習
ユニット名	口腔疾患予防学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・1 単位・45 時間 (2 学年前期・後期・2 単位・90 時間) 単位認定 (3 単位) は3 学年前期終了時に行う
科目責任者	品田 佳世子
ユニット責任者	品田 佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、相互実習室、臨床基礎実習室

学習目標

- ・ 歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的知識と技術を修得する。

到達目標

- ・ う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を理解する。
- ・ 歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態を把握できる。
- ・ 器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防など生体への配慮の基本を実践しながら、歯科予防処置に必要な知識と技術を修得する。
- ・ 歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・ 歯科衛生過程にそって、口腔ケアを実施できる。

授業計画 2 学年前後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	試験ケースの説明、SRP・研磨復習	実習の進め方、SRP 復習	近藤、白田、 遠藤、大塚、
4-6	シャープニング、SRP・研磨復習	シャープニング、SRP・研磨復習 相互実習準備	近藤、白田、 遠藤、大塚 田澤
7-9	ケース・シミュレーション実習 1	相互実習 シミュレーション I アセスメント 1	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤

10-12	ケース・シミュレーション実習 2	相互実習 シミュレーションⅡ アセスメント 2	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
13-15	歯科衛生過程による診断・計画・業務記録、実習準備	歯科衛生過程による診断・計画、POS 相互実習準備	近藤、白田、 遠藤、田澤、 大塚
16-18	ケース・シミュレーション実習 3 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅢ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
19-21	ケース・シミュレーション実習 4 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅣ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
22-24	ケース・シミュレーション実習 5 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅤ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
25-27	ケース・シミュレーション実習 6 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅥ 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
28-30	ケース・シミュレーション実習 7 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅦ（評価） 臨床実習（口腔ケア北 2）体験実習	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
31-33	ケース・シミュレーション実習 8	相互実習シミュレーションⅧ（評価）・記録 整理	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
34-36	資料作成など	資料のまとめ、発表の準備	近藤、白田、 田澤、大塚

37-39	集団に対するフッ化物塗布 校外実習	幼稚園児に対する集団フッ化物塗布実習	品田、寺岡、 吉増、近藤、 遠藤、白田、 大塚
40-42	ケース・シミュレーション実 習 7	ケース発表	品田、塩山、 近藤、白田、 遠藤、大塚、 田澤
43-45	まとめ	発表後のフィードバック	品田、近藤、 白田、遠藤、 大塚

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・出欠状況、実習態度などを総括的評価に加味する。
- ・実技試験および筆記試験を期末に実施し、2・3年の総括的評価を行う。

参考図書等

- ・「歯科衛生士の臨床」ウイルキンス著 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「ベーシック スキル」 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅡ「アセスメントとインスツルメンテーション」
医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ「デブライドメント」 医歯薬出版
- ・目で見るとペリオドンタルインスツルメンテーションⅣ「アドバンス スキル」 医歯薬出版
- ・「歯科衛生ケアプロセス」下野正基監修 医歯薬出版
- ・授業の際に印刷物を配付、または e-learning システム上にアップロードする。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour (メールで約束してから来室してください)

近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp
白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

大塚紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

品田佳世子 随時 shinada.ohp@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

塩山秀裕 東京医科歯科大学歯学部附属病院 口腔ケア外来

田澤千鶴

科目名	医学一般
ユニット名	医学一般
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・30 時間 3 学年前期・必修・30 時間 単位認定（4 単位）は3 学年前期終了時に行う
科目責任者	吉増秀實
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・ 主な感染症を説明する。(2 年)
- ・ 主な循環器疾患を説明する。(2 年)
- ・ 主な呼吸器疾患を説明する。(2 年)
- ・ 主な消化器疾患を説明する。(2 年)
- ・ 主な精神疾患を説明する。(2 年)
- ・ 主な骨関節・結合組織疾患を説明する。(2 年)
- ・ 主な精神疾患を説明する。(2 年)
- ・ 主な先天性疾患を説明する。
- ・ 主な皮膚疾患を説明する。
- ・ 主な耳鼻咽喉科疾患を説明する。
- ・ 主な眼科疾患を説明する。
- ・ 主な泌尿器科疾患を説明する。
- ・ 老化に伴う主な疾患を説明する。
- ・ 再生医療を概説する。
- ・ 救急医療について概説する。
- ・ 機能障害およびリハビリテーション医療を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
31, 32	小児科	小児が罹患しやすい感染症、先天性疾患等	長澤正之
33, 34	小児科	小児麻痺、進行性筋ジストロフィー、小児喘息など	菅原祐之
35, 36	皮膚科	アトピー性皮膚炎、薬剤アレルギー、皮膚癌等	高山かおる
37, 38	皮膚科	しみ、しわ、老化性変化、疥癬、水虫等	高山かおる
39, 40	耳鼻咽喉科	耳科学、鼻科学	戸叶尚史
41, 42	耳鼻咽喉科	咽頭、喉頭	岩崎朱見
43, 44	眼科	主な目の病気	大野京子
45, 46	眼科	老化と目	大野京子
47, 48	泌尿器科	主な泌尿器の病気など	石岡淳一郎
49, 50	泌尿器科	老化に伴う変化、悪性腫瘍など	横山みなど
51, 52	リハビリテーション	リハビリテーション	森田定雄
53, 54	再生医療	再生医療とは、再生医療の口腔領域への応用	黒田真司
55, 56	救急災害医学	救急災害医療	村田希吉
57, 58	有病者に対する対応	総合病院における歯科衛生士の役割	道脇幸博
59, 60	有病者に対する対応	有病者の歯科医療	吉増秀實

評価方法

- ・ 期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 医学部臨床系教科書

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

吉増秀實 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤・学科外）

長澤 正之・菅原 祐之（発生発達病態学分野）

高山 かおる（皮膚科学分野）

戸叶 尚史・岩崎 朱見（耳鼻咽喉科学分野）

大野 京子（眼科学分野）

石岡 淳一郎・横山 みなと（腎泌尿器外科学分野）

黒田 真司（インプラント・口腔再生医学分野）

森田 定雄（リハビリテーション医学分野）

村田 希吉（救急災害医学分野）

道脇幸博（武蔵野赤十字病院）

科目名	保健行動科学
ユニット名	コミュニケーション論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、歯学部 演習室

学習目標

健康上もしくは生活上の課題をもつ人たちの立場にたって考え、支援するための基盤となるコミュニケーションの知識・技術および支援者としての態度を修得する。

到達目標

- ・支援者としての適切な態度（挨拶や言葉遣いなど）を身につける。
- ・自分自身の性格や価値観などを客観的に理解し、肯定的・否定的な両面を認識する。
- ・人の性格や価値観、生活様式などを理解し、互いに尊重する。
- ・健康上および生活上の課題をもつ人たちの感情を理解し、受容するための態度を身につける。
- ・言語的・非言語的コミュニケーションの特徴を説明する。
- ・自分の言語的・非言語的コミュニケーションの特徴を理解し、課題や改善策を説明する。
- ・支援者として相手の心身機能や生活歴の違いによるコミュニケーションの特徴を理解して、配慮する。

授業計画 3 学年前期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	支援とコミュニケーション 自己紹介	支援とは何か 自分を知ってもらうこと	遠藤、白田
3, 4	自己理解 自己開示	対人関係と自己理解 自己開示とは何か	遠藤、白田 小野寺、大塚
5, 6	コミュニケーションの基本	非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション	遠藤、白田 小野寺、大塚
7, 8	コミュニケーションのあり方	各自のコミュニケーションのとり方の特徴	遠藤、白田 小野寺、大塚

9, 10	相手の立場に立った支援の実際	心身機能の理解、生活歴 支援者の役割	遠藤、白田 小野寺、大塚
11, 12	チームワークとリーダーシップ	チームワークに必要なもの リーダーシップとは何か	遠藤、白田 小野寺、大塚
13, 14	人と環境の相互作用 チームワーク	チームワークの実際	遠藤、白田 小野寺、大塚
15	振り返りとまとめ	まとめ	遠藤、白田

評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

担当教員の Office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp
白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp
小野寺光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp
大塚紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、歯学部演習室

学習目標

患者・地域住民の QOL の向上および健康や生活上の課題解決を支援する際に必要となるコミュニケーションや相談支援に関わる知識、技術、態度を修得する。

到達目標

- ・ 専門職としての適切な態度を身につける。
- ・ 対処とする人の感情を理解し、受容する態度を身につける。
- ・ 実践上の課題、改善策を整理する。
- ・ 対象とする人の心身機能や生活歴を受け入れた対応をする。
- ・ 専門的な視点から支援策を考える。
- ・ 学生自身の特性を理解し、キャリアについて考える。

授業計画 3 学年前期・1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	オリエンテーション	オリエンテーション 基本姿勢	遠藤
3, 4	セッション 1	接近の手がかり	遠藤・白田
5, 6	セッション 2	観察、傾聴の技術	遠藤・近藤
7, 8	セッション 3	確認と共感、信頼関係の構築	白田・遠藤
9, 10	セッション 4	キャリア・カウンセリング 1：自分の特性を見つける	遠藤・近藤
11, 12	セッション 5	キャリア・カウンセリング 2：個性を生かす	遠藤・白田
13, 14	セッション 6	キャリア・カウンセリング 3：キャリアの選択と開発	遠藤・近藤

評価方法

出席、授業への取り組みならびに提出物により評価する。

留意事項

キャリアに関するテーマを取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場に即した内容を設定して、授業を進める。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

遠藤圭子 随時 usage.aohc@tmd.ac.jp

近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学実習
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・90 時間 3 学年前期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は 3 年前期（45 時間）終了時に行う
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 臨床基礎実習室・歯学科実習室

学習目標

歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、歯科衛生士に必要な基本的な技術を身につける。

到達目標

- ・器材の種類・特性・用途を理解する。
- ・診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取扱いをする。
- ・器材の特製にあわせ、滅菌・消毒をする。
- ・患者の誘導のしかた・患者とのコミュニケーション。
- ・チーム医療に必要な技能を実践する。
- ・バイタルサイン（意識レベルを含む）の測定、判断ができる。
- ・救急蘇生について説明し、ダミーを使用し体験する。

授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	歯科診療の補助とは 歯科診療の補助	歯科診療の補助の実際について 保存修復学 1. 補助の実践 器材を扱う体験 歯内療法 1. 補助の実践 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、大塚
4-6	歯科保険について 1. 歯科診療の補助	社会保険制度の体系と医療保険 保存修復学 2. 補助の実践 器材を扱う体験 歯内療法 2. 補助の実践 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、大塚

7-9	歯科保険について 2. 歯科診療の補助	歯科保険の仕組み 歯周疾患 補助の実践 器材を扱う体験 矯正歯科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、大塚
10-12	歯科保険について 3. 歯科診療の補助	歯科治療と歯科保険請求 口腔外科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、大塚
13-15	歯科保険について 4. 歯科診療の補助	歯科保険請求書の作成 小児歯科 補助の実践 器材を扱う体験	白田、遠藤、 近藤、大塚
16-18	歯科保存処置関連実習 1.	器材の取り扱いの実際 充填物	島田康史 白田、遠藤、 近藤、大塚
19-21	歯科保存処置関連実習 2.	器材の取り扱いの実際 接着材	島田康史 白田、近藤 遠藤、大塚
22-24	歯科診療補助	歯科補綴科 補助の実践 器材を扱う 体験	白田、近藤 遠藤、大塚
25-27	暫間被覆冠の作成	暫間被覆冠の種類と作製の実際	白田、遠藤、 近藤、大塚
28-30	精密印象採得の実習	精密印象・硬石膏の取り扱い（相互実習）	白田、遠藤、 近藤、大塚、 田澤
31-33	小児歯科関連の実習	フッ化物塗布の実際（相互実習）	品田佳世子 白田、遠藤 近藤、大塚、 田澤
34-36	口腔外科・歯科麻酔関連 実習	浸潤麻酔・静脈確保の実際	神野成治 吉増秀實 白田、大塚
37-39	補綴物について	義歯の種類と取り扱い方	白田、近藤 遠藤、大塚
40-42	救急蘇生法の実習	救急蘇生の実際	神野成治 白田、大塚
43-45	臨床口腔保健学基礎実習 評価 OSCE	科目の理解度を評価 実技及び筆記試験	OH 教員全員 大塚、田澤

評価方法

- ・ 期末の筆記試験、実技試験及び提出レポート・課題により総括的評価する。
- ・ 出席状況、意欲・授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2007
- ・ 「器材準備マニュアル第5版」全国歯科衛生士教育協議会編 財団法人 口腔保健協会

留意事項

- ・ 事前に資料の配布、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

白田千代子	随時	hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	随時	usage.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	随時	solan.pvoh@tmd.ac.jp
大塚紘未	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	顎口腔機能訓練法
ユニット名	顎口腔機能訓練法
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

顎・口腔・顔面領域の運動および間隔の健全な発達を支援する必要性、および様々な顎口腔機能訓練の役割とその実際を理解する。

到達目標

- ・顎口腔機能発達の遅滞に対する支援を概説できる。
- ・顎口腔機能の発達に影響を及ぼす習癖などを説明できる。
- ・顎口腔機能の発達における哺乳・離乳、摂食の重要性を説明できる。
- ・口腔筋機能訓練法を概説できる。
- ・発音機能の発達とその異常を概説できる。
- ・構音障害とその診査法・訓練法を概説できる。
- ・摂食・嚥下機能の発達障害を概説できる。
- ・重症障害児の摂食訓練を概説できる。
- ・顎口腔の先天異常における摂食機能への影響を説明できる。
- ・唇顎口蓋裂児における Hotz 床の役割を概説できる。

授業計画 3 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	摂食・嚥下機能の発達、非栄養的吸綴行動と口腔習癖	発達の原則、機能の発達と習熟、哺乳の発達、相互作用の意義、成人の摂食・嚥下過程、非栄養的吸綴行動の背景と発達への影響、歯科からのアプローチ	佐々木洋
3, 4	口腔筋機能療法の基本理論と流れ	口腔筋機能療法の概説、促進法、筋機能訓練、行動変容療法、理論と訓練法の組立、包括的歯科における口腔筋機能療法の応用	佐々木洋

5, 6	口腔筋機能の評価法と口腔筋機能療法の手技	摂食・嚥下過程での顎舌協調運動の評価、口機能の障害とパラファンクション、筋触診、摂食・嚥下過程の間に評価、低位舌と口唇閉鎖、姿勢、評価法と手技の演習	佐々木洋
7, 8	発音機能の発達と遅滞、言語治療の概要	言語聴覚士について、正常な構音発達、発達中の音の誤りの特徴、機能性構音障害と治療法、症例供覧	壬生美智子
9, 10	構音障害とその訓練	器質性構音障害と治療法、舌小帯強直症と言語治療、口蓋裂に伴う構音障害と言語治療、鼻咽腔閉鎖機能の診査と評価、スピーチエイドとパラタルリフト、症例供覧	壬生美智子
11, 12	摂食嚥下機能の遅滞、重症障害児の摂食訓練	摂食嚥下機能の発達遅滞、遅滞を助長する外部環境因子、異常パターンの定着、重症心身障害児の摂食訓練	大塚義顕
13, 14	発達障害児の食べる機能、発達障害とその対応	顎口腔の先天異常と摂食機能の発達、唇顎口蓋裂児の哺乳と離乳、Hotz 床の目的・構造および治療効果、術前鼻歯槽形成法 (PNAM)、家族・本人への精神的支援	落合聡
15	総括	まとめ	遠藤

評価方法

- ・レポート提出、客観試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・口腔筋機能療法 (MFT) の臨床 佐々木洋他編 医歯薬出版
- ・口腔筋機能療法の実践 高橋未哉子 クインテッセンス出版
- ・口唇口蓋裂の理解のために一すこやかな成長を願って一 夏目長門、鈴木俊夫 医歯薬出版
- ・言語聴覚療法シリーズ8・器質性構音障害 斎藤裕恵 建帛社
- ・口蓋裂の言語治療 岡崎恵子他 医学書院

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

担当教員（学会外）

壬生美智子（言語治療外来）

担当教員（非常勤）

佐々木洋（UTAKA DENTAL OFFICE）

大塚 義顕（千葉東病院）

落合 聡（聖マリア病院）

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・140 時間 4 学年前期・必修・40 時間 単位認定（4 単位）は4 学年前期（40 時間）終了時に行う
科目責任者	品田 佳世子
ユニット責任者	品田 佳世子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応する。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応する。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明する。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明する。
- ・ 診療室への患児および保護者を適切に誘導する。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介する。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築く。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応する。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・ インフォームドコンセントを行う。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施する。

授業計画 3 学年後期・必修・140 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
---	------	------	-------

1-24	臨床実習ガイダンスおよび予備実習	臨床実習ガイダンス、小児歯科外来、歯科放射線外来、中央器材室実習等に関するオリエンテーション	口腔保健学科教員、歯学科教員、歯科衛生士
25-95	小児歯科外来実習	小児歯科外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	小児歯科外来教員、歯科衛生士
96-120	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療の補助	歯科放射線外来教員、放射線技師
121-140	中央器材室実習	中央器材室における歯科診療室管理業務実習	看護師

評価方法

- ・実習記録等により総括的評価を行う。
- ・実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の Office hour

- ・品田佳世子 月・金 16:00-18:00 shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習 I
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 6 単位・270 時間
科目責任者	品田 佳世子
ユニット責任者	近藤 圭子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

・主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施できる。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施できる。

授業計画 3 学年後期・必修 6 単位・270 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-45	臨床実習ガイダンスおよび予備実習	臨床実習ガイダンス、口腔ケア外来、むし歯外来、歯周病外来、義歯外来、口腔外科外来等におけるオリエンテーション	口腔保健学科教員、歯学科教員、歯科衛生士
46-135	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導	口腔保健学科臨床系教員 非常勤講師 佐々木好幸
136-180	むし歯外来実習	むし歯外来における歯科診療補助、歯科保健指導	むし歯外来教員、歯科衛生士
181-225	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療補助、歯科保健指導	歯周病外来教員、歯科衛生士
226-248	義歯外来実習	義歯外来における歯科診療補助、歯科保健指導	義歯外来教員、歯科衛生士
249-270	口腔外科外来実習	口腔外科外来における歯科診療補助、歯科保健指導	口腔外科外来教員、看護師

評価方法

- ・実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

- ・新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とすることがある。

担当教員の Office hour

- ・品田佳世子 随時 shinada.ohp@tmd.ac.jp
- ・近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp
- ・吉増秀實 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・30 時間 3 学年後期・必修・15 時間 4 学年前後期・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年前後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、小学校、幼稚園、保育園、病院 等

学習目標

地域保健活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・地域における口腔保健活動を説明する。
- ・学童、園児等のニーズを判断して、健康教育の企画し、実践する。
- ・健康教育による介入後の変化を評価する。
- ・病院における歯科衛生活動の内容を説明する。

授業計画 3 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	臨地実習の意義 小学生対象健康教育 1	臨地実習について 事前調査項目の検討、設計	遠藤、白田 近藤
4-7	小学生対象健康教育 2	小学校 1・2 年生の健康課題 生活習慣、学童が抱える歯科的問題	白田
8-10	小学生対象健康教育 3	教材の意義、種類、特徴、活用法 絵コンテ作成、必要物品準備	近藤、遠藤
11-14	小学生対象健康教育 4	学外実習(T 小学校における健康教育) 実習、事後評価、実習報告書の作成	遠藤、近藤
15-17	幼稚園児対象健康教育 1	アセスメント（情報の整理、統合） 歯科衛生介入計画	遠藤
18-21	幼稚園児対象健康教育 2	フッ化物局所応用に関する企画	遠藤、近藤

22-24	幼稚園児対象健康教育 3	実習、事後評価、実習報告書の作成 (N 幼稚園における健康教育)	遠藤、近藤 品田、寺岡
25-27	保育園児対象健康教育 1	幼児の健康課題、生活習慣、幼児が抱える 歯科的問題	遠藤、近藤
28-30	保育園児対象健康教育 2	実習、事後評価、実習報告書の作成 (H 市保育園における健康教育)	遠藤、近藤
31-35	総合病院における活動の実際	総合病院の現状と職種間の連携	白田、遠藤
36-40	〃	入院患者の現状の把握	白田、遠藤
41-45	〃	患者誘導、術後指導、患者への配慮	白田、遠藤

評価方法

授業への取り組み、出席状況、報告書、期末試験を基に総括的評価を行う。

留意事項

- ・学外実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切な場合には、実習停止とすることがある。

担当教員の Office hour

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@md.ac.jp
 近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp
 白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp
 品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp
 寺岡加代 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業形態	講義、演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・60 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年（210 時間）終了時に行う
科目責任者	寺岡加代
ユニット責任者	寺岡加代
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要、これまでの卒業研究の紹介、口腔保健学科指導教員の研究テーマ紹介、卒業研究テーマの考え方	寺岡加代
3, 4	研究のデザイン	Evidence-based Medicine (EBM), Evidence-based Health Care (EBHC)とは、論文の構成、文献の検索と引用、文献の科学的吟味	吉田雅幸 藍 真澄 小笹由香
5, 6	研究方法の立案、結果の整理	実験ノートのつけ方、調査票作成上の注意、倫理上の問題、個人情報管理、結果の入力方法とエクセルの使い方	吉田雅幸 藍 真澄 小笹由香

7-10	研究結果の分析処理	研究結果の分析方法、有意性の検定、統計ソフトの使い方の実際	吉田雅幸 藍 真澄 小笹由香
11, 12	研究計画の仮決定、論文書式	研究テーマの仮決定、研究分野・指導教官の決定、研究計画書の作成方法、CD 掲載概要版と本論文の書式について	寺岡加代
13-28	研究分野とテーマの検討 1	指導教官との討論による研究計画・方法の検討、研究テーマに関連する文献検索と知見の整理、課題の設定、研究計画書の作成	寺岡加代 各教員
29-36	4 年生特論研究成果報告会	4 年生特論研究成果報告会への参加	寺岡加代 各教員
37-44	研究計画案の作成	研究計画書の作成 倫理審査委員会と研究評価方法について	寺岡加代 各教員
45-52	研究計画案の提出	研究計画案の再検討および提出	寺岡加代 各教員
53-60	研究計画発表会	研究計画書の発表と質疑応答	寺岡加代 各教員

評価方法

- ・研究計画発表会での発表、および研究計画書により総括的中間評価を行う。
- ・単位認定（6 単位）は 4 学年終了時に行う。
- ・単位認定は、3 年次から各課題（論文抄録、研究計画書、中間発表会プレゼンテーション用ファイル、成果報告会プレゼンテーション用ファイル、卒業研究論文概要版）の Blackboard への期限内提出、本論文、研究進行表の提出により行う。

参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」、金澤紀子、武井典子、合場千佳子、岩久正明 編、医歯薬出版
- ・「医薬研究者の視点からみた道具としての統計学」、奥田千恵子、金芳堂
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第 2 版、石村貞夫他著、東京図書

留意事項

・常に指導教官、副指導教官と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表の各月欄に認印をもらうこと。

担当教員の Office hour

寺岡加代 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

科目名	高齢者に対する支援と制度Ⅱ
ユニット名	高齢者に対する支援と制度Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・選択2単位・30時間
科目責任者	小野寺 光江
ユニット責任者	小野寺 光江
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・高齢者の人々の生活実態および高齢者の人々を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要、終末期ケアの在り方について理解する。
- ・高齢者福祉制度の発展過程、介護保険制度や高齢者の福祉、介護に係る他の法制度、介護の概念および介護課程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。

到達目標

- ・高齢者の人々の生活実態および人々を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域行こう、就労の実態を含む）について理解する。
- ・高齢者福祉制度の発展過程について理解し説明する。
- ・介護の概念や対象およびその理念等について理解し説明する。
- ・介護課程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について説明する。
- ・高齢者に多い疾患について学び、尊厳を保持しながら日常生活を送るための支援について理解し説明する。
- ・終末期の在り方（人間観や倫理を含む）について理解し説明する。
- ・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解し説明する。
- ・高齢者の福祉・介護と口腔保健の関連性について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	高齢者を取り巻く社会環境	少子高齢化・家族変化・介護への影響	柳沢志津子
4-6	高齢者福祉制度の変遷	老人福祉法・介護保険・老人保健法	柳沢志津子
7-9	介護保険制度	制度の概要、改正ポイント、地域包括支援センター概要	柳沢志津子

10-12	その他の高齢者に関わる福祉制度	高齢者虐待の実態・高齢者虐待防止法、成年後見制度と自立支援事業、居住安定にかかる制度・移動に関する制度・高齢者雇用	柳沢志津子
13-15	地域包括支援センターにおける専門職連携	高齢者福祉施設・在宅福祉サービス・福祉多元主義・専門職連携	柳沢志津子
16, 17	高齢者の心身の特徴 1	高齢者の生理機能と心理的特徴 1	小野寺光江
18, 19	高齢者の心身の特徴 2	高齢者の生理機能と心理的特徴 2	小野寺光江
20, 21	高齢者の疾病と支援 1	脳卒中を既往にもつ高齢者の特徴と支援	小野寺光江
22, 23	高齢者の疾病と支援 3	認知症高齢者の特徴と支援 1	小野寺光江
24, 25	高齢者の疾病と支援 4	認知症高齢者の特徴と支援 2	小野寺光江
26, 27	高齢者の疾病と支援 5	高齢者の福祉・介護と口腔保健	茶山裕子
28, 29	高齢者の疾病と支援 6	終末期の在り方と支援	小野寺光江
30	まとめ	まとめ	小野寺光江

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と制度 社会福祉士養成講座編集委員会編
中央法規

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺 光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

柳沢 志津子（東洋学園大学）

茶山 裕子（文京湯島高齢者在宅サービスセンター）

科目名	地域福祉の理論と方法 I
ユニット名	地域福祉の理論と方法 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修・15 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について説明できる。

授業計画

3 学年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1	地域福祉の理念	自立支援、地域生活支援、地域移行	柳沢志津子
2	地域福祉の基本概念 1	地域コミュニティと住民、社会福祉法	柳沢志津子
3	地域福祉の基本概念 2	人権尊重、権利擁護、社会的包摂、	柳沢志津子
4	地域福祉の歴史的展開 1	地域福祉の源流 COS 活動とセトルメント活動	柳沢志津子
5	地域福祉の歴史的展開 2	戦後日本の地域福祉	柳沢志津子

6	地域福祉の歴史的展開 3	地域コミュニティ視点の登場	柳沢志津子
7	地域福祉の主体と対象 1	地方分権、住民自治	柳沢志津子
8	地域福祉の主体と対象 2	福祉の多元化、市場化	柳沢志津子
9	地域福祉の問題とは何か	ビデオ「孤立する都市の高齢者」	柳沢志津子
10	地域福祉を支える組織と人々1	行政組織の役割と実際、地方自治体	柳沢志津子
11	地域福祉を支える組織と人々2	民間組織の役割と実際、社会福祉協議会、共同募金	柳沢志津子
12	地域福祉を支える組織と人々3	民間組織の役割と実際、社会福祉法人、NPO・NGO、自治会	柳沢志津子
13	地域福祉を支える組織と人々4	社会福祉専門職の役割と実際、社会福祉士、地域活動専門員、介護相談員	柳沢志津子
14	地域福祉を支える組織と人々5	地域住民の役割と実際、民生委員、児童委員、ボランティア、自治会	柳沢志津子
15	まとめ	ミニテスト	柳沢志津子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法 第2版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法」（最新年度版）ミネルヴァ書房
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員（非常勤）

柳沢志津子（東洋学園大学）

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
ユニット名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・15 時間 単位認定（3 単位）は 4 学年前期（30 時間）終了時に行う
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について具体的に説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について具体的に説明できる。

授業計画

3 学年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1	地域福祉の推進方法 1	社会福祉法	柳沢志津子
2	地域福祉の推進方法 2	コミュニティワーク技法	柳沢志津子
3	地域福祉の推進方法 3	ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発	柳沢志津子
4	地域福祉の財源	地方自治体の地域福祉財源、民間財源	柳沢志津子

5	地域福祉の実際 1	社会福祉施設の地域拠点	柳沢志津子
6	地域福祉の実際 2	福祉教育とボランティア活動	柳沢志津子
7	地域福祉計画策定 1	地域福祉計画策定の流れ	柳沢志津子
8	地域福祉計画策定 2	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	柳沢志津子
9	地域福祉計画策定 3	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	柳沢志津子
10	地域福祉計画策定 4	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	柳沢志津子
11	地域福祉計画策定 5	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	柳沢志津子
12	地域福祉の実際 3	地域福祉計画における住民主体形成	柳沢志津子
13	地域福祉の実際 4	福祉サービスの評価方法、第三者評価事業	柳沢志津子
14	地域福祉の実際 5	福祉の情報提供と苦情解決システム	柳沢志津子
15	まとめ	ミニテスト	柳沢志津子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法 第2版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・「厚生指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法」（最新年度版）ミネルヴァ書房
- ・その他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員（非常勤）

柳沢志津子（東洋学園大学）

科目名	保健医療サービス
ユニット名	保健医療サービス
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・相談援助活動において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて理解する。
- ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

到達目標

- ・保健・医療分野における相談援助の特徴を説明できる。
- ・医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）の特徴や仕組みを説明できる。
- ・保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割と実際について説明できる。
- ・保健医療サービスにおける他の専門職（医師・看護師・保健師・リハビリテーション関連職など）の役割と実際について説明できる。
- ・インフォームドコンセントの概要（関連制度、自己決定・自立尊重原理など）を説明できる。
- ・保健医療サービスにおける他職種連携や医療チームアプローチについて説明できる。

授業計画

3 学年後期・選択 2 単位・30 時間

回	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	オリエンテーション 保健医療サービスの概要	授業の説明、相談援助活動と保健医療サービス 保健・医療分野における相談援助の特徴	山田美代子
3-4	医療保険制度の概要	医療保険の種類とプロセス、医療費に関する政策動 向	山田美代子
5-6	出来高払いと 包括払い制度 医療費減免等の諸制度	出来高払いと包括払い制度の内容、医療費政策との 関連 高額療養費制度、他の医療費減免制度（在宅療養を 含む）	山田美代子

7-8	診療報酬制度	診療報酬制度の内容、診療報酬制度における社会福祉士	山田美代子
9-10	医療法の概要	医療法の概要、医療機関の種類、診療報酬と医療連携	山田美代子
11-12	医療ソーシャルワーカーの概要	医療ソーシャルワーカーの歴史、仕事と役割、業務指針	山田美代子
13-14	病院組織とMSW	病院内のMSWの位置づけ、MSWと他職種との関係	山田美代子
15-16	医師・看護師・保健師の役割(1)	医師・看護師・保健師の法的定義、診療報酬制度	山田美代子
17-18	医師・看護師・保健師の役割(2)	医療法における医師・看護師・保健師	山田美代子
19-20	インフォームド コンセント	関連制度、自己決定・自立尊重原理、ICとMSW業務	山田美代子
21-22	リハビリテーション 関連職の理解	作業療法士(OT)、理学療法士(PT)、言語聴覚士(ST)の仕事と役割	山田美代子
23-24	医療チーム アプローチ(1)	入院から退院にいたる一般的なプロセスと各段階における医療従事者の役割	山田美代子
25-26	医療チーム アプローチ(2)	医療チームアプローチの実際	山田美代子
27-28	地域保健医療サービスと 社会福祉	地域保健法の概要、保健師の役割、介護保険と地域保健医療サービス体制	山田美代子
29-30	まとめ	事例から学ぶ保健医療サービス 授業の振り返りと学習成果の確認	山田美代子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「保健医療サービス 第2版（新・社会福祉士養成講座 第17巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員（非常勤）

山田美代子（西片医療福祉研究会）

科目名	社会調査の基礎
ユニット名	社会調査の基礎
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・社会調査の意義と目的・方法、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。

到達目標

- ・社会調査の意義と目的及び方法の概要について説明できる。
- ・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について説明できる。
- ・量的調査及び質的調査の基本的な方法を説明することができる。

授業計画

3 学年前期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
1-2	現代社会と社会調査	社会調査の特質、統計集団、ホーソン効果など	
3-4	社会調査の用途と歴史	行政調査、福祉調査、世論調査、市場調査、学術調査	
5-6	調査内容の決定(1)	テーマの選び方、調査事象の概念化など	
7-8	調査内容の決定(2)	調査における質問と回答の役割など	
9-10	調査対象の決定(1)	統計調査における標本調査の重要性など	
11-12	調査対象の決定(2)	サンプリング分布理論を用いた統計的推測の考え方	
13-14	調査の実施と処理(1)	社会調査実施の具体的手順とさまざまな実査方法	
15-16	調査の実施と処理(2)	調査終了後の点検、データ・ファイルの作成など	
17-18	結果の集計と分析(1)	量的データと質的データの集計方法、基本統計量など	
19-20	結果の集計と分析(2)	量的変数に関する多変量解析法の考え方と実例など	
21-22	聴取調査の方法	聴取調査の手順、構造化面接、調査結果の個別性など	

23-24	調査結果のまとめ	調査報告書における表やグラフの作成方法など	
25-26	社会調査の実際(1)	時系列調査、パネル調査、国際比較調査など	
27-28	社会調査の実際(2)	貧困、少子高齢化、災害、受益圏と受苦圏など	
29-30	調査者と被調査者	個人情報保護、社会調査という活動が許される条件など	

評価方法

- ・定期試験（放送大学）の結果に基づき評価する。

参考図書等

- ・教科書：「社会調査」放送大学テキスト
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の Office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	相談援助の理論と方法
ユニット名	相談援助の理論と方法
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択・45 時間 3 学年前期（夏季集中）・選択・53 時間 3 学年後期・選択・22 時間 } 8 単位
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・相談援助の理論および相談援助の過程と知識・技術について理解する。
- ・相談援助の実際および相談援助の事例分析（意義や方法）について理解する。

到達目標

- ・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について説明できる。
- ・相談援助の対象と様々な実践モデルについて説明できる。
- ・相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明できる。
- ・相談援助における事例分析の意義や方法について説明できる。
- ・相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について説明できる。

授業計画

3 学年前期・選択・45 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
1-3	イントロダクション	社会福祉援助技術の概要（定義・倫理、歴史、理論）	
4-6	人と環境の相互作用	システム理論の理解、ソーシャルワーク実践との関連性	
7-9	相談援助の対象	具体的な相談援助の対象と範囲（視聴覚学習）	
10-12	様々な実践モデルとアプローチ	相談援助における実践モデル（問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、エンパワメント・アプローチなど）	

13-15	相談援助の過程	相談援助の基本的なプロセス、事例検討	
16-18	相談援助における援助関係	援助関係形成の方法（コミュニケーション・スキルなど）	
19-21	相談援助のための面接技術	相談援助における面接の場面、活用される技術など	
22-24	ケースマネジメントとケアマネジメント	ケースマネジメントとケアマネジメントの共通点と相違点、諸外国と日本の事例の比較検討	
25-27	アウトリーチ	アウトリーチの概念、相談援助の事例検討	
28-30	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	一般的な社会資源の種類、相談援助における社会資源の位置づけ・活用・調整・開発、事例検討	
31-33	ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む）	相談援助におけるネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む）、事例検討	
34-36	集団を活用した相談援助	グループワークの概要、事例検討	
37-39	スーパービジョン	スーパービジョンの概要、事例検討	
40-42	記録、相談援助と個人情報の保護の意義と留意点	相談援助における記録の意味や位置づけ、相談援助における個人情報保護の意義と留意点	
42-44	相談援助における情報通信技術（IT）の活用	相談援助における情報通信技術（IT）の活用、事例検討	
45	授業の振り返り	授業内レポートの作成	

3 学年前期（夏季集中）・選択・53 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
45-47	相談援助の実際（権利擁護活動を含む）	相談援助（権利擁護活動を含む）の事例検討、グループ討議	
48-50	社会福祉援助の展開過程 1	展開過程の概要、各過程の特徴、事例検討	
51-53	社会福祉援助の展開過程 2	個人・家族を支援する社会福祉援助の展開過程	
54-56	社会福祉援助の展開過程 3	集団・地域を支援する社会福祉援助の展開過程	
57-59	個別援助技術 1	個別援助技術（ケースワーク）の内容、事例検討	
60-62	個別援助技術 2	個別援助技術（ケースワーク）の展開過程	
63-65	集団援助技術 1	集団援助技術（グループワーク）の内容、事例検	

		討	
66-68	集団援助技術 2	集団援助技術（グループワーク）の展開過程	
69-71	地域援助技術 1	地域援助技術（コミュニティワーク）の内容、事例検討	
72-74	地域援助技術 2	地域援助技術（コミュニティワーク）の展開過程	
75-77	その他の 社会福祉援助技術	アウトリーチ、スーパービジョンの内容、事例検討	
78-80	地域を基盤とした実践 1	コミュニティソーシャルワークの内容と展開過程	
81-83	地域を基盤とした実践 2	ソーシャルケア・サービスと社会福祉援助の関係	
84-86	地域を基盤とした実践 3	マイクロ実践とマクロ実践の連結による社会福祉援助	
87-89	地域を基盤とした実践 4	ファシリテーションの内容と社会福祉援助の関係	
90-92	総合的な 社会福祉援助実践	医療・保健・福祉の連携による成果支援（事例検討）	
93-95	社会福祉援助と関連領域	社会福祉援助と関連領域の関係（事例検討）	
96-98	授業の振り返り	学習成果の確認と授業内レポートの作成	

3 学年後期・選択・22 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
99-101	相談援助の過程 1	相談援助における受理面接（インテーク）、事例検討	
102-104	相談援助の過程 2	相談援助における事前評価（アセスメント）、事例検討	
105-107	相談援助の過程 3	相談援助における支援計画（プランニング）、事例検討	
108-110	相談援助の過程 4	相談援助における経過観察（モニタリング）、事例検討	
111-113	相談援助の過程 5	相談援助における事後評価、事例検討	
114-116	相談援助の過程 6	相談援助における終結と改善、事例検討	

117-119	包括的な相談援助事例 1	包括的な相談援助の事例検討	
120	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「相談援助の理論と方法 I 第 2 版（新・社会福祉士養成講座 第 7 巻）」「相談援助の理論と方法 II 第 2 版（新・社会福祉士養成講座 第 8 巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の Office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助演習
ユニット名	社会福祉相談援助演習
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期（夏季集中）・選択・42 時間 単位認定（5 単位）は 4 学年前・後期（108 時間）終了時に行う
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	大塚紘未
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

社会福祉における相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

到達目標

- ・社会福祉援助の特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助の内容・方法とプロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助に関する実践上の課題について、自らの意見を述べるすることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。
- ・社会福祉相談援助実習に向けた自らの興味関心と学習課題を説明することができる。

授業計画

3 学年前期（夏季集中）・選択・42 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
1-4	相談援助演習の理解	①相談実践と相談援助技術 ②相談援助演習とは何か～演習の目的・意義～	
5-8	相談援助技術基礎 1	自己覚知について～自分と他者～	
9-12	相談援助技術基礎 2	自己覚知について～自分との出会い～	
13-16	相談援助技術基礎 3	援助と指導～援助・支援とは何かを考える～	
17-20	相談援助技術基礎 4	基本的なコミュニケーション技術の習得 ～言語的コミュニケーションと非言語的コミュ	

		ニケーション	
21-24	相談援助技術基礎 5	基本的な面接技術の習得①	
25-28	相談援助技術基礎 6	基本的な面接技術の習得②	
29-32	相談援助技術基礎 7	相談実践における価値と倫理①	
33-36	相談援助技術基礎 8	相談実践における価値と倫理②	
37-38	個別援助技術の基礎	相談援助における個別援助技術の活用	
39-40	集団援助技術の基礎	相談援助における集団援助技術の活用	
41-42	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	

評価方法

- ・演習の参加状況および単元ごとの学習成果（レポートなど）で評価する。

参考図書等

随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、グループディスカッションやロールプレイなどには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の Office hour

大塚紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習
ユニット名	社会福祉相談援助実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択 ※実習日数（時間）は24日間（180時間）・16日間（120時間）・8日間（60時間）以上のいずれか。 単位認定（4単位）は、4年次の実習期間終了後に行う
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	大塚絃未
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

- ・社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

授業計画 3 学年後期（春季集中）・選択・16日間（120時間）もしくは8日間（60時間）以上
実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総合的評価を行う。

担当教員の Office hour

大塚絃未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習指導
ユニット名	社会福祉相談援助実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択・32 時間 単位認定（2 単位）は 4 学年前後期（58 時間）終了時に行う
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	大塚絃未
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明できる。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に体験し、経験知として説明できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化できる。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理できる。

授業計画

3 学年前期・選択・23 時間

回	授業題目	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明	専攻教員、大塚
2	社会福祉施設・機関の把握	社会福祉施設・機関の概要、社会福祉相談援助実習における実習施設・機関の位置づけなど	専攻教員、大塚
3-8	実習計画の検討(1)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、大塚

9-17	実習計画の検討(2)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
18-25	実習計画の検討(3)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
26-32	実習計画の検討(4)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚

評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。(4年後期)

参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

担当教員の Office hour

大塚紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

編入3学年 履修ユニット

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	編入3学年前・後期・必修1単位・45時間
科目責任者	坂本裕次郎
ユニット責任者	坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科基礎科学実習室、歯学部基礎実習室

学習目標

入学前後に人体の構造と機能及び疾病、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ちと回復過程の促進、生体材料学などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

到達目標

- ・人体の骨格標本および主要器官の組織標本を観察して特徴を説明する。
- ・組織標本の切片作製と染色を行い、光学顕微鏡観察の意義について説明する。
- ・う蝕および歯周病のリスクおよびその予防方法について説明する。
- ・口臭の測定や口腔内状況を観察し、口臭の発生や予防について説明する。
- ・尿の比重測定および一般検査を行い、尿から得られる生体の情報について説明する。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明する。
- ・咀嚼筋筋電図および誘発筋電図を記録し、筋収縮のしくみについて説明する。
- ・歯科で用いられる生体材料の基本的な操作法を説明する。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明する。
- ・細菌の分離培養とその細菌の鑑別を行う。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	解剖組織学実習1	組織標本作製（組織切片の作製）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
4-6	解剖組織学実習2	組織標本作製（組織切片の染色）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
7-9	解剖組織学実習3	骨格標本の観察	坂本裕次郎
10-12	リスクテスト	う蝕や歯周病のリスクテスト	品田佳世子
13-15	う蝕の発生と予防	飲料の糖度測定、pH測定、フッ化物や再石灰化促進物質の予防・再石灰化効果	品田佳世子

16-18	口臭測定と予防	口臭の測定、口臭予防製品の効果	品田佳世子
19-21	生理学実習 1	尿の生理学（尿比重測定・一般尿検査）	小野寺光江
22-24	生理学実習 2	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定、嗅覚検査）	杉本久美子
25-27	生理学実習 3	咀嚼筋筋電図	杉本久美子
28-30	歯科材料学実習 1	石膏の硬化反応	高橋英和
31-33	歯科材料学実習 2	印象採得と模型の精度	高橋英和
34-36	歯科材料学実習 3	歯科用セメント、常温重合型レジンとコンポジットレジンの硬化反応と寸法変化	高橋英和
37-39	薬理学実習	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用	青木和広・ 田村幸彦
40-42	細菌学実習 1	細菌の分子生物学的実験 1	中川一路
43-45	細菌学実習 2	細菌の分子生物学的実験 2	中川一路

評価方法

- ・出席状況、実習態度、提出レポート等で総括的評価を行う。
- ・各実習項目の実習状況を総合して評価するが、原則としてそれぞれに合格しなくてはならない。
- ・実習項目ごとに評価するので、原則としてそれぞれに出席を満たさなくてはならない。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

- ・必ず白衣を着用すること。
- ・事前に、配付される実習書等を読み、関連知識を予習しておくこと。

担当教員の office hour

坂本裕次郎 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp
高橋英和 生体材料加工学分野 火 17:00～19:00 takahashi.abm@tmd.ac.jp
中川一路 細菌感染制御学分野 月・木 16:00-18:00 ichiro-n.bac@tmd.ac.jp
杉本久美子 口腔基礎科学分野 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
青木和弘 硬組織薬理学分野 月 16:00-18:00 kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦 硬組織薬理学分野 金 16:00-18:00 tamu.hpha@tmd.ac.jp
小野寺光江 随時 m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp

第4学年 履修ユニット

科目名	社会保障論Ⅱ
ユニット名	社会保障論Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択・15 時間 単位認定（3 単位）は放送大学関連科目の履修と併せて行う
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第 2 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉サービスを包含する社会保障の理念や歴史、社会保障の各制度や体系、諸外国における社会保障制度の概要を理解する。

到達目標

- ・現代社会における社会保障制度の課題を説明する。
- ・社会保障制度の概念・対象・理念を説明する。
- ・社会保障の財源と費用を説明する。
- ・社会保険と社会扶助の関係を説明する。
- ・公的保険制度と民間保険制度の関係を説明する。
- ・社会保障制度の体系（各制度の概要）を説明する。
- ・年金保険制度や医療保険制度の具体的内容を説明する。
- ・諸外国における社会保障制度の概要を説明する。

授業計画

4 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当
1	現代社会と社会保障制度	オリエンテーション、少子高齢社会と社会保障制度	弓削俊雄
2	社会保障制度の概念・対象・理念	社会保障の概念と範囲、役割と意義、理念と対象	弓削俊雄
3	社会保障の歴史(1)	諸外国における社会保障制度の発達	弓削俊雄
4	社会保障の歴史(2)	日本における社会保障制度の発達	弓削俊雄
5	社会保障の財源と費用	社会保障の財源、社会保障給付費、国民負担率	弓削俊雄
6	社会保険と社会扶助	社会保険の概念と範囲、社会扶助の概念と範囲	弓削俊雄

7	公的保険制度と民間保険制度の関係	公的施策と民間保険制度の現状	弓削俊雄
8	社会保障制度の体系(1)	年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要	弓削俊雄
9	社会保障制度の体系(2)	労災保険制度、雇用保険制度、家族手当制度の概要	弓削俊雄
10	社会保障制度の体系(3)	各種社会福祉制度、生活保護制度の概要	弓削俊雄
11	年金制度の具体的内容	国民年金、厚生年金、各種共済組合の年金	弓削俊雄
12	医療保険制度の具体的内容(1)	国民健康保険と健康保険（具体的内容と事例）	弓削俊雄
13	医療保険制度の具体的内容(2)	各種共済組合の医療保険（具体的内容と事例）	弓削俊雄
14	諸外国における社会保障制度の概要	各国の社会保障制度（具体的内容と特徴）	弓削俊雄
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	弓削俊雄

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員（非常勤）

弓削俊雄

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング特論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室、歯学部 演習室

学習目標

歯科保健医療従事者として対人援助をするために、コミュニケーションやカウンセリングの手法を応用して、問題解決するための判断力と行動する姿勢を身につける。

到達目標

- ・対象とする人に対して、支援者としての基本的な態度をとることができる。
- ・対象とする人の話を受容的に聴く。
- ・歯科医療従事者の活動場面でのコミュニケーションを理解する。
- ・人びとの健康づくりに必要なカウンセリング技法を理解する。
- ・事例に則した問題解決のため意欲的に判断し、行動する。

授業計画 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	オリエンテーション	授業の目的と方法	遠藤、白田 近藤、小野寺
3, 4	対象とする人の理解	カウンセリング技法の基礎と応用	遠藤、白田
5, 6	事例検討 1	口臭を訴える患者へのカウンセリング	遠藤、白田 小野寺
7, 8	事例検討 2	審美的悩みを抱える患者へのカウンセリング	白田、遠藤 近藤
9, 10	地域住民に対する相談技法	地域住民とのコミュニケーションの実際	遠藤、白田 小野寺
11, 12	産業保健におけるカウンセリング	産業保健における禁煙支援	遠藤、近藤

13, 14	ストレスマネジメント	ストレス対処法に関するカウンセリング	遠藤、白田
15	まとめ	振り返りとまとめ	遠藤

評価方法

出席、授業への取り組みならびに提出物により評価する。

留意事項

具体的事例を取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場における対人援助に即した内容を設定して、授業を進める。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp
小野寺光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

科目名	介護概論
ユニット名	介護概論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者	小野寺 光江
ユニット責任者	小野寺 光江
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・社会を構成する基本的単位である家族について学び、その機能の変遷より、現代の日本社会が抱える介護の問題を理解するとともに、基本的な介護技法を習得する。

到達目標

- ・家族とは何かを理解し説明する。
- ・家族の機能およびその変遷を理解し説明する。
- ・介護とは何かを理解し説明する。
- ・家族機能の視点から介護の必要性を理解し説明する。
- ・介護の対象を理解し説明する。
- ・介護活動の展開法を理解し説明する。
- ・介護予防の必要性を理解し説明する。
- ・介護予防活動の概要を説明する。
- ・老年症候群について理解し説明する。
- ・介護に必要な基本的な介護を理解し説明する。
- ・要支援者・要介護者の心身の特徴を理解し説明する。
- ・福祉用具について説明する。
- ・介護にかかわる保健・医療・福祉等の関連職種との連携の必要性を理解し説明する。

授業計画 4 学年前期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	家族とは何か	家族の概念、家族の機能	助友 裕子
2	現代家族の動向 1	家族形成の原理、現代社会と家族	助友 裕子
3	現代家族の動向 2	現代社会の家族構造および機能の変化	助友 裕子

4, 5	介護とは何か	介護の概念、介護の対象、要支援者・要介護者および介護者の特徴	小野寺光江
6-11	介護技術	介護活動の展開、日常生活援助のための基本的な介護・福祉用具	小野寺光江
12, 13	介護と関連機関との連携	介護と医療の継続	小野寺光江
14	高齢社会の課題	高齢者を取り巻く諸問題	小野寺光江
15	まとめ	まとめ	小野寺光江

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
16, 17	介護予防とは何か	介護予防の必要性、老年症候群	新井 武志
18, 19	介護予防の対象	介護予防の対象	新井 武志
20, 21	介護予防活動Ⅰ	介護予防活動の展開	新井 武志
22, 23	介護予防活動Ⅱ	介護予防活動時のリスク管理	新井 武志
24, 25	介護予防活動Ⅲ	転倒予防プログラムの概要	新井 武志
26, 27	介護予防活動Ⅳ	運動器の機能向上プログラムの概要	新井 武志
28, 29	介護予防活動Ⅴ	自己管理型筋力増強プログラムの概要	新井 武志
30	まとめ	まとめ	新井 武志

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 社会福祉士養成講座編集委員会

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺 光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

助友 裕子（国立がん研究センター）

新井 武志（目白大学）

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	歯科口腔介護
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室ほか

学習目標

加齢に伴う口腔機能の変化を理解し、高齢者の心身と口腔の状況に応じた口腔機能の保持・増進のための方法および技術を習得する。

到達目標

- ・高齢者の口腔保健の現状と課題を説明する。
- ・加齢に伴う口腔機能の変化を説明する。
- ・高齢者の口腔の健康維持・増進の必要性を説明する。
- ・高齢者や障害者の口腔機能評価方法を説明する。
- ・口腔機能に応じた食形態や障害に応じた食器について説明する。
- ・疾病や障害に応じた食事摂取の方法について説明する。
- ・自立高齢者および要支援・要介護高齢者への口腔ケア支援の方法を理解し、技術を習得する。
- ・麻痺や特殊疾患等により口腔機能障害をもつ高齢者の口腔ケアの方法を理解し、基本的な介護を習得する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	高齢者口腔保健 加齢に伴う口腔機能の変化	高齢者の口腔と現状 加齢に伴う生理的な口腔機能の変化と疾病や障害などによる口腔機能の変化	白田、小野寺 遠藤、近藤
3, 4	歯科口腔介護	歯科口腔介護とは、口腔の健康維持・増進の必要性、歯科口腔介護の定義・目的・対象者介護予防とは	白田、小野寺 遠藤、近藤

5, 6	自立高齢者・ 要支援・要介護高齢者	高齢者の口腔機能評価と援助 口腔機能とは	白田、小野寺 遠藤、近藤
7, 8	要支援・要介護高齢者への 援助 1.	口腔機能向上とは、口腔機能訓練とは 機能を維持増進させる方法	白田、小野寺 遠藤、近藤
9, 10	要支援・要介護高齢者への 援助 2.	食事をとるということ 口から食べる意味	白田、小野寺 遠藤、近藤
11, 12	要支援・要介護高齢者への 援助 3.	口腔機能に応じた食べ物・飲み物、 障害に応じた食器	白田、小野寺 遠藤、近藤
13, 14	要支援・要介護高齢者への 援助 4.	口腔清掃・口腔機能訓練	白田、小野寺 遠藤、近藤
15	まとめ	まとめ	白田、小野寺 遠藤、近藤

授業計画 4 学年後期・選択 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1, 2	障害をもつ高齢者への 日常生活援助 1	姿勢と体位、更衣の援助	白田、小野寺 遠藤、近藤
3, 4	障害をもつ高齢者への 日常生活援助 2	運動・移動の援助：床上の移動、座位の保持、 歩行介助、車いすへの移乗	白田、小野寺 遠藤、近藤
5, 6	障害をもつ高齢者への 日常生活援助 3	疾病や障害に応じた食事（栄養摂取）摂取の方 法、床上における食事介助	白田、小野寺 遠藤、近藤
7, 8	口のはたらき	発声・発語、摂食・嚥下	大庭優香
9, 10	疾患や障害をもつ人々 への口腔ケア 1.	口腔機能訓練、疾患や障害を地域で支援する方 法、口腔ケアの展開、慢性疾患患者に対する口 腔ケア	白田、小野寺 遠藤、近藤
11, 12	疾患や障害をもつ人々 への口腔ケア 2.	特殊疾患患者・高次脳機能障害者に対する口腔 ケア	白田、小野寺 遠藤、近藤
13, 14	疾患や障害をもつ人々 への口腔ケア 3.	癌患者（頭頸部癌・口腔癌も含む）に対する口 腔ケア	白田、小野寺 遠藤、近藤
15	まとめ	まとめ	白田、小野寺 遠藤、近藤

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形式的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2005
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1・保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1・歯科補綴」 医歯薬出版 2009
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」医歯薬出版 2009
- ・臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア 舘村卓著 医歯薬出版 2009
- ・実践訪問口腔ケア 上巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 1999
- ・実践訪問口腔ケア 下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 2000

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp
小野寺光江 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp
近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	顎口腔機能リハビリテーション
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者	白田千代子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害に対する対応方法を理解する。

到達目標

- ・ 摂食・嚥下障害および言語障害の病因・病態・障害を説明する。
- ・ 摂食・嚥下障害および言語障害の治療・管理の必要性和流れを説明する。
- ・ 摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃及び保健指導を説明する。
- ・ 摂食・嚥下障害および言語障害に対する訓練法を説明する。
- ・ 摂食・嚥下障害への食事の対応を説明する。
- ・ 摂食・嚥下障害および言語障害に対するチーム医療を説明する。

授業計画 4 学年後期・必修 1 単位・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	顎口腔機能	顎口腔機能の種類と重要性	未
2	言語障害 1	言語障害の特徴	大庭優香
3	言語障害 2	言語障害の問題点	大庭優香
4	摂食・嚥下障害 1	摂食・嚥下障害の特徴と問題点	未
5	言語障害 3	言語障害の評価と診断	未
6	言語障害 4	言語障害に対する治療・指導	未
7	摂食・嚥下障害 2	摂食・嚥下障害の診察（スクリーニング含む）	未
8	摂食・嚥下障害 3	検査・評価法（VF）	戸原 玄
9	摂食・嚥下障害 4	検査・評価法（VE）	戸原 玄
10	摂食・嚥下障害 5	間接訓練	未

11	摂食・嚥下障害 6	直接訓練・段階的摂食訓練	戸原 玄
12	摂食・嚥下障害 7	摂食・嚥下障害への対応 (1 脳血管障害など)	戸原 玄
13	摂食・嚥下障害 8	摂食・嚥下障害への対応 (2 口腔咽頭腫瘍)	戸原 玄
14	摂食・嚥下障害 9	摂食・嚥下障害への対応 (3 訪問歯科診療)	戸原 玄
15	顎口腔機能と障害	顎口腔機能とその障害の考え方	未

評価方法

期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「わかる摂食・嚥下リハビリテーション I 評価法と対処法」 医歯薬出版
- ・「摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー」 南江堂
- ・「訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害のアプローチ」 医歯薬出版
- ・「歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学」 医歯薬出版
- ・「成人のコミュニケーション障害 入門講座コミュニケーション障害とその回復 2」 大修館書店
- ・「言語障害第 2 版 リハビリテーション医学全書 11」 医歯薬出版

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員（非常勤）

大庭優香（医学部附属病院 言語聴覚士）
戸原 玄（日本大学）

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・140 時間 4 学年前期・必修・40 時間 単位認定（4 単位）は 4 学年前期（40 時間）終了時に行う
科目責任者	品田 佳世子
ユニット責任者	品田 佳世子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応する。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応する。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明する。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明する。
- ・ 診療室への患児および保護者を適切に誘導する。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介する。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築く。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応する。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・ インフォームドコンセントを行う。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施する。

授業計画 4 学年前期・必修・40 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
---	------	------	-------

1-5	臨床実習ガイド ダンス	臨床実習ガイドダンス、オリエンテーション	歯学科教員、 歯科衛生士
6-40	矯正歯科外来 実習	矯正歯科外来における歯科診療の補助、歯科 保健指導、歯科予防処置	歯学科教員、 歯科衛生士

評価方法

- ・実習記録等により総括的評価を行う。
- ・実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「矯正歯科」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の Office hour

- ・品田佳世子 月・金 16:00-18:00 shinada.ohp@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年通年・必修 3 単位・135 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	歯学部附属病院内、歯学部 演習室

学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者が有する全身疾患について理解する。
- ・歯科診療における対象者の全身管理について理解する。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明する。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・対象者に挨拶して自己紹介する。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に成人に対し、歯科診療補助を実施する。

授業計画 4 学年通年・必修 3 単位・135 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、外来におけるオリエンテーション	吉増秀實 近藤圭子
6-61	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科保健指導	口腔保健学科臨床系教員 非常勤講師 佐々木好幸
62-66	合同クリニカル検討	歯学科と合同の症例検討	口腔保健学科教員、歯学科教員
67-93	歯周病外来	歯周病外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	歯周病外来教員、歯科衛生士
94-121	インプラント外来・顎義歯外来実習	インプラント外来における歯科診療の補助 顎義歯外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	インプラント外来教員 顎義歯外来教員、歯科衛生士
122-135	歯科麻酔外来実習	歯科麻酔外来における歯科診療補助	歯科麻酔外来教員

評価方法

- ・実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の office hour

- ・吉増秀實 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
- ・近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

佐々木好幸（う蝕制御学分野）

山崎美幸

岡田昌子

河野章江

小原由紀

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	高齢者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	白田千代子
主な授業場所	歯学部附属病院スペシャルケア外来診療室 1

学習目標

歯科診療施設において主に高齢者に対し、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者（主に高齢者）が有する全身疾患について理解する。
- ・歯科診療における高齢者の全身管理について理解する。
- ・対象者（主に高齢者）が有する心理的・精神的な問題について理解する
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明する。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・対象者に挨拶して自己紹介する。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に高齢者に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に高齢者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に高齢者に対し、歯科診療補助を実施する。

授業計画 4 学年前期・必修 1 単位・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス	大渡凡人
2-45	高齢者歯科外来（スペシャルケア外来 1）実習	スペシャルケア外来 1（全身疾患を有する高齢者を対象）における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導	大渡凡人

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、実技試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 大渡凡人著 医歯薬出版
- ・歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡邊誠、岩久正明監修 永末出版
- ・脳卒中患者の口腔ケア 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・高齢者歯科ガイドブック 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集 医歯薬出版
- ・はじめて学ぶ歯科口腔介護 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会
- ・日本老年歯科医学会監修高齢者歯科診療ガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の Office hour

大渡凡人 金 17:00-18:00 t.owatari.gerd@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	障害者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	品田 佳世子
ユニット責任者	近藤 圭子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科受診に対して障害を有する患者とスムーズにコミュニケーションをとった上で、患者が安心して歯科治療・予防処置・保健指導を受けられるように、知識を確認して、必要な基本的態度、専門的技術を身につける。

到達目標

- ・患者および保護者・介護者と挨拶、会話を交わす。
- ・患者を治療椅子へ導入する。
- ・治療中に、患者に対して、適切に言葉かけをする。
- ・精神鎮静法の準備・片付けをする。
- ・患者の全身状態、行動の観察をして、対応する。
- ・患者の情報収集・分析ができる。
- ・問診結果から、保健指導に必要な情報を分析して、活用する。
- ・保健指導記録を書くことができる。
- ・自分が行った指導について評価する。
- ・保健医療チームとして、歯科衛生士に必要な検査の知識と技術、倦怠の取扱方法を理解する。

授業計画 3 学年後期・必修 6 単位・270 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス	外来教員、 歯科衛生士
2-27	スペシャルケア外来 2 (障害者歯科) 実習	障害者歯科における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導	篠塚 修 歯科衛生士

28-45	歯科アレルギー外来、歯科心身医療外来、顎関節治療部、検査実習	歯科アレルギー外来における歯科診療補助、歯科心身医療外来における歯科診療補助、顎関節治療部における歯科診療補助、検査の実際	外来教員、歯科衛生士
-------	--------------------------------	---	------------

評価方法

実習記録提出、出席状況、ケース履修状況をもって、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎他編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とすることがある。

担当教員の Office hour

- ・篠塚 修 16:00-18:00 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
- ・品田佳世子 随時 shinada.ohp@tmd.ac.jp
- ・近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年通年・必修・45 時間 4 学年通年・必修・45 時間 単位認定（2 単位）は、4 学年後期終了時に行う
科目・ユニット責任者	遠藤圭子
授業担当者	遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室、演習室、小学校、病院 等

学習目標

対象に合わせた口腔保健活動を展開するために必要な知識と技術を実践的に理解するとともに、その能力を高める。

到達目標

- ・学童の歯科保健のニーズを判断して、活動内容を決定する。
- ・学童に対する健康教育を実施、評価して、次への健康課題を提示できる。
- ・入院患者の疾患の様子、全身状態、口腔内状態を把握する。
- ・入院患者に対する援助法を検討し、学生相互に実施する。
- ・高齢者に対する健康教育を企画、実施する。

授業計画 4 学年前期・必修・20 時間

回	授業題目	授業内容	担当者
1-3	オリエンテーション 学童対象健康教育 1	地域歯科保健活動とは	遠藤・近藤
4-6	入院患者の口腔ケア	看護学専攻・口腔保健学科合同授業の進め方、口腔ケアの実際	遠藤、白田、近藤
7-13	ベッドサイドにおける患者のケア	バイタルサイン、体位交換、着衣の補助、口腔ケアの実際（相互実習を含む）	白田、遠藤、近藤
14-20	歯科衛生活動の実際	口腔のアセスメント、実践内容の検討	白田、遠藤、近藤
21-26	学童対象健康教育 2	事前調査、健康課題検討、教材作成	白田、遠藤、近藤
27-34	H 小学校における健康教育実習	健康教育の実践と事後評価、報告書の作成	遠藤、近藤、白田

35-41	高齢者対象の健康教育 1	実習、事後評価	遠藤、白田
42-45	高齢者対象の健康教育 2	実習報告書の作成	遠藤、白田

評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

- ・ 事前配布資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・ 実習時の服装（ユニホーム、ナースシューズ、ネームプレートの着用、頭髪のまとめ方）、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

遠藤圭子 随時 usage.aohc@tmd.ac.jp

近藤圭子 随時 solan.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修・45 時間 } 2 単位 4 学年後期・必修・45 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	高齢者在宅サービスセンター、訪問歯科診療（居宅、高齢者施設）

学習目標

高齢者施設や居宅において、利用者の視点に立った口腔保健活動を実践するために必要な態度、知識、技術を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・居宅、施設などの特徴を理解して、利用者へのサービス内容を説明する。
- ・利用者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応する。
- ・口腔ケア、歯科診療に必要な機材を準備する。
- ・スタッフ、利用者、家族とコミュニケーションをとる。

授業計画

4 学年前期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-6	高齢者施設実習オリエンテーション	高齢者施設の概要と現状の理解 実習の意義と留意点、実習内容 実習報告書について	遠藤圭子
7-12	利用者の理解、コミュニケーション	現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方	遠藤圭子 白田千代子
13-18	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	事前情報収集・整理	遠藤圭子 実習先指導者
19-24	〃	口腔ケア計画（評価法を含む）	遠藤圭子 実習先指導者

25-30	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	口腔ケア実施	実習先指導者
37-42	実習報告、まとめ	実習報告書作成、今後の課題	遠藤圭子 白田千代子
43-45	利用者理解、スタッフ・利用者・家族とのコミュニケーションについての総括	利用者理解、スタッフ・利用者・家族とのコミュニケーションのとり方について振り返り	遠藤圭子

4 学年後期・必修・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
46-51	訪問診療実習オリエンテーション	訪問診療の概要と現状の理解	遠藤圭子
52-57	訪問診療実習	事前情報収集・整理	白田千代子
58-72	〃	口腔ケア計画、実践、評価	実習先指導者
73-77	実習報告、まとめ	実習報告書作成、事後評価、今後の課題	遠藤圭子
78-84	口腔ケア総括	高齢者の口腔ケア 専門職種の活動内容	白田千代子 遠藤圭子
85-90	発表	実習報告書作成、事後評価、今後の課題	遠藤圭子 白田千代子

評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

- ・ 事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。また、服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2005
- ・ 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1・保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010
- ・ 臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア 舘村卓 医歯薬出版 2009

- ・実践訪問口腔ケア 上巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 1999
- ・実践訪問口腔ケア 下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 2000

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

白田千代子 随時 hakuta.gohc@tmd.ac.jp

遠藤圭子 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	選択臨床・臨地実習
ユニット名	選択臨床・臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年通年・必修 1 単位・45 時間
科目責任者	遠藤圭子
ユニット責任者	遠藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院、学外施設

学習目標

既習の臨床実習および臨地実習で関心を抱いた場での実習、また学会等への参加、ボランティア活動を通して、その領域の知識、技術を深める。特別な配慮が必要な対象者に対して、対象者本位の口腔保健活動を実施するための、態度、知識、技術を習得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、生活上の問題を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応できる。
- ・歯科衛生過程の各段階の意味を理解して、実施できる。
- ・評価結果から、次の課題が提示できる。
- ・専門職間の連携について説明できる。
- ・対象とする方の生活背景を理解して、対応できる。
- ・実習報告書が作成する。

授業計画 4 学年前後期・必修 1 単位・45 時間

他の臨床実習・臨地実習の日程内で、演習・実習する。

評価方法

実習報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

版

- ・最新歯科衛生士教本「歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨床実習」 クインテッセンス出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨地実習」 クインテッセンス出版

留意事項

- ・事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業形態	講義、演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修・60 時間 4 学年後期・必修・120 時間 単位認定（6 単位）は4 学年終了時に行う
科目責任者	吉増秀實
ユニット責任者	吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室、第3 講義室

学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめ発表する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-37	研究実施	研究計画に基づく研究の実施とフィードバック、研究データの整理分析	口腔保健学科 教員、歯学科 指導教員
38-43	研究中間発表会準備	中間発表会プレゼンテーションの作成	同上
44-50	研究中間発表会	研究結果の中間発表と討論	同上

51-90	研究の再検討と実施、研究論文の作成準備	中間評価に基づく研究の進め方の再検討、研究の際実施、研究データの整理・分析、研究論文概要版の作成	同上
91-99	研究成果報告会準備	研究成果報告会プレゼンテーションの作成	同上
100-106	研究成果報告会	研究成果の発表と討論	同上
107-120	論文の作成	研究成果報告会での討論、コメントを加味して卒業研究概要版をアップロードし、かつ本論文を提出	同上

評価方法

- ・ 研究中間発表会での発表により総括的中間評価を行う。
- ・ 研究成果報告会での発表により、口腔保健衛生学専攻全教員による総括的評価を行う。
- ・ 単位認定（6単位）は、3年次から各課題（論文抄録、研究計画書、中間発表会プレゼンテーション用ファイル、成果報告会プレゼンテーション用ファイル、卒業研究論文概要版）のBlackboardへの期限内提出、本論文、研究進行表の提出により行う。

参考図書等

- ・ 「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・ 「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」、金澤紀子、武井典子、合場千佳子、岩久正明 編、医歯薬出版
- ・ 「医薬研究者の視点からみた道具としての統計学」、奥田千恵子、金芳堂
- ・ 「SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

留意事項

- ・ 常に指導教員、副指導教員と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表の各月欄に認印をもらうこと。
- ・ 平成24年12月末日までに卒業研究論文概要版（A4/6枚）をBlackboardに提出すること。
- ・ 平成25年2月末日までに卒業論文本論文（A4/10枚程度、表紙、要約、アンケート用紙等を含む）を指導教員、および礼状を添えて研究でお世話になった施設等に提出すること。

担当教員の office hour

吉増秀實 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

科目名	就労支援サービス
ユニット名	就労支援サービス
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・選択・15 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・ 各種の就労支援制度や就労支援に係る組織・専門職、就労支援分野との連携について理解する。

到達目標

- ・ 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について説明できる。
- ・ 就労支援に係る組織、団体及び専門職について説明できる。
- ・ 社会福祉士と就労支援分野の連携について説明できる。

授業計画

4 学年後期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
1	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、就労支援の概説	
2	労働の意義	労働の意義（講義及びグループ討議）	
3	キャリア発達と就労支援	キャリアとキャリア発達（講義及びグループ討議）	
4	雇用・就労の動向	雇用支援が必要な人たちの課題と社会情勢の影響	
5	労働施策の概要	労働法規及び就労支援に関する法律の概要	
6	就労支援制度の概要 1	低所得者の人たちを支援する就労支援制度	
7	就労支援制度の概要 2	障害のある人たちを支援する就労支援制度	
8	就労支援サービスの実施体制 1	行政機関（国、地方自治体、ハローワークなど）による就労支援サービス	
9	就労支援サービスの実施体制 2	職業リハビリテーション専門機関による就労支援サービス	

10	就労支援に係る専門職の役割と実際 1	社会福祉士と就労支援サービス、事例検討	
11	就労支援に係る専門職の役割と実際 2	社会福祉士以外の専門職による就労支援サービス、事例検討	
12	就労支援分野との連携と実際 1	ハローワークを中心とした就労支援サービスの連携状況	
13	就労支援分野との連携と実際 2	職業リハビリテーション専門機関を中心とした就労支援サービスの連携状況	
14	就労支援分野との連携と実際 3	教育機関（特別支援学校等）を中心とした就労支援サービスの連携状況	
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の Office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	福祉行財政と福祉計画
ユニット名	福祉行財政と福祉計画
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・選択・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・福祉行財政の実施体制および福祉計画の意義・目的、計画の主体・方法などについて理解する。

到達目標

- ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市区町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明できる。
- ・福祉行財政の実際について説明できる。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明できる。

授業計画

4 学年後期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
1, 2	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の説明	
3-4	福祉行政の実施体制 1	福祉事務所や児童相談所などの福祉行政組織	
5, 6	福祉行政の実施体制 2	福祉行政で働く社会福祉士の役割	
7, 8	福祉行財政の動向 1	国・都道府県における福祉行財政の動向	
9, 10	福祉行財政の動向 2	市区町村における福祉行財政の動向	
11, 12	福祉行財政の課題と 展望	国・都道府県・市町村の財政状況と福祉行財政	
13, 14	福祉行財政の実際	統計資料および事例に基づく福祉行財政の実態	
15, 16	福祉計画の意義と目的	行政の総合計画と福祉計画、福祉計画の法的根拠など	
17, 18	福祉計画の主体	福祉計画づくりにおける主体と専門職、住民の関わり方	

19, 20	福祉計画の方法	P D C Aサイクルやマネジメント過程などの計画理論	
21, 22	福祉計画の実際 1	国・都道府県・市区町村の関係性からみた福祉計画	
23, 24	福祉計画の実際 2	都道府県行政による各種計画と福祉計画の位置づけ	
25, 26	福祉計画の実際 3	市区町村行政による各種計画と福祉計画の位置づけ	
27, 28	福祉計画の実際 4	地域福祉計画と地域福祉活動計画の事例	
29, 30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の Office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	福祉サービスの組織と経営
ユニット名	福祉サービスの組織と経営
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・選択・30 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論およびサービス経営と管理運営の特徴について理解する。

到達目標

- ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について説明できる。
- ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について説明できる。
- ・福祉サービスの経営と管理運営について説明できる。

授業計画

4 学年後期・選択・30 時間

回	授業題目	授業内容	担当 教員
1, 2	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の概説	
3, 4	福祉サービスの組織や団体 1	社会福祉法人、NPO法人、営利法人、市民団体、自治会・町内会など	
5, 6	福祉サービスの組織や団体 2	福祉サービス提供組織の定義、組織の特徴など	
7, 8	福祉サービスの組織や団体 3	福祉サービス提供組織の社会的役割、運営の実態や課題	
9, 10	福祉サービス提供組織の経営 1	福祉サービス提供組織の経営の実際	
11, 12	福祉サービス提供組織の経営 2	福祉サービス提供組織の経営を支える財務と会計	
13, 14	福祉サービス提供組織の経営と法令 1	行政法、民法、個人情報保護法などの関連制度と組織の運営基準	

15, 16	福祉サービス提供組織の 経営と法令 2	人事考課、労働関連法、育児・介護休業法、安全衛生管理	
17, 18	経営と組織づくり 1	組織に関する基礎理論、組織間ネットワーク、チームアプローチ、リーダーシップ	
19, 20	経営と組織づくり 2	キャリア・パスの概要（仕組みと意義）、職員研修システム、OJT、OFF-JT	
21, 22	経営と組織づくり 3	職場のメンタルヘルス対策（現状と課題）	
23, 24	経営と組織づくり 4	リスクマネジメント、サービス評価の仕組み	
25, 26	経営と組織づくり 5	スーパービジョン体制、苦情解決の仕組み	
27, 28	福祉サービス提供組織と 社会福祉士	福祉サービス提供組織における社会福祉士の役割と位置づけ	
29, 30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の Office hour

品田佳世子 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習
ユニット名	社会福祉相談援助実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期（夏季集中）・選択
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	大塚絃未
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

- ・社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

授業計画 4 学年後期（夏季集中）・選択

実習日程等については、3 学年後期（春季実習）の実習期間に基づき決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

担当教員の Office hour

大塚 絃未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習指導
ユニット名	社会福祉相談援助実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期（夏季集中）・選択・29 時間 4 学年後期・選択・29 時間
科目責任者	品田佳世子
ユニット責任者	大塚紘未
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明できる。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に体験し、経験知として説明できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化できる。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理できる。

授業計画

4 学年前期（夏季集中）・選択・29 時間

回	授業題目	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	春季実習の振り返り（学習成果・課題の整理）、夏季実習の説明	専攻教員、 大塚
2	夏季実習の事前学習	夏季実習をおこなう社会福祉施設・機関の特徴の理解、実習をとおした学習目標の検討など	専攻教員、 大塚
3-8	実習計画の検討(1)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
9-17	実習計画の検討(2)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、

			大塚
18-25	実習計画の検討(3)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
26-29	実習計画の検討(4)	実習計画に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚

4 学年後期・選択・29時間

回	授業題目	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション	夏季実習の振り返り（学習成果・課題の整理）と事後学習の説明	専攻教員、 大塚
2	夏季実習の事後学習	夏季実習の学習成果・課題の整理	専攻教員、 大塚
3-8	実習のまとめ(1)	集団討議、事後学習に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
9-17	実習のまとめ(2)	集団討議、事後学習に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
18-25	実習のまとめ(3)	集団討議、事後学習に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚
26-29	実習のまとめ(4)	集団討議、事後学習に対する教員の個別指導	専攻教員、 大塚

評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。（4年後期）

参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

担当教員の Office hour

大塚紘未 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp